

平成25年度
自治協議会の運営基盤強化に向けた支援事業
取組み事例集

平成26年3月

福岡市

目 次

I	はじめに	P1
II	本事業の概要	P1
III	取組み事例	
1	テーマ「人材の発掘・育成」	
(1)	東区名島校区自治協議会 ～「名島校区のまちづくりを考える」～	P2
(2)	南区西高宮校区自治連合会 ～みんなが出番のまちづくり～	P9
(3)	城南区片江校区自治協議会 ～これからの地域に本当に必要なものは何か～	P16
(4)	博多区自治協議会長連絡協議会 ～住みよいまちをみんなで作るために～	P23
2	テーマ「町内会への加入促進」	
(1)	中央区高宮校区自治協議会 ～コミュニティ活動への全員参加をめざして～	P29

- 3 テーマ「魅力ある校区づくりを目指して」
- (1) 西区金武校区自治協議会 P40
～ようこそ金武校区へ～
- (2) 東区松島校区自治協議会 P47
～現状を踏まえ10年先の松島校区の将来像を考える～
- 4 テーマ「組織体制の見直し」
- (1) 東区香椎下原校区自治協議会 P56
～より連携のひろがりのある体制づくりに向けて～
- (2) 東区和白校区自治協議会 P66
～より連携のひろがりのある体制づくりに向けて～
- 5 テーマ「高齢化等地域の課題に対応する新しい自治組織の創造」
- (1) 早良区四箇田校区自治協議会 P75
～自治協議会の委員会組織を見直そう～
- 6 テーマ「自治会・町内会の活性化」
- (1) 東区千早西校区自治協議会 P82
～よりよい町内会運営に向けての課題の共有～

I はじめに

福岡市では、平成16年3月に、昭和28年から50年間続いた町世話人制度を廃止し、平成16年4月から自治協議会制度を開始しました。

現在、市内の147校区・地区に自治協議会が設立され、防災や防犯、交通安全、子どもたちの健全育成、環境美化などのさまざまな活動を通じて、住民が安全・安心で快適に暮らせるまちづくりに取り組んでおられます。

一方で、住民自治意識の希薄化や活動への参加者の減少・固定化、役員の担い手不足、自治会・町内会の加入率の低下などの問題が深刻な状況にあります。

そのような課題の解決を図るため、平成25年度に「自治協議会の運営基盤強化に向けた」ワークショップや勉強会などが各校区で開催されました。

それらを取りまとめた取組み事例集を、今後の地域課題の解決のための一助になればと思い、作成しております。

この「取組み事例集」が、皆さまの活動のお役に立てれば幸いです。

II 本事業の概要

1 目的

「自治会・町内会の加入率の低下」や「役員の担い手不足」といった多くの地域が抱える課題について、自治協議会における原因分析や解決に向けた対応策の検討の取組みを支援することにより、地域自らが課題解決に向けて踏み出すことを促すとともに、そこで得られた有効なノウハウや工夫を全市で共有することにより、自治協議会の運営基盤の強化を図る。

2 事業内容

ワークショップや勉強会の開催、記録等の作成にあたり、区役所が運営及び経費負担等の支援を行うもの。

また、7区分の取組みを「事例集」として取りまとめ、全市で共有し、活用を図る。

Ⅲ 取組み事例

1 テーマ「人材の発掘・育成」

(1) 東区名島校区自治協議会

～「名島校区のまちづくりを考える」～

名島校区のデータ（平成25年9月30日現在）

○人口 15,651人（男7,626人，女8,025人）

○世帯数 6,829世帯

○自治会・町内会数 32団体

○校区の特徴

名島校区は、神功皇后ゆかりの天然記念物「檣石（帆柱石）」や小早川隆景が構築した名島城址、リンドバーグも訪れた名島水上飛行場、岩見重太郎生誕の地など、歴史上重要な役割を担った地域で、歴史的資源の豊富な校区です。

① テーマの選定及びその背景

名島校区では、公民館や小学校体育館でのサークル活動が盛んであるが、自治会や自治協議会等の活動には、まだまだ関わりが少ない方が多い。

地域活動への「関心」を高め、「参加」し、将来の「担い手」への人材発掘という段階を経ていくなかで、参加が難しい若い世代の方々の意見を聞く場をつくり、自治会や自治協議会などの地域コミュニティの組織や取り組みを知るとともに、各種団体の方々と知り合い、その関係を基に地域活動への「関心」・「参加」を促す。

そのため、「名島校区のまちづくりを考える」をテーマにワークショップを開催し、現状把握と対応策の検討を進めることとした。

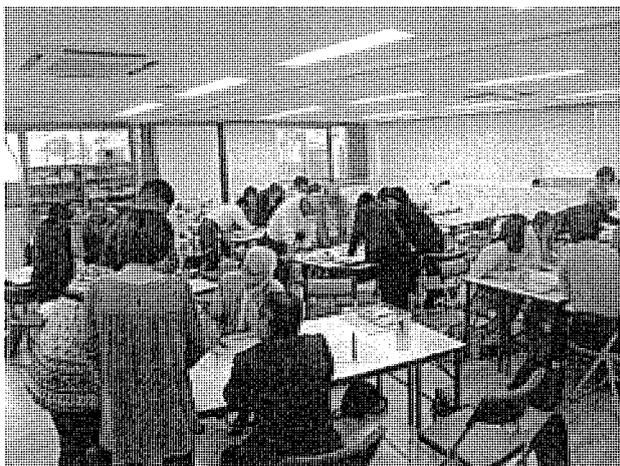
② ワークショップの開催状況

外部講師として貞清 潔氏（福岡市地域活動アドバイザー）をお招きし、自治協議会・公民館サークル・PTA・子ども会育成連合会・青少年育成連合会が参加して、名島公民館でワークショップを2回開催した。

	日時	主な内容	参加数
第1回	9/26（土）15:00～17:00	各自治会等の現状と課題	45人
第2回	11/9（土）15:00～17:00	目指すべき姿・目標像について	48人

ア 第1回ワークショップ

(ア) プログラム



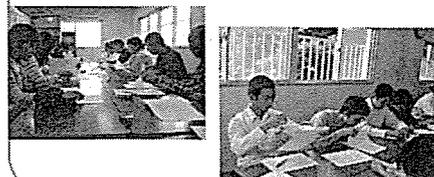
- 1 開会・あいさつ
- 2 校区の現況と取り組み
- 3 <ワークショップ>
 - ①プログラムの紹介
 - ②参加者紹介とグループ分け
 - ③校区を思い起こす
 - ④名島校区の現状は？
 - ⑤発表
- 4 閉会

(イ) 校区の現況と取り組みについて

自治協議会の概要や取り組みについて、明石公民館主事より説明しました。

中学生と作るふるさとカルタづくり

名島の名所旧跡を折り込んだ読み札づくり



(ウ) ワークショップの成果

㊦ 校区を思い起こす

白図を使って校区の主要な資源を着色し、校区の骨格をなす道路や鉄道等、歴史的な資源など、名島の特徴を知り合いました。

㊧ 名島校区の現状は？

自治協議会等の取り組み、名島校区の資源などを踏まえ、校区の現状（魅力と問題点）を知り合い、共有しました。

まず各自で、付箋紙に、日ごろ感じている名島の良いところ（赤）、気になること（青）を書き出しました。（各3枚程度）

その後グループで、一人ひとりが、良いところと気になることを紹介し合い、付箋紙を模造紙に置いていきました。

付箋紙を模造紙に置き終わったら、同じような内容をまとめ、タイトルをつけました。



■名島校区の良いところ・気になるところのまとめ

良いところ	現状	気になるところ
<p>自然がいっぱい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多々良川, 名島海岸, 丘 (山) ・野鳥 ・公園 ・散策 	<p>自然環境</p>	<p>マナーが悪い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ, たばこのポイ捨て ・名島海岸のごみ
<p>歴史のまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名島城址等の歴史的な遺産 ・古い住宅 ・散策 	<p>歴史</p>	
	<p>安全・安心 (道路) (不審者)</p>	<p>住宅地内の道路の狭さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活道路, 通学路の危険 ・抜け道 <p>不審者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街灯のない暗い場所
<p>子育ての環境が良い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一小一中 ・子ども達を中心にした活動 ・地域の方々の見守り 	<p>子ども教育</p>	<p>一小一中への不安</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生活への不安
<p>地域活動が活発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事が盛ん ・公民館活動が盛ん 	<p>地域活動</p>	<p>地域活動の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事, イベントが多い ・新旧住民の交わりの少なさ <p>役員の担い手</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員の高齢化 ・役員の引き受けて <p>東西に長い校区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名島⇄松崎 ・国道や鉄道による分断
<p>交通の便が良い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR, 西鉄, 幹線道路 ・天神, 空港へのアクセスが良い <p>買い物に便利</p> <ul style="list-style-type: none"> ・銀行, 郵便局 	<p>利便 (公共交通) (アクセス) (店舗)</p>	<p>商店街の衰退</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店がさびれている ・スーパーがない (撤退)

イ 第2回ワークショップ

(ア) プログラム



- 1 開会・あいさつ
- 2 ワークショップの目的と
プログラム
- 3 参加者紹介・グループ分け
- 4 前回の振り返り
- 5 現状を確認する
- 6 名島の目指すべき姿・目標像
を考える
- 7 閉会・あいさつ

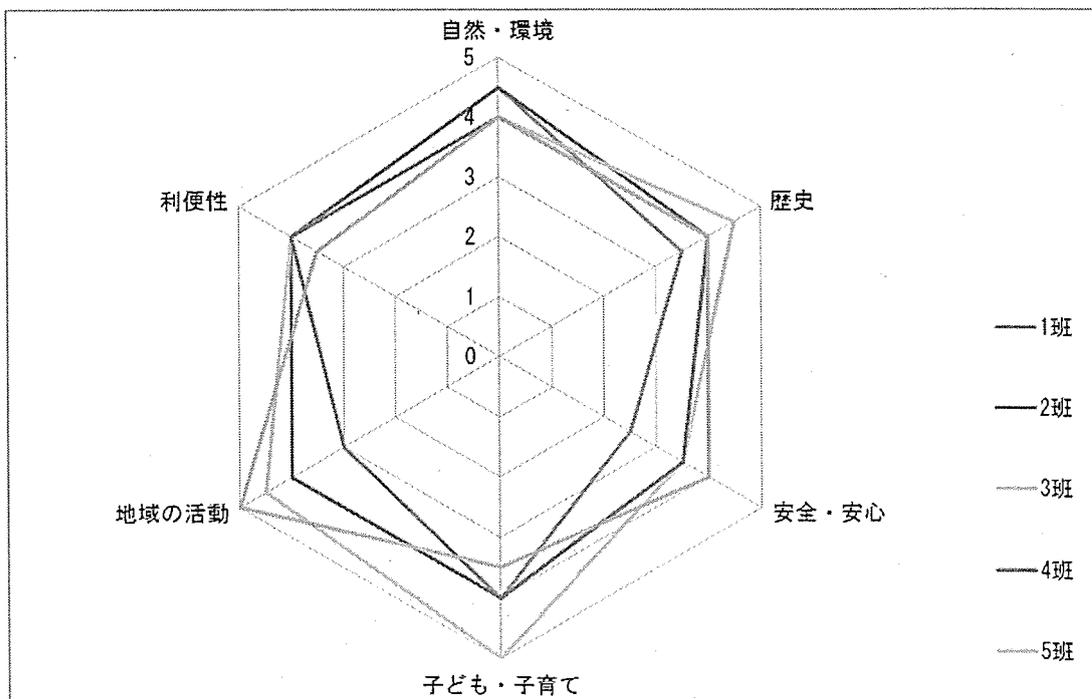
(イ) ワークショップの成果

㊦ 現状を確認する

前回の現状のまとめを基に設定された6つの切り口（「自然・環境」「安全・安心」「人のつながり」「子どもの育成」「健康・福祉」「利便施設」）ごとに評価とその理由をグループで話し合い、校区の現状を再確認しました。

まず個人で6角形のシートを使って、現状に対する評価を5点満点で行いました。

その後、グループで高い評価（良い）の理由、低い評価（悪い）の理由を話し合い、ポストイットに記録しながら、グループとしての評価をまとめました。



ウ 名島の目指すべき姿・目標像を考える

現状の確認（評価とその理由）を踏まえ、将来の目指すべき姿・まちづくりの目標像を考え、話し合いました。

まず個人で「〇〇な名島になったらいいなあ」「〇〇な名島にしたい」など、名島の目指す姿・目標像を思い描いて、ポストイットにそれぞれ3枚以上書き出し、次にグループ内でそれぞれが思い描く名島の目指す姿・まちづくりの目標像を伝え合いました。

グループ内で同様の考え方の目指す姿・まちづくりの目標像を分類し、「〇〇な名島」「〇〇が〇〇している名島」など、具体的な状況やシーンが思い浮かぶような目標を分類ごとにタイトルをつけました。

■名島校区の目指すべき姿・目標像のまとめ

各班のまちづくりの目標	項目（テーマ）
自然を大切にする町に 美しいまち名島 自然豊かな名島 名島の付加価値は自然です	自然を残す 美しい環境づくり
歴史を誇れるまち名島	歴史を誇る
防災を考える	防災を考える
夜でも明るい町に 安全なまち名島 長く住みたい名島 住みやすい名島	明るく安全に 歩きやすく
子ども会の盛んな町に 誰もが参加するまち名島 笑顔あふれる名島	子ども会の活動活性化
活発な地域活動の名島（責任を持った） 信頼・キズナが看板・財産（資本）です 世代間のコミュニケーションがとれる町に あいさつできる名島 なじま星	世代間の交流 参加しやすい地域活動
高齢者も買い物できる町に 買い物しやすいまち名島 便利な名島 小さいお願い	高齢者にも便利な環境づくり （買い物）

エ 地域活動への関心を高める、参加を促すための一言

現状を知り合い、目指すべき目標について話し合ったことを踏まえ、多くの住民の方々に地域活動への関心を高める、また参加を促していくために大切なことや必要なことを一言書き出しました。

○声かけ

- ・声かけを続ける
- ・各町内でこれまで以上に声かけ合う（体育祭並に）

○伝える

- ・参加した人の楽しい感想をみんなに伝える
- ・名島公民館行事に参加する
- ・参加していない人に楽しいことを伝えていくこと

○広報

- ・大変難しいけど、情報発信と声かけを懲りずに
- ・もう少し回覧板の活用を
- ・広報を積極的に（公民館便り等で）
- ・行事の周知が回覧のみのもものが多く、見流すことが多いと思う。回覧も遅い

○子どもを中心とした活動

- ・子ども参加型にする
- ・子どもの頃から地域に関心を持ってもらうために、子ども会の地域参加を促進する

○楽しめる行事の工夫

- ・誰でも参加できて楽しめる行事を企画する

○組織運営、行事の見直し

- ・組織、行事を抜本的に見直す
- ・その人の能力が活かせる分野の提供にたける
- ・担当部署をつくる
- ・参加に対してのインセンティブ+指名、割り当て
- ・おやじの会スタイルで強制しない範囲で誘い続ける
- ・メリット・デメリットをしっかりと伝える（思い違い、デマが多い）



③ まとめ

地域課題の解決に向けて地域活動の活性化が求められるなか、地域自治組織の体制強化は大きな課題となっています。

公民館サークルやPTA、子ども会育成会などの方々は、公民館に出入りし挨拶程度はあるものの、自治協議会の役員の方々と面と向かって話し合う機会は少ない状況です。しかし、これからの地域活動を担うことになる世代の方々であり、そのかたがたの校区への思いや意見を知ること、また自治協議会の役員の方々と知り合うことは、よりよい地域づくりに向けた意識の共有をはじめ、人材の発掘など、これからの校区のまちづくりを話し合っていく環境づくりの一つとして、体制強化につながる取り組みとなったと考えられます。

今回のワークショップを通じて、基盤強化に向けて得られたことを以下に整理します。

○話し合う場づくりと参加の呼びかけ

今回のワークショップは、若い世代の方々に名島校区を知ってもらい、また、どんな思いを抱いているのかを知り合う、話し合いの場を設けました。また参加者の募集には、チラシと実際の声掛けにより呼びかけ、普段参加しない若いお母さん方の参加もみられました。

子どもを中心とした活動に対する人の優しさを指摘する意見もワークショップでは多く聞かれ、話し合う場と参加の呼びかけ（お誘い）の重要性が改めて示されました。

○名島校区、自治協議会などの取り組みを知り合う

これまで校区が取り組んでいる活動を紹介するとともに、ワークショップの位置プログラムの中で、地図を使った名島の思い起こすグループ作業を行いました。

今まで知らなかった校区の歴史について自治協議会の役員の方々が熱心に語り、若い方々が聞き入りました。また、世代の違いによる現状の感じ方の違いなど、話して初めて気づくことも多く、話し合うことによって改めて気づく、知り合うことの重要性が示されました。

○皆が共通に思える目標の実現に向けた取り組みを語り合う

若い方々を交えて校区の将来のことについて話し合う機会が少なかったこともありますが、世代に共通して、歴史や安全・安心、住みよいまちづくりを求めており、皆が共通に思える目標を見出せました。その実現に向かって、今、自分にできることは何か、考えるきっかけになっていくことを期待していきたいと考えます。

○活発な行事と多すぎる行事を見直す

名島校区では、自然や歴史をはじめ、子どもを中心にした交流など、活発に活動が行われています。ただし、今回のワークショップでは、そうした活発な行事ゆえにその負担も指摘する声も聞かれました。

若い世代の方々にも名島校区への関わりを多く持ってもらうためにも、良いところは継承し、省くことができることは省くことも求められています。老いも若きも素直に意見が言える環境をつくり、さまざまな方の出番や居場所をつくることで、さらなる校区への理解や地域活動への新たな参加も期待されると思われます。

(2) 南区西高宮校区自治連合会

～みんなが出番のまちづくり～

西高宮校区のデータ（平成 25 年 9 月 30 日現在）

○人 口 17,342 人（男 7,822 人，女 9,520 人）

○世 帯 数 8,199 世帯

○自治会・町内会数 28 団体

○校区の特徴

- ・都心部に近く西鉄天神大牟田線平尾駅・高宮駅に隣接した交通利便性の高い地域。
- ・都心に近い割には緑が多く交通の便もよいため、マンションが数多く建設されている。
- ・人口は区内全 25 校区中で 1 番多く、人口密度も 1 番高い。世帯数は 2 番目に多い。
- ・町内会数においても 25 校区中で 1 番多く、28 町内ある。
- ・過去 10 年間（2000～2010 年・国勢調査ベース）で人口が 11.7%増加。（南区 1.9%増）。
- ・西高宮小学校の児童数(1,045 人)は、区内全 25 校区中、最も多い。

① テーマの選定及びその背景

西高宮校区には、28 団体の町内会があるが、役員のなり手探しに苦慮している町内会も多く、地域活動の維持・活性化のためにも、次代を担う人材（人財）の発掘・育成の推進を校区課題のひとつに位置づけていた。

そのため、「役員の担い手づくり～みんなが出番のまちづくり～」をテーマにワークショップを開催し、役員等の現状認識の共有を図るとともに今後の対応策の検討を進めることとした。

② ワークショップの開催状況

外部講師として十時 裕氏（福岡市地域活動アドバイザー）をお招きし、各町内会、各種団体から 1～2 名が参加して、西高宮公民館でワークショップを 3 回開催した。

	日 時	主な内容	参加数
第 1 回	9/24 (火) 19:00～21:00	参加者の関係づくり，地域活動の棚卸し	54 人
第 2 回	10/25 (金) 19:00～21:00	現状・課題について意見交換・検証	46 人
第 3 回	11/28 (木) 19:00～21:00	今後あるべき活動について意見交換，提案	39 人

ア 第1回ワークショップ

(ア) これからのまちづくりのシナリオ

講師によるパワーポイントを使った地域活動の現状、対話（ワークショップ）の重要性を説明

- ・地域活動への期待（共働の必要性）
- ・みんなの出番，みんなの安心
- ・対話による地域課題の解決

（資料1 「ワークショップの意義」「対話の重要性」 P 1 3 参照）

(イ) 参加者の関係づくり（グループ分け，自己紹介）

（資料2 「グループ分け」 P 1 3 参照）

他己紹介シート（似顔絵も入り）を作成し，紹介を行った。

※参加者には，「気が和めた」と好評であった。



(ウ) 地域活動を見直す（講師から説明，グループワーク）

- ・アンケートに見る地域活動

市民の地域活動アンケートの予測クイズ（地域活動の評価と参加度）

(エ) 地域の動きの把握（グループワーク）

- ・西高宮の地域活動の棚卸

校区活動と町内活動，課題を出し合った。

（資料3 「西高宮地域活動」，資料4 「課題一覧表」 P 1 4 参照）

（気づき）

- ・西高宮校区の特徴として，町内会の独自の活動が少なく，自治協議会を中心とした校区全体の活動・事業が多い。特に夏から秋にかけての行事が目白押しである。
- ・校区の問題として担い手不足が浮き彫りに。



イ 第2回ワークショップ

(ア) 前回の振り返り，前回のグループワークを元に作成した「課題一覧表」，【西高宮地域活動】を元に講師が説明

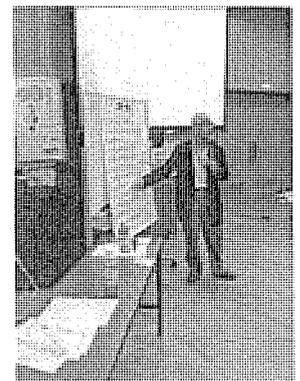
（資料3 「西高宮地域活動」，資料4 「課題一覧表」 P 1 4 参照）

(イ) グループ分け，自己紹介

(ウ) 地域活動の現状（課題） 講師が説明

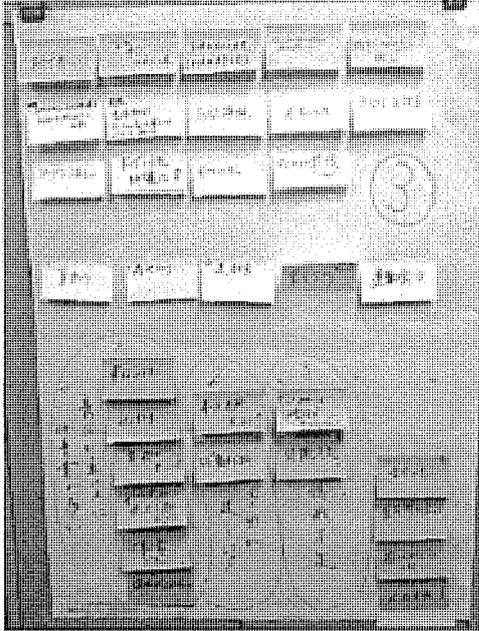
- ・低迷，苦慮している（課題を見る）
- ・負のスパイラル検証（資料5 「負のスパイラル」 P 1 4 参照）

※負のスパイラルの説明の時は，会場からのうなずき，ため息の声が上がった。



(エ) 今後あるべき活動と問題点 (グループワーク)

【結果】



(今後の残したい活動として多かった意見)

※各自2事業まで選出

1	運動会
2	夏まつり
3	清掃
4	防犯・防災・安全・パトロール
5	廃品回収
6	通学路見守り
7	新池まつり
8	ふれあいネットワーク
9	老人クラブ活動
10	もちつき

(担い手不足の問題点での意見)

住民が無関心

協調性の欠如

認識不足

やることが多い

面倒

手当が少ない

自分の時間をとられる

夫婦ともに働いているので忙しい・時間がない

若手の参加が少ない

利己主義の増大

人の世話までしたくない

必要性や魅力を感じない

責任が重い上に仕事量が多い

大変そう

自分の生活が忙しい(利己的)

出ごとの多い

転勤がある

マンションが多い

など

ウ 第3回ワークショップ

(ア) 前回の振り返りと前回のグループワークを元に作成した「苦慮している課題」「改善テーマ」を講師が説明。

(資料6 「苦慮している課題と改善テーマ」 P14参照)

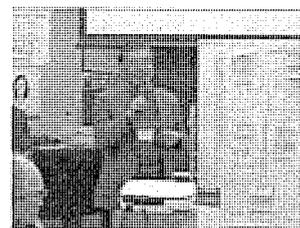
(イ) グループ分け, 自己紹介

(ウ) 改善テーマについてグループワーク (ワールドカフェ方式)

(資料7 「ワールドカフェ」 P15参照)

(エ) 発表 各グループの代表者が発表

改善テーマ	グループでの意見のまとめ
仕事, 出事を減らす	仕事を楽しむ
	仕事を分担しありがたい一言を
	時間を決め会議の準備をして臨む
見合った報酬	町内会長, 各種団体会長, 条件が相違するので, 一律に考えるのは, 難しい。報酬問題は難しい。
	町内会の戸数が平均するように区割りをする。その上で平均化した報酬に変える。
活動の見直し	校区行事を減らす。運動会, 夏祭りを2年に1回にしては(予算が楽になる。マンネリ化を防ぐ)。
	子どもは全員子ども会員に
	団体の事業のPR
交流, 知り合う コミュニケーション	あいさつ
	子どもが自動的に子ども会へ入会する仕組みを
	行事後の活動報告をしっかりとやる
広報, 発信(楽しく)	ホームページを開設するために, 自治連合会が音頭を取り, 作成する若手を見つけ, 早くとりかかりたい。
	難しい問題であるが, 区役所からの情報開示を(賛否両論)



③ まとめ

ア 成果

- ・「役員の担い手づくり」をテーマに, 普段議論ができない地域コミュニティの根本に関すること, また, 議論しにくい報酬やイベントの多さなどについて, 和やかな雰囲気の中で, 自治協, 町内会, 各種団体の役員等で話し合えた。
- ・対話の重要性を学び, ワークショップ形式を経験したことは今後の活動の参考になったのではないかと。
- ・「行事の回数を検討しよう」「会議を短くしよう」等これまで触れられなかった事柄についての意見に対し, 多くの共感の声が出ていた。

イ 今後の取り組みについて

- ・参加者のグループワークでの意見, アイデアの段階ではあるが, 今後の取り組みに関する事項が多く出された。どのように実現していくかという課題はあるものの, 見直そうという機運が高まっている。

ウ 取り組みに必要な作業(準備)と役割分担について。

- ・参加の呼びかけを町内会, 各種団体の会長とそれぞれの会長からの推薦者1名に行い, 現在苦勞している立場からの意見(つぶやき)と今後活動を担われるであろう人の意見を伺うこととした。多数の参加をいただいたが, 計3回のワークショップを1か月間隔で全て平日夜に開催したこともあって, 徐々に人数が減った。振り返りの資料等を次回開催前にお配りするなど次回参加を促すフォローが必要でなかったかと思う。

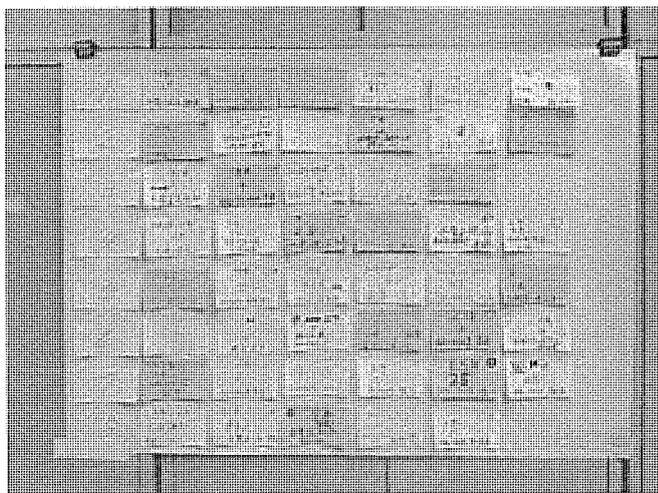
【資料1】（ワークショップの意義、対話の重要性 など 講師説明の一部）

<p>～まちづくり～</p> <p>従来 ● 会議型</p> <p>今回 ● ワークショップ型 (参加型)</p>	<p>ワークショップ5つの‘合う’</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 知り合う ② 語り合う ③ 認め合う ④ 折り合う ⑤ 寄り合う 	
--	--	--

<p>対話は人と人との関係 をつくり 個を築き、生活を豊かに 楽しくする</p>	<p>対話</p> <p>話し合いを通じて、テーマの本質、意味を探求し発見する</p> <p>▼</p> <p>参加や行動を探る</p>	<p>気づきの基本は、 情報（状況）の共有</p> <p>▼</p>
--	--	--

【資料2】（グループ分け）※毎回グループ分け直後に（自己）紹介

	班数	分け方	留意点
第1回	9	・在住年数 ・地域の評価	○話しやすい場、間を設ける ○想い（つぶやき）を引き出す。
第2回	8	・役員になったきっかけ ・地域活動歴	1. 同じ町内にならないように 2. 点数、在住年数がばらけるように
第3回	7	・議論したい改善テーマ (第2希望まで)	1グループ5～6名 極力、全テーマ1グループは作る。
		町内・性別は共通	



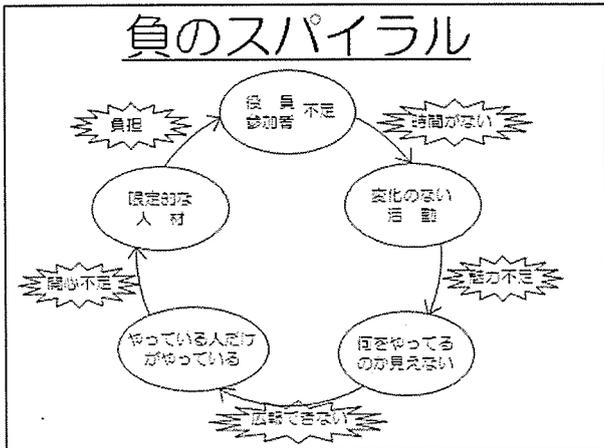
【資料3】(西高宮地域活動)



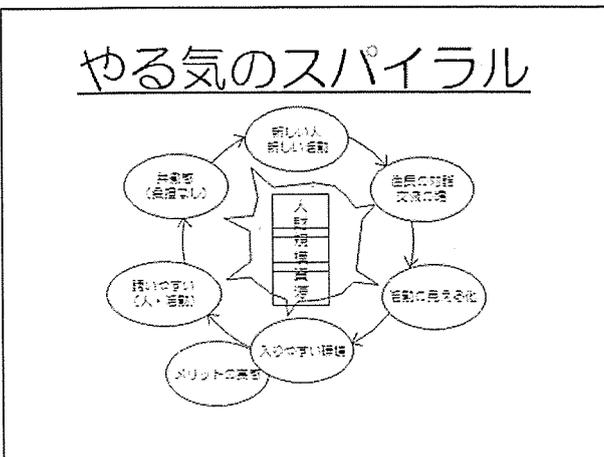
【資料4】(課題一覧表)

- ## 課題一覧表
- ① 行事、活動への参加が少ない。
 - ② 人と人とのコミュニケーション不足。
 - ③ 行事が多い。
 - ④ 単身、高齢者が増えている。
 - ⑤ 集会、会議の場所が少ない。
 - ⑥ 加入率が低下している。
 - ⑦ 後継者不足(役員のなり手)。
 - ⑧ 会合が多い。
 - ⑨ みんな無関心。
 - ⑩ 役員に仕事、役割が集中。
 - ⑪ 経費が不足。
 - ⑫ 子ども会への参加の低下。
 - ⑬ 交流がない。

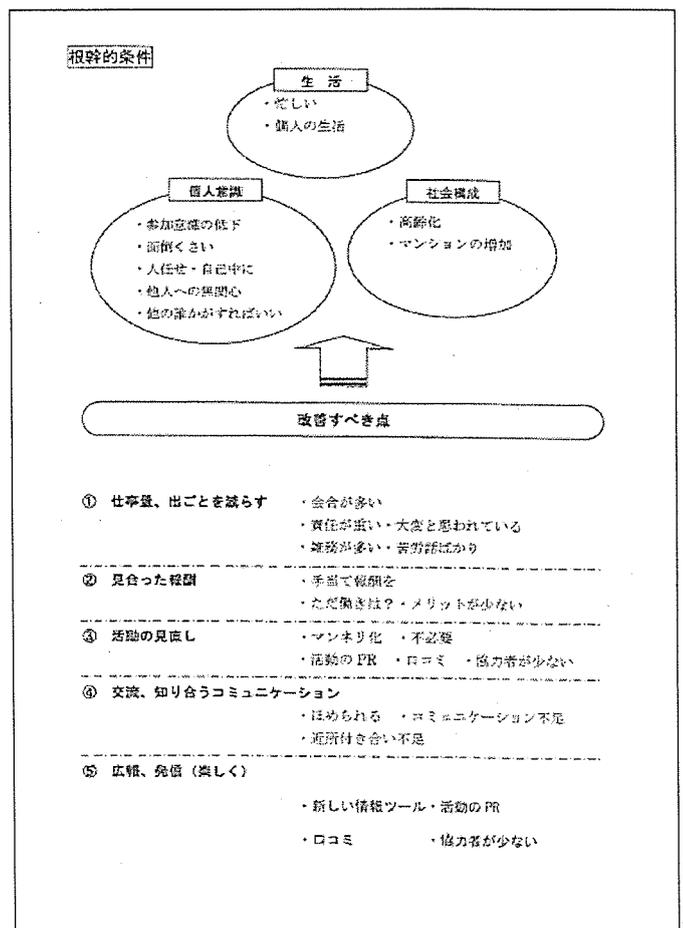
【資料5】(負のスパイラル)



(やる気のスパイラル)



【資料6】(苦慮している課題と改善テーマ)

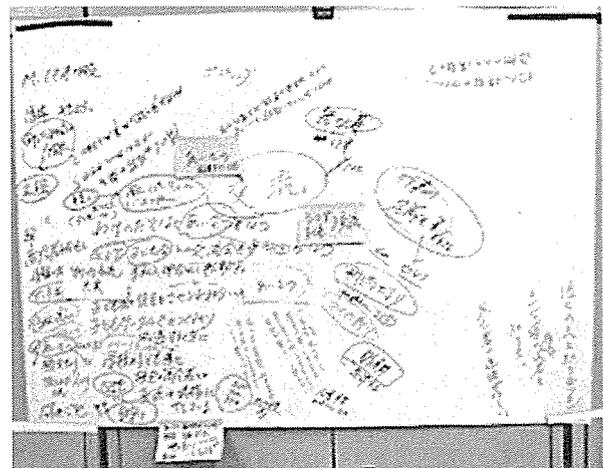
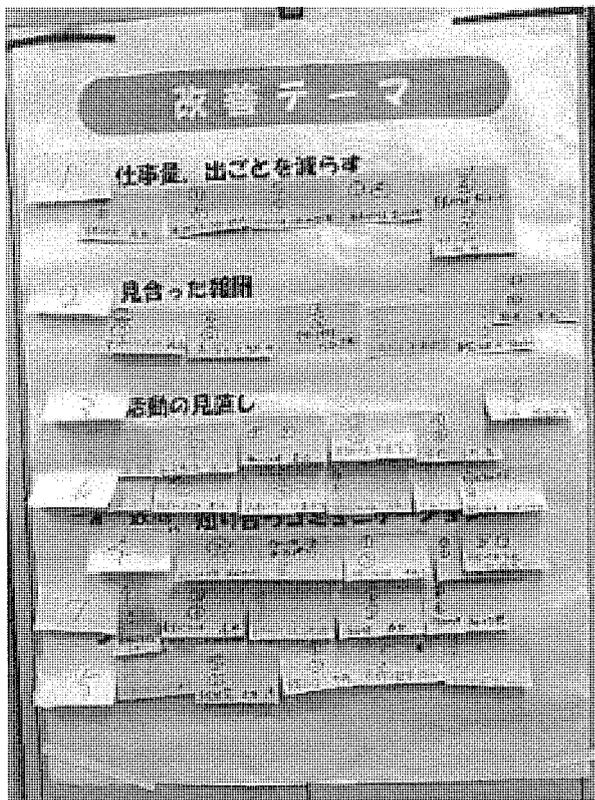


【資料7】(ワールドカフェ)

ワールドカフェとは、簡単な手順でリラックスした雰囲気を作り出し、自由に意見を出し合えるようにする話し合いの手法。

参加者をカフェテーブルのような小グループに分け、時間を区切り、たびたびメンバー交換をしながら、多様な会話と組み合わせの偶然性を楽しむもので、企業や大学、まちづくりへの導入が盛んに行われている。

今回は第3回目の「改善テーマ」についてのグループワークで活用。



(3) 城南区片江校区自治協議会

～ これからの地域に本当に必要なものは何か ～

片江校区のデータ（平成25年9月30日現在）

○人口 11,712人（男 5,940人，女 5,772人）

○世帯数 5,847世帯

○自治会・町内会数 14団体

○校区の特徴

福岡大学に隣接し大学生の割合が多いため、高齢化率は城南区で3番目に低いが、「65歳以上」の人口は、平成13年の12.6%から、平成25年は19.3%と、急激に高齢化が進んでいる。

公共施設の市民センター・図書館・消防署・市民プールなどを有しており、特に市民センター横の西の堤池は、多くの人々の憩いの場として親しまれている。

地域活動も活発で、夏祭りと隔年で行われている文化祭では、各町対抗のステージ合戦が行われ、14町すべての自治会・町内会が歌・踊り・演奏・マジック等それぞれ工夫を凝らしてステージを盛り上げている。

① テーマ選定及びその背景

地域活動（人材育成）は町内が基本

片江校区では、平成19年度より「あなたと共に拓くコミュニティ」をスローガンとして、自発的に校区の将来を担う人材育成に取り組んできた。更に、平成24年度には人材育成を継続的に行っていくため、自治協議会内に「人材育成委員会」を立ち上げ、地域活動及び人材育成は町内が基本との結論に至り、4つの短期目標を作成した。

【短期目標】

- ① 町内同士、お互いを知り合おう。
- ② 町内交流を活発にしよう。
- ③ 町内活動を楽しんでやろう。
- ④ 役割を分担し、引き継ぎをスムーズに。

そのため、平成25年度は「これからの地域に本当に必要なものは何か」をテーマに町内が活性化するアイデアを、各町単位のワークショップ形式で話し合った。

〈各町の詳細は、資料1「片江自治協ニュース『かけはし』 P20参照〉

② ワークショップの開催状況

講師：佐々木 喜美代 氏（特定非営利活動法人 アジアン・イジング・ビジネスセンター 上席研究員）
山内 泰 氏（NPO法人ドネルモ 代表）

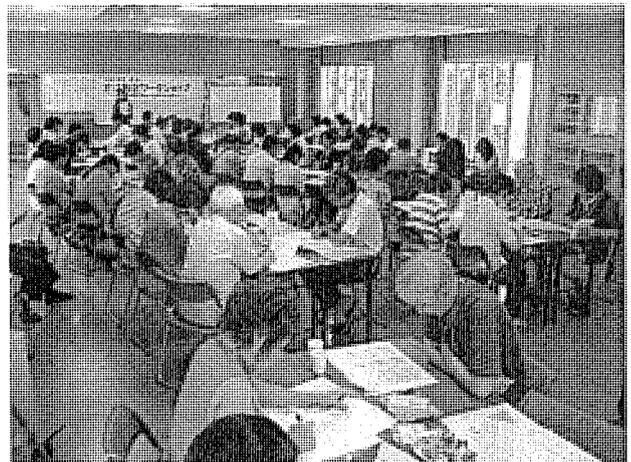
開催場所：片江公民館 講堂

	日 時	主な内容	参加数	対象者
第1回	7/27(土) 14:00～16:00	片江校区の現状把握	57名	隣組長・各町委員 (各町三役以外)
第2回	10/1(土) 10:00～12:00	ソンミサン・マウルゲーム	50名	
第3回	10/26(土) 10:00～12:00	片江校区の現状把握	59名	1・2回出席者以外 (各町三役も可)
第4回	12/7(土) 10:00～12:00	ソンミサン・マウルゲーム	56名	

ア 第1回ワークショップ

(ア) プログラム

- 1 開会・あいさつ
- 2 グループ（町別）で自己紹介
- 3 <講義>
 - ① 福岡市の歴史と課題把握
 - ② データで見る
片江校区の過去・現在・未来
- 4 閉会



(イ) アンケート結果（第1回参加者）

◎ 地域が抱えている課題は？

高齢化	交流不足	役員不足	参加者不足	交通安全問題	公園問題	少子化	わからない	その他
26.9%	16.4%	11.9%	10.5%	6.0%	3.0%	1.5%	13.4%	10.5%

〈主な意見〉

- ・高齢者が多くなっている。
- ・単身高齢者が増えていることもあり、交流が少なくなっている。
- ・昔からの住民と新しく転入してくる住民との交流がない。

(ウ) 考察

- ◎ 片江校区は福岡大学の学生が多く居住しているため、数字には表れにくいが高齢化が進んでおり、単身高齢者が増えている。そのため、町内をより活性化し、「きょういく（今日、行くところ）」「きょうよう（今日の用事）」を考えていく必要がある。
- また、「きょういく」「きょうよう」を考え、環境をつくることで、互いに知り合い交流を図ることができ、将来の人材育成に繋がっていく。

※ 第2回ワークショップで具体的に町内を活性化するアイデアを考えていく。

イ 第2回ワークショップ

(ア) プログラム

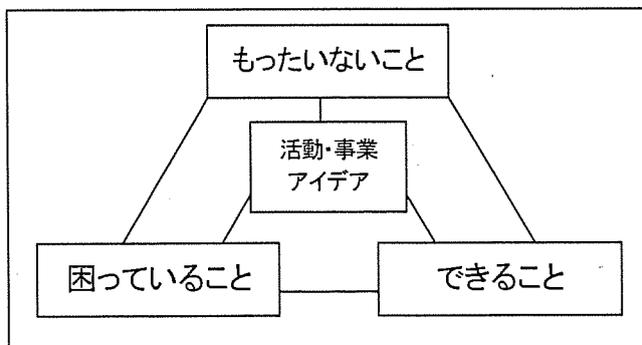
- 1 開会・あいさつ
- 2 <ワークショップ>
ソンミサン・マウルゲーム
(1) ソンミサン・マウルの説明
(2) ゲーム
 - ① 地域でもったいないこと
 - ② 地域で困っていること
あつたらいいなと思うこと
 - ③ ①・②を組み合わせる事業を作る。
 - ④ 自分にできること
- 3 発表
- 4 閉会



(イ) ソンミサン・マウルとは？

韓国ソウル市にある地域で、平成6年に25世帯の住民が自分たちの必要性から、住民の資金と力で共同運営の設備の整った保育所を作った。この取り組みを発端として、人と人とのつながりを広げ、現在では1,200人以上が参加し、生協や図書館の運営など70以上の地域事業を行っており、「やりたいことが実現してしまうまち」として韓国の住みたいまちNO.1になっている。

(ウ) ソンミサン・マウルゲーム

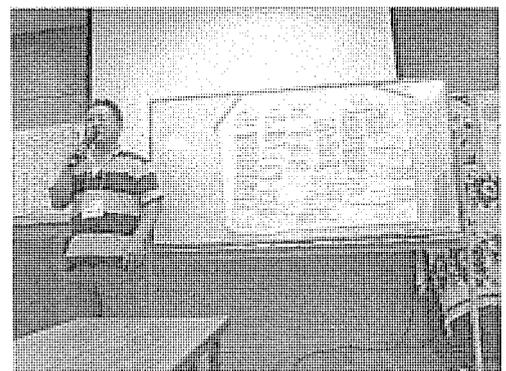


- ① 各町のもったいないことやものを黄色のポストイットに記入。
- ② 各町の困っていることやあつたらいいなと思うことを青色のポストイットに記入。
- ③ ①・②を組み合わせる事業のアイデアを赤色のポストイットに記入。
- ④ 自分にできることを緑色のポストイットに記入。

(エ) 各町からのアイデア

各町のアイデアを共有するために、各グループごとに出てきたアイデアの中から1～2案に絞り発表。

〈詳細は資料2「第2回人材育成ワークショップ
ソンミサンゲーム」 P21参照〉



ウ 第3回ワークショップ
(ア) プログラム

- 1 開会・あいさつ
- 2 グループ（町別）で自己紹介
- 3 <講義>
 - ① 福岡市の歴史と課題把握
 - ② データで見る
片江校区の過去・現在・未来
- 4 <ワークショップ>
 - ① 良い地域になるってどんなこと？
 - ② ①になるためには何が必要？
- 5 閉会



(イ) アンケート結果

◎ 地域が抱えている課題は？

高齢化	交流不足	役員不足	参加者不足	交通安全問題	公園問題	少子化	わからない	その他
28.6%	19.1%	11.1%	17.5%	1.6%	3.2%	4.8%	4.8%	9.5%

(1回目(各町三役除く)と3回目(各町三役含む)のアンケートとの比較)

- ・ 1回目, 3回目ともに3割弱の方が「高齢化」を課題と考えている。
- ・ 1回目(各町三役除く)のアンケートでは「役員不足>参加者不足」であったのに対し, 3回目(各町三役含む)のアンケートでは「役員不足<参加者不足」となった。

(ウ) ワークショップ「良い地域になるってどんなこと？」の主な意見

- ◎ 良い地域になるってどんなこと？
- ・ コミュニケーション活発な明るいまち
 - ・ 町の深いまち
 - ・ あいさつができるまち
 - ・ 町内の人が集える場があるまち
 - ・ 安全, 安心のまち
 - ・ 子どもや高齢者を見守るまち
- ◎ 良い地域になるためには何が必要？
- ・ 行事に参加する
 - ・ パトロールの参加者を増やす
 - ・ 地域ぐるみで子どもを見守る
 - ・ できる人ができることをする
 - ・ 大人がまずは声をかける
 - ・ ふれあいネットワークの活用

エ 第4回ワークショップ 第2回ワークショップと同内容

(詳細は資料3「第4回人材育成ワークショップソニミサンゲーム」 P22参照)

オ 今後の取り組みについて

- (ア) ワークショップを通して出たアイデアを実現していくために, 自治会としてのフォローが必要である。
- (イ) 第1・2回のワークショップ参加者と第3・4回ワークショップの参加者がこれからの地域について話をする場を設け, もう一步地域活性化への前進に繋げることが期待される。
- (ウ) 各町内に町活性化を考える委員などを設け, 「やりたいこと」や「できること」について継続的に話し合いを行い, 町内の活性化を実現することが期待される。
- (エ) 自治協議会の人材育成委員会と各町の町活性化委員(仮)が定期的集まり, 地域活性化について話し合いをもてる場が必要である。
- (オ) 来年度, 委員会主催の地域活性化に繋がるイベントを開催できるようになることが期待される。

ごめんなさい
その一言で
仲直り

西村 桃菜

2013年人権カレンダーより

片江自治協ニュース

かけはし

2013年6月15日 №98

あなたと共に拓く
コミュニティ

片江校区自治協議会

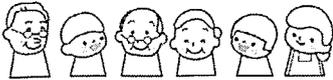
片江5-35-20 片江公民館内
電話・ファックス 871-5341

地球環境を考えよう

ワンワン
1・1・1運動

毎月1日は、
1部屋の灯りで、
1時間過ごしましょう。

毎月1日(夜8時~9時)



私たちの住む町、片江校区を知っておこう!

①片江1-1 275世帯

- ① 城南市民プール前にあります。(1ヶ所)
- ② 高齢者クラブ輪の会 親睦会(5月) バスハイク 健康講座
- ③ 近隣の集合住宅居住者は自治会未加入者が多く、加入率を上げていきたい。又、片江1-1に住む人の顔が判り、明るく気軽に挨拶をかわす町にしていきたい。それは、高齢者への見守り隊の役割を成すことに繋がる。

会長: 田崎 功

②片江1-2 300世帯

- ① 片江1丁目バス停前、片江1丁目16-7にあります。(2ヶ所)
- ② 定例会、敬老会
- ③ 町内の絆を深めるための行事を今、考えているところです。

会長: 吉安 宏一



③片江2 360世帯

- ① 片江江島緑地、片江2丁目4 駐車場入口にあります。(2ヶ所)
- ② 餅つき大会(12月)
- ③ 「子供会、高齢者が元気な町」「ゴミが少ない町」従来の課題目標。今年度は従来の目標に「各委員と組長の強化」を計る。それには「役員会の充実、より住みよい町、より誇れる町…みんなで作ろう!!!」をテーマに町の充実を計る。

会長: 瀬戸 和雄

④片江3 430世帯

- ① 片江3丁目31-21、片江3丁目33-15にあります。(2ヶ所)
- ② 高齢者クラブ三楽会による親睦一泊旅行(11月) 町内桜見(3月) 子供会による浦谷公園清掃(毎月第3土曜日)
- ③ 防犯灯をLED照明に切り替えるため、15万円の予算を計上している。町の安心・安全に努める。

会長: 城島 武敏

⑥片江5-1 90世帯

- ① 掲示板は現在ありません。
- ② 老人クラブ「和(なごみ)の会」で、花見などを楽しんでいます。
- ③ 我が町内は、高齢者が多いので安全・安心の生活習慣を確立したいです。

会長: 馬詰 武

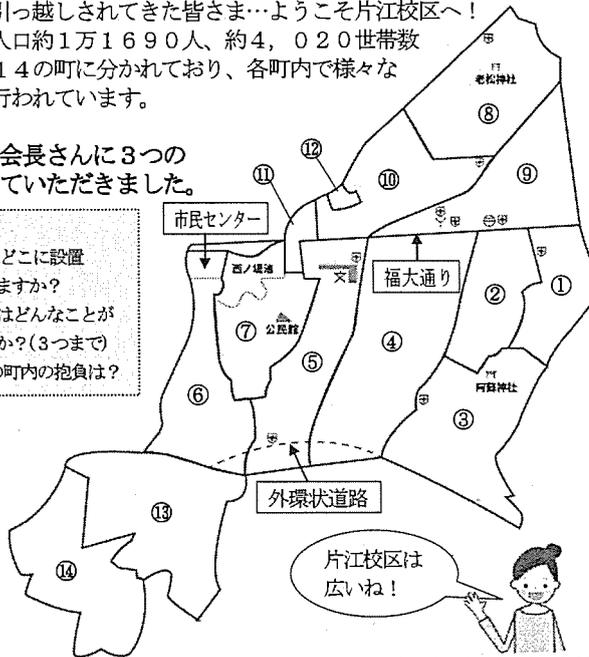


片江校区へ引っ越しされてきた皆さま…ようこそ片江校区へ!
片江校区は人口約1万1690人、約4,020世帯数あります。14の町に分かれており、各町内で様々な取り組みが行われています。

各町の自治会長さんに3つの質問に答えていただきました。

【質問】

- ① 掲示板はどこに設置してありますか?
- ② 町内行事はどんなことがありますか?(3つまで)
- ③ 25年度の町内の抱負は?



片江校区は広いね!

⑤片江4 220世帯

- ① 掲示板は現在ありませんが、代わりに平成25年度から、インターネットで情報公開を始めました。アドレスは <http://prinoi.com/katae4> です。
- ② 町内バーベキュー大会(7月28日) ボーリング大会 予定(2月)
- ③ 住民の誰もが、片江4丁目に住んでいて「よかった!」と思えるような町にしたい。自治会活動は「楽しいものである」ということを正しく伝え、自ら進んで「自治会活動に参加したい!」と思ってもらえるようにしたい。

会長: 大澤 徹也

⑦片江5-2 185世帯

- ① 小松ヶ丘集会所前広地、公民館第二駐車場前にあります。(2ヶ所)
- ② 小松ヶ丘(片江5丁目2区)60周年記念事業
- ③ 上記、60周年記念事業に向けて、実行委員会を5~6回開催し、盛大に行いたい。

会長: 濱上 義博

⑧神松寺1 410世帯

- ① 老松会館にあります。(1ヶ所)
- ② 敬老会 年末もちつき会
- ③ 子ども会を含め、町内の融和を図る。

会長: 馬見新 牧男



⑨神松寺2 600世帯

- ① 掲示板は現在ありません。
- ② さんかく祭り(今年はありません)
- ③ 全世代が交流する明るい自治会を目指す。

会長: 大穂 喜信



⑩神松寺3-1 415世帯

- ① ふれあい会館前、北公園南側、神学校前バス停前にあります。(3ヶ所)
- ② 自治防災訓練(夏・冬の年2回) 敬老会 年末パトロール(12月28~30日)
- ③ 1、「住民と共に拓くコミュニティ」をテーマに「住民本位の自治会」を追求し隣組の強化に努めます。 2、「組織は人なり」に基づき優秀な人材の発掘・育成と人の絆を大切にこの大きな課題に挑戦し町づくりに取り組みます。 会長: 松田 留吉

⑪片江団地 230世帯

- ① 各棟玄関脇、各棟外階段1Fにあります。(6ヶ所)
- ② 敬老会(9月) もちつき大会(12月) 防災訓練(3月)
- ③ 自治会役員の若返りを念頭に、人材育成をこれまで以上に図っていききたい。また、安全安心のための防犯パトロールや防災訓練も工夫を凝らして実施します。

会長: 平川 徳之

『いわせてんしゃい』
随時募集中!

400字以内をお願いします。
お名前、又はペンネームをご記入のうえ、片江校区自治協議会までご投稿ください。

投稿先: 片江自治協議会
FAX: 871-5341

⑫神松寺3-3 237世帯

- ① エントランス、各棟のエレベーター1階の横にあります。(4ヶ所)
- ② マンション管理組合との共同避難訓練を行っています。(3月)
- ③ 町内独自の行事が特にないので、アンケート等により、町内の意見を聞いて、町内独自の行事を作りたい。

会長: 岡 隆司



⑬西片江1 120世帯

- ① 集会所ついでににあります。(1ヶ所)
- ② 敬老会 バーベキュー大会 西片江2丁目との合同行事
- ③ 「絆を深め、安全で安心して暮らせる町づくり」を目標とし、子どもから高齢者の方々まで、一人でも多く参加できる事業に意をそそぐ。

会長: 植田 弘志

⑭西片江2 150世帯

- ① 西片江2丁目入口道路 池のそば、病院側 たら福焼鳥店入口の坂を上がったところにあります。(2ヶ所)
- ② 西片江1丁目との合同行事
- ③ 町民1人ひとりが地域に目を配る「思いやり」や「あたたかさ」を第一に考え、「相互扶助」精神を大切にする町づくり。

会長: 古賀 邦彦

第2回人材育成ワークショップ ソングミサンゲーム

(片江団地)

◎ 集会所を活用してカフェを…よりあい活動

- ・高齢化が進んでいる。
- ・ボランティアを募る。
- ・若い方の育成をする。
- ・ふれあいネットワークを勉強する。

(神松寺1丁目)

◎ 神1サロンプロジェクト

- ・公民館が山の上にあるため、自分たちの都合がいいところに建てたい。
- ・1号、2号、4号公園があるが、狭くて遊べなかったりする。
- ・公民館と公園の再生や利用という壮大なプロジェクト。
- ・若松神社を宣伝してまちづくり。
- ・少額出資希望者がそくそく集まっている。

(西片江2丁目)

◎ お茶どころ寄っといで

- ・空き地があるので、そこで行う。
- ・アルバイトで大学生を雇う。
- ・話し相手がいるので、話し相手になる。
- ・メニューを提供する。
- ・掃除をする人、自分の趣味を生かす人。

(片江5丁目2区)

◎ 町の駅 KOMACHI

- ・創立60周年を迎えた 旧名称 小松ヶ丘。
- ・ゆるキャラ コマッチー作成。
- ・お菓子、パン作り、クリーニング、マッサージ、ネイルができる人材がいる。
- ・古着ショップ。
- ・地下鉄までのシャトルバスを運行。
- ・有線アナウンス
- ・市民農園
- ・福岡大学の学生にアルバイトしてもらおう。(福岡大学が一番近いまち)
- ・3,000円を一口として寄付を募る。

(片江1丁目2区)

◎ フリースペース おもてなし

- ・江陽館の有効活用。
- ・カフェをする。材料は農園で作った野菜。
- ・不用品のリサイクル フリーマーケット。
- ・おもちゃのリサイクル おもちゃ図書館。

町内活性化のアイデア

(神松寺3丁目3区)

◎ 3丁目の夕日カフェ「〇時だよ全員集合広場」

- ・集会所の有効活用。
- ・井戸端会議的なもの。
- ・お年寄りへの声かけ。
- ・本の読み聞かせ。
- ・SHOPナチュレ…パン・お菓子・ケーキが作れる。

(片江1丁目1区)

◎ 人材発掘 カフェづくり

- ・出席者のお宅の一階が空いているので、そこで始める!! やりたい!!
- ・料理はできる。
- ・パソコンが得意なのでチラシづくりはできる。

(片江4丁目)

◎ アクターファイブスクールながのカフェ(長野食堂)

- ・料理が上手な長野さんに料理を作って提供してもらおう。

(神松寺2丁目)

◎ SHOPを開く ◎ パトロール

- ・文具屋さん、アクセサリー、モービル、雑貨店。
- ・手作りのお店で、雑談ができる場所として。
- ・シニアによるパトロール。
- ・土、日限定2時間パトロール。

(神松寺3丁目1区)

◎ なかよしサロン

- ・高齢者が多い。
- ・保育所とデイサービス機能。

(片江3丁目)

◎ 井戸端会議場 日々ありがとうを忘れない町内

- ・高齢者が一番多い地域。
- ・現役農家の方がいる。
- ・農園の作物を売る。
- ・料理教室を開く。
- ・お年寄りに来てもらう。

(西片江1丁目)

◎ 高齢者向け配食 ◎ カフェ

- ・空きアパートもあるが、集会所でまずしたい。
- ・配達、雑用、片付けできる人はいる。
- ・料理長を募集する。

(片江2丁目)

◎ 永田を使おう会!

- ・福岡大学の永田先生が居住。
- ・江陽館に天文台を作り、星を見る! 月を見る!
- ・楽しい江陽館にしたい。
- ・阿蘇神社も活用する。お年寄りが集まり、話をする場とする。

第4回人材育成ワークショップ ソングサンゲーム

(神松寺2丁目)

◎ 空き家をたまり場に

- ・町内の方の顔が見えない。
- ・集会所がない。
- ・老松会館を借りているが、坂が急。
- ・空き家をたまり場に
(ソファを置いてスターバックスのように)
- ・平地の空き地もたまり場に。
- ・ケーキやコーヒーを出す。清掃をする。

(西片江2丁目)

◎ 西片江コミュニティホール

- ・山の手、空気がきれい、緑が多い町内。
- ・居住者がいないアパートがあり。
- ・大きな屋敷に一人暮らしの人もある。
- ・若いファミリーと一緒に集える場があればよい。
- ・集会所の使用頻度が低い。
- ・大学の広大な土地もどうかならないか。
- ・高齢者住宅と託児所

(片江5丁目2区)

- ◎ 集会所でカフェ ◎ 思いやり事業
- ◎ 福大行っちゃうツアー

- ・大学生と一緒に農園を耕す。
- ・家具や遊具を作る人がいる。
- ・福岡大学の学食が入りづらい。
(福大行っちゃうツアーを敢行)
- ・坂が多いので家の前に休憩用の丸太のベンチを置く。
手すりをつけてもらう。
- ・トイレに行きたくなくなったら貸してあげる。
(子ども110番の家みたいに)
- ・車を貸し出せる人は、車を貸してあげる。
- ・おじいちゃん、おばあちゃんに子どもを預かってもらう。

(神松寺3丁目1区)

◎ リーダーの発掘

- ・集会所もあり、お金持ちの町内。
- ・美人さんが会合に出てこない。
(子ども会との交流を図る=美人発掘チームのリーダーをつくる)
- ・会社勤めの人が町内活動に参加しない。
(お酒を飲み交わす=酒豪のリーダーをつくる)
- ・公園の活用ができていない。
(公園の管理ができていない。手当をもらって衛生管理する)
- ・町内の奥さんたちの顔は分かるが、旦那さんの顔が分からない。
(高級ワインを飲む会=無礼講制度)
- ・空き家の活用
- ・交番がない。(安全対策の責任者を)

町内活性化のアイデア

(片江1丁目2区)

◎ 片江の駅

- ・財産も土地も時間もある町内。
- ・産直野菜を売る。
- ・居酒屋カフェ。(料理を作る。)
- ・コミュニティバス(地域タクシー)を走らせる。

(西片江1丁目)

- ◎ 福大の若い人の力を活用
- ◎ 店舗(フタバ書店等)と交流したい
- ◎ 放置自転車の解消

- ・高齢化が高く夢も希望もない町内...と言いつつ夢や希望がいっぱい!
- ・団塊の世代が地域に入らないのが課題。

(神松寺3丁目3区)

- ◎ 若い人が集まるジャンプショップのようなもの
- ◎ マッサージが夜遅くまでしてもらえる施設

- ・お金も土地もない。
- ・集会所の利用率が低い。
- ・子どもは玄関のエントランスで遊んでいる。
- ・居住者800人のうち100人以上が60歳を越えた。
- ・閉鎖的な部分もあるので、コミュニティを図れるマンションに。

(片江2丁目)

- ◎ たまり場プロジェクト
- ◎ 江陽館にコンビニ・スタバを作ろう会

- ・江陽館、片江公園、阿蘇神社の有効活用。
- ・時々コーヒーを飲みに行く。
- ・掃除に行く。

(神松寺1丁目)

◎ いこい農園 お茶処

- ・空き農園の有効活用。
(作ったものをみんなで食べる)
(接待ができる。草抜きができる。)
- ・公園は3ヶ所あるが狭い。
- ・コラボして実行に移す!!

(片江1丁目1区)

◎ カフェ

- ・集う場。
- ・レストラン。(捨てるものは出さない。)
- ・料理はできる。
- ・看板は掲げる。
- ・警察署ができればいい。
- ・駐車場や公園の利用。

(片江4丁目)

◎ 青年団をつくりたい!

- ・心が苦ければ青年。
- ・自治会から予算を組む。
- ・定例会で宣言。(つくります!!)
- ・食事の提供。

(片江3丁目)

◎ よろずやさん

- ・民家を利用。
(おじいちゃん、おばあちゃん、子ども、
全世代が集まってほしいことをできる場を。お茶飲み場。)
- ・保育の資格を持っている人あり。
- ・江陽館でバザー。(物々交換)

(4) 博多区自治協議会長連絡協議会

～住みよいまちをみんなでつくるために～

博多区のデータ（平成25年9月30日現在）

○人口 211,018人（男102,693人，女108,325人）

○世帯数 121,274世帯

○自治協議会数 22自治協議会

○自治会・町内会数 374団体

○博多区の特徴

単身世帯が7区中、最も多くその割合は全世帯の6割を超えている。

JR博多駅、博多港、世界有数の利便性に優れた空の玄関口である福岡空港を擁し、西鉄天神大牟田線やJR九州の駅が集中しており、多くの路線バスが走っている。

雑餉隈駅周辺では連続立体交差事業が行われ、地下鉄七隈線の天神南～博多間の延伸事業が進むなど、都市の機能が充実・発展を続けている。

また、九州最大の歓楽街である中洲地区がある一方、多くの神社仏閣が点在するとともに弥生時代の遺跡なども多く見られる。さらには、伝統的な祭りや文化も豊かで、歴史と伝統が地域にとけ込み受け継がれている。

① テーマの選定及びその背景

博多区は、市内でもより都市化が進んでおり、その状況は、会社・事務所が多い地域、戸建てが中心の地域、共同住宅が中心の地域等に分れ、地域の状況や町内の世帯数により課題や取り組み方も、異なっている部分も多い。

今回、各校区（地区）自治協議会から4名程の自治会長等を推薦いただき、地域の状況により班を分け、意見交換の中から自治会・町内会活動の課題を見つけ、対応策・解決策を考え、住みよいまちづくりを検討する。

② ワークショップの開催状況

講師：十時裕氏（福岡市地域活動アドバイザー）

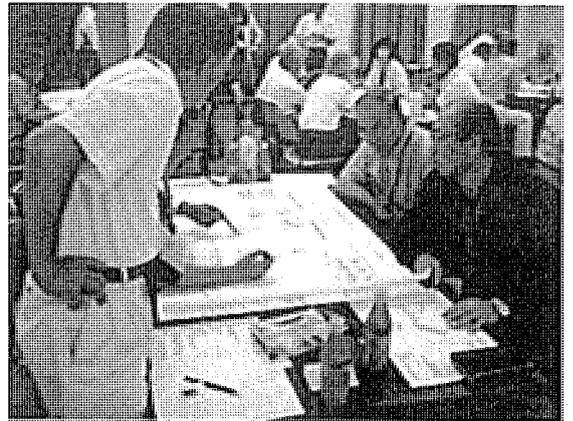
開催場所：博多区役所保健福祉センター集団指導室

	日 時	主 な 内 容	参加数	対 象 者
第1回	9/21(土) 10:00～12:00	課題の掘り起こし、掘下げ	76名	自治会・町内会長
第2回	10/12(土) 10:00～12:00	振り返り、校区での活用	64名	自治会・町内会長

ア 第1回ワークショップ

(ア) プログラム

- 1 開会・挨拶
- 2 班内の町内活動について
- 3 課題の選定
- 4 課題の現状・原因から対応策を探す
- 5 代表班による発表
- 6 閉会



(イ) 班分けおよび町内の活動状況

地域状況に応じて戸建て中心、集合住宅中心、戸建て・集合住宅半々、会社事務所中心等と、構成世帯数の大小を加味して13の班に分け、地域の話題や校区活動、自治会・町内会活動の事例について、班ごとに話し合いを行った。

(ウ) 課題の選定

参加者数も多く、出される課題が多種多様になりすぎる恐れもあったため、主催者とアドバイザーで検討し、あらかじめ用意した次の表から、各自治会・町内会の課題を選定する方法とした。

課 題

- ① 日常の活動内容がよくわからない。
- ② 出ごとが多く、どこまででなければ。
- ③ 役員のなり手が無い。
- ④ 手伝ってくれる人が少ない、いない。
- ⑤ 参加者が少ない、いない。
- ⑥ 新旧住民の関係。
- ⑦ 自治会・町内会加入の低下
- ⑧ 広報・PRのやり方。
- ⑨ 高齢者の見守りが十分できない。
- ⑩ 自治会が持つ情報が不足している。
情報に限りがある。

(エ) 第1回ワークショップのまとめ

地域の状況や構成世帯数にかかわらず「役員のなり手がいない」を課題とした班が過半数であり、「高齢者の見守りが十分にできない」「出ごとが多くどこまでしなければいけないか」を課題とした班と併せ3課題について意見交換を行った。

班ごとの取りまとめ状況は次のとおりであった。

班状況	選定課題	現 状	原 因	対 応 (案)
1班6名 戸建て中心 50～200 世帯	役員のなり手がいない	<ul style="list-style-type: none"> ・前会長時代から役員になっており交代時期に来ている ・各種団体に役員選出をお願いしている ・出ごとが多く生活に支障をきたしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・やる気のある人(60～70才)が少ない ・高齢化している 	<ul style="list-style-type: none"> ・出ごとを減らす ・時間帯を考慮する(昼→夜)
2班7名 戸建て中心 200～650 世帯	役員のなり手がいない	<ul style="list-style-type: none"> ・会社勤めの人が多い ・地元の方が減っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事をしている人が多い ・行事の人集めが大変である 	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある町内活動を行う ・町内会規約の定年制等を削除する
3班6名 戸建て中心 200～700 世帯	役員のなり手がいない	<ul style="list-style-type: none"> ・役員が固定化傾向にある ・役員を兼任している人が多い ・役員候補者が拒否する 	<ul style="list-style-type: none"> ・役員の仕事が多い ・関心がない ・役員が批判を受ける場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・手当を考える ・会長を使う ・若い人に興味を持ってもらう ・仕事量を減らす
4班7名 戸建と集合住宅 200～500 世帯	役員のなり手がいない	<ul style="list-style-type: none"> ・新旧住民関係が難しい ・自治会加入が低下している ・80代が多く50・60代の住民が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が多い ・人材が少ない ・独身者が増加している ・少子高齢化が進んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい会合を増やす ・定年前から声をかける ・家族向けの住宅を増やす
5班7名 戸建と集合住宅 150～600 世帯	役員のなり手がいない	<ul style="list-style-type: none"> ・役員の年齢に差がある ・総会の出席者が少ない ・2年1期で役員を辞めた後、無関心となる ・候補者名簿を作成し順番制としている 	<ul style="list-style-type: none"> ・役員になりたがらない ・無関心(関心がない) ・忙しすぎる ・高齢者が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動と見合う手当が必要 ・役員に負担をかけない ・若い世代に関心を持ってもらう
6班7名 戸建と集合住宅 550～1000 世帯	役員のなり手がいない	<ul style="list-style-type: none"> ・選考委員会を組長から6名出し役員で決めている ・自分で次期会長を決めなければならぬ 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会長が名誉職になっている ・若年層は仕事をしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションをとる ・定例会で楽しく出席して頂くため会の終了後コミュニケーションをする
7班5名 集合住宅中心 30～160 世帯	高齢者の見守りが十分にできない	<ul style="list-style-type: none"> ・孤立死があっても会長は家に入れない ・独居老人が増加している ・居住者が高齢者ばかりである ・住民が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報が不足している ・把握しにくい ・訪問する機会が限られるので会えない ・結果を求められる 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民台帳の一部開示(75才以上)が必要である ・住民の関わりの機会を増やす ・役員以外の関わりを増やす(協力体制整備)

班 状 況	選定課題	現 状	原 因	対 応 (案)
8班5名 集合住宅中心 150 ～ 400 世帯	役員のみ手 がない	<ul style="list-style-type: none"> ・役員が毎年交代する ・高齢者が多い ・活動への参加者が少ない ・仕事をしている人が多く役員を引き受けてくれない 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政の支援がない ・若い人が少ない ・関心がない ・やる気がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政の支援指導を望む
9班4名 集合住宅中心 150 ～ 500 世帯	役員のみ手 がない	<ul style="list-style-type: none"> ・団地住民が高齢化している ・輪番制なのに理由をつけて協力しない ・役員が固定化している 	<ul style="list-style-type: none"> ・隣付き合いがなくなった ・行事運営のPRが不足している ・住民への取組が不足している 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントを増やす ・ネットワークを充実する ・子どもの行事を増やす ・老人クラブを活用する
10班5名 集合住宅中心 600 ～ 1300 世帯	出ごとが多く どこまでしな ければならな いか	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や会議が多い ・兼務が多い ・役員になりたくない 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が多く、若い人は転出している ・役員が不足している ・手当が少ない ・会議など出ごとが多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担を考える ・手当を増やす
11班6名 商店街寺社 等 30 ～ 150 世帯	役員のみ手 がない	<ul style="list-style-type: none"> ・祭りには参加するが、自治会には参加しない ・高齢者が多く、活動できる人がいない 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織に属さない ・昔みたいな付き合いが少ない ・高齢化している ・親世代が残り若者が町外へ転出する 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族向けマンション (の建設) を誘致する ・祭りを活用し、活性化を図る
12班5名 集合住宅・ 会社事務所 200 ～ 500 世帯	役員のみ手 がない	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生の親が少ないので町内のコミュニケーションがとれない ・ワンルームが多いので人と人とのつきあいが少ない ・仕事を持っている方が多いので役員を引き受けない 	<ul style="list-style-type: none"> ・会長職が多忙にみえる ・名前、年齢、世帯人数がわからない 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民名簿がほしい ・活動の簡素化が必要である ・コミュニケーションを図る
13班7名 集合住宅事 務所あり 600 ～ 1150 世帯	高齢者の見守 りが十分にで きない	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいネットワークの訪問員を倍増した ・老人会に手伝ってもらっている ・民生委員任せになっている (個人情報保護が関連している) 	<ul style="list-style-type: none"> ・独居のうえに高齢化している ・高齢で体が動かない ・組織化が不足している ・情報が不足している ・PRが不足している ・絆が不足している ・無関心である 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政へ住民情報の開示を要請する ・地域内でのPRを行う ・若者の協力を求める ・元気高齢者が声掛けを行う ・隣人を知る ・幼老共生 (子どもと高齢者の交流) を行う ・環境づくりに取り組む ・隣組単位の連携を強化する

イ 第2回ワークショップ

(ア) プログラム

- 1 開会
- 2 振り返り
- 3 課題の対応策・解決策の掘り下げ
- 4 それぞれの校区に分かれ活用への話し合い
- 5 閉会



(イ) 課題の対応策・解決策について

第1回のワークショップで班毎に決まった課題について、次のとおり、全員で対応策・解決策を話し合い、以下の提案があった。

【役員のなり手がいない】について

- 「なりやすく（だから役員になるのは嫌だの解消）」するために
 - ①出ごとを減らす ②手当を用意する
 - ③仕事量を減らす（役割分担，集中防止）

- 「ひらく（拒否感をなくす）」ために
 - ①高齢者が好きな活動 ②若者に魅力ある活動
 - ③楽しい会合 ④ふれあいサロン，老人（シニア）クラブの活用

- 「準備する（仕込んでいく）」では
 - ①定年前からの声かけ ②若い人が住める混合型マンション
 - ③部会への強制加入 ④定年制を用意する

【高齢者の見守り】について

- ①住民間の関係，関わりを高める ②対話の場を増やす
- ③行政の住民台帳を公開する ④活動をPRする
- ⑤幼老共生（高齢者，声かけ・子どもとの交流）
- ⑥隣組単位の連携強化

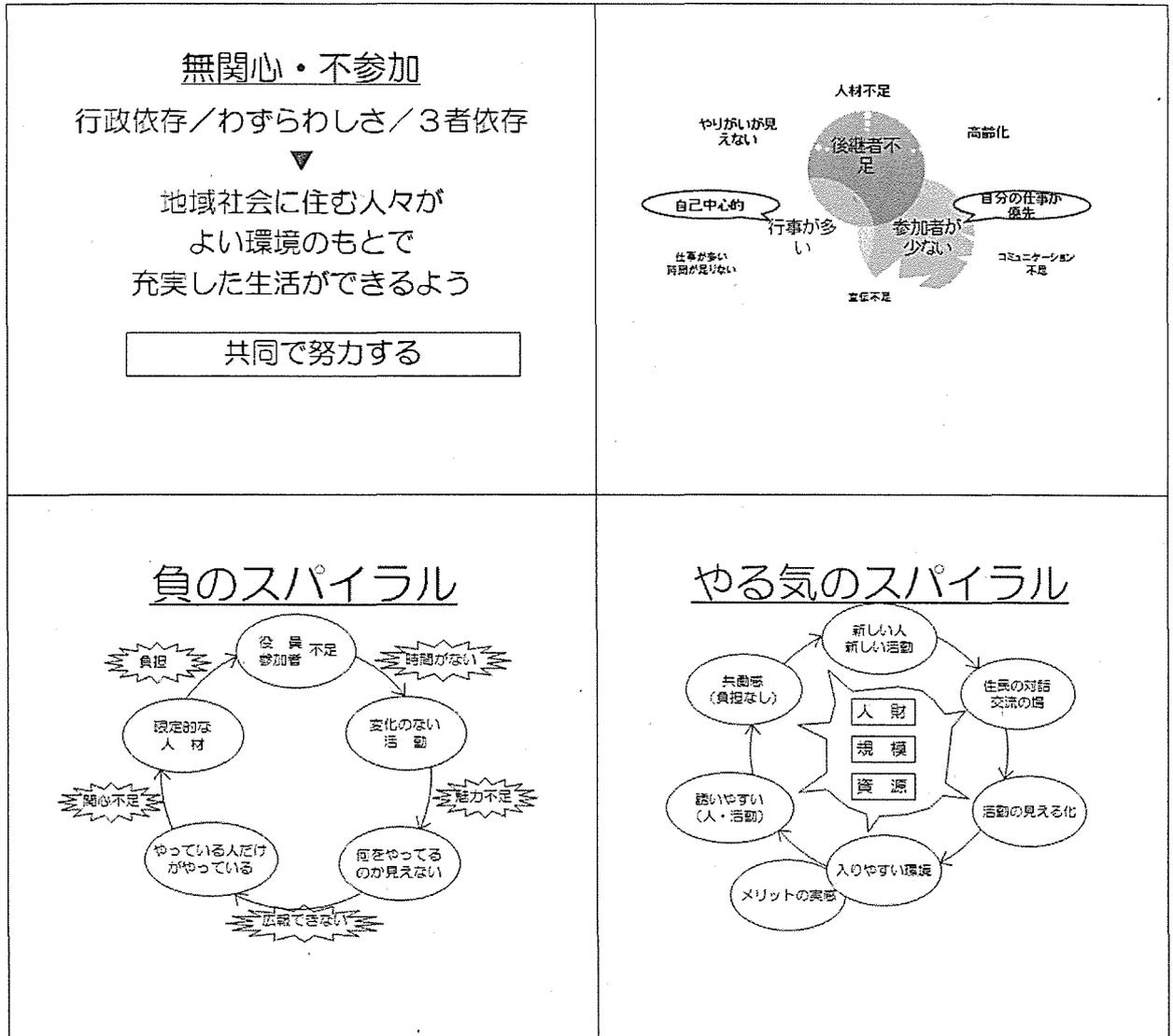
【出ごとが多い】について

- ①役割分担を行う ②手当を増やす

(ウ) 十時講師によるパワーポイントによる研修

自治会・町内会の制度、取組活動、課題や解決等について分かり易い説明があった。

<資料から参考>



(エ) 校区（地区）での活用（まとめ）

各校区（地区），自治会・町内会は，それぞれ地域性はあるがボランティアを楽しく，活動しやすいようにしていくことや，高齢者の見守りについても，老人クラブを活用するなどの意見を踏まえ，今後の自治会・町内会活動の参考とし，住みよいまちづくりに取り組んでいくこととした。

2 テーマ「町内会への加入促進」

(1) 中央区高宮校区自治協議会

～コミュニティ活動への全員参加をめざして～

高宮校区のデータ（平成25年9月30日現在）

○人口 11,958人（男5,129人，女6,829人）

○世帯数 8,007世帯

○自治会・町内会数 24団体

○校区の特徴

高宮校区は、西鉄大牟田線、城南線、筑肥新道、那珂川などに囲まれた地域で、都心に近く、交通の便が良い住宅地であり、マンション等の共同住宅が9割以上を占めている。

① テーマの選定及びその背景

コミュニティ活動をより効果的に実施するためには、町内会加入率の向上と活動資金の確保が重要である。高宮校区では、マンション等の共同住宅が9割以上を占めており、加入率の低下が懸念されている。

よって、町内会加入促進に向けて、現状や課題を共通認識し、課題解決のための取り組み事例や工夫について情報交換して各町内の加入促進に役立てることとした。

② 会議・ワークショップの開催状況

町内会長を対象として、町内会長定例会後に高宮公民館で会議・ワークショップ形式で5回開催した。進行は、中央区地域振興・支援課の校区担当係長が行った。

	日時	主な内容	参加数
第1回	6/1（土）11:00～11:30	テーマ選定	23人
第2回	7/13（土）10:40～12:00	課題，取組状況について	23人
第3回	8/10（土）11:00～12:00	情報共有・意見交換	23人
第4回	9/7（土）11:00～12:00	情報共有・意見交換	23人
第5回	10/5（土）11:00～11:30	まとめ，今後の取り組み	23人

ア 第1回会議（全体会議） テーマ選定・会議の進め方

人材の発掘・育成，防犯・防災・安全対策など，様々な課題があることを共通認識したうえで，町内会や校区自治協議会全体の運営に欠かせない課題の1つである「町内会加入促進」をテーマとすることとした。

イ 第2回会議（ワークショップ） 情報交換・意見交換

地域ブロック別に3グループに分かれて町内会加入の状況や課題、取り組みの現状や工夫していることについて、付箋紙や模造紙を使ってワークショップ形式で情報交換や意見交換を行った。

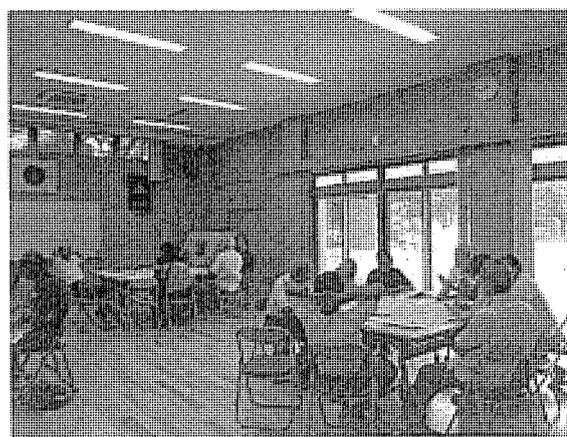
居住形態によって課題や取組内容が異なるため、タイプ別に分類して意見交換し、課題や取組状況の意見を出し合って整理した。

加入促進に関する課題と取組状況

() ブロック

分類	現状・課題・問題点	取組み・工夫していること	今後取り組むアイデア・工夫
共通			
ワンルーム	賃貸型		
	分譲型		
ファミリータイプ	賃貸型		
	分譲型		
店舗	住居一体		
	通勤		
会社・企業・事務所	本社		
	支店・支社		
その他			

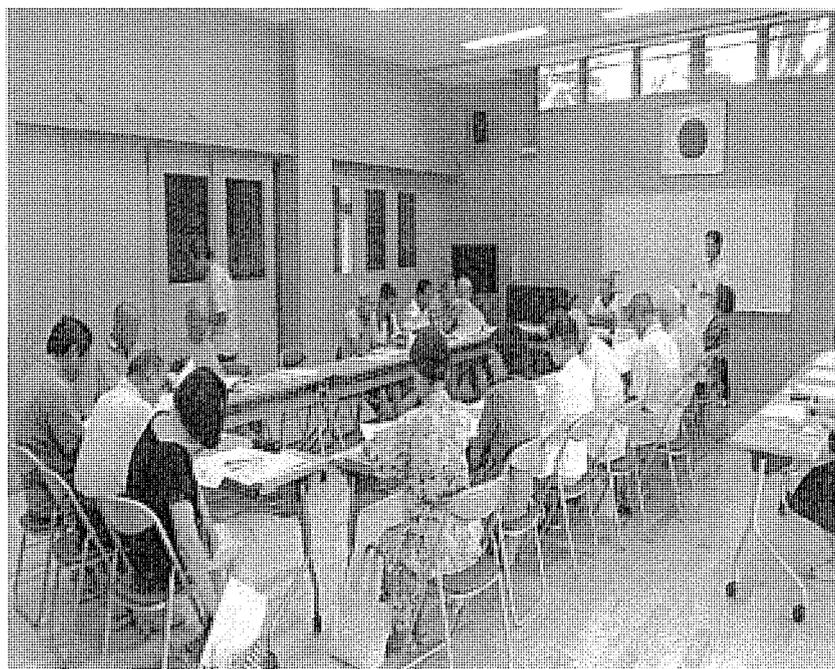
(地域ごとに3グループに分かれて意見交換)



ウ 第3・4回会議（全体会議） 情報交換・意見交換

第2回会議で出されたタイプ別「課題・問題点」ごとに取り組み状況や工夫していること、今後の取り組みに関する意見やアイデアなどを出し合った。

（各グループで出された課題や取り組み状況について、全体で情報を共有，意見交換）



町内会加入促進に関する課題と取り組み事例について

分類	課題・問題点	取り組み事例
マンション等 共同住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・表札もなく、住んでいる人の名前がわからない。 ・管理会社によっては、会ってもくれない。 ・オートロックで入れなく、集金しにくい。 ・個人に請求しても払ってくれない。 ・管理会社が変わって、新しい管理会社が町内会費を集めてくれなくなった。 ・分譲マンションでも、オーナーが賃貸物件にしていると、戸別に管理会社が違うため、町費を納入してもらえない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○管理会社への働きかけ（主に賃貸住宅） <ul style="list-style-type: none"> ・新築マンションの場合、着工前に管理会社と町内会加入等の交渉している。 ・管理会社の本社に行って町内会加入のお願いをして、家賃の請求書と一緒に各戸へ御願い書を出した結果、全戸徴収できた。 ・管理会社と交渉することで、町内会費を一括して町内会口座に振り込んでくれている。 ○管理組合への働きかけ（主に分譲住宅） <ul style="list-style-type: none"> ・自分（町内会長）の顔を覚えてもらうために、理事長（組合長）、管理人や住民に対する声掛けを心がけている。 ・町内会の活動内容（意義）を広く周知してもらっている。（防犯灯・掃除・パトロール等） ・管理組合から一括振込みしてもらっている（8割納入） ○その他 <ul style="list-style-type: none"> ・活動への理解や関係を築くために、未加入世帯にも毎月「自治協だより」を配布している。 ・賃貸仲介会社に、募集時（契約時）に町内会加入（会費）について説明するようお願いしている。 ・町内会総会を年2回（中間期を入れて）行い、各役員さんに連絡を徹底して、行事（バスハイク、花見等）への参加呼びかけをしている。
店舗・会社等	<ul style="list-style-type: none"> ・住んでないので加入しない、と言われる。（自宅で加入している） ・加入した場合何かメリット等あるのか、と言われる。 ・校区内に飲食店の夜間営業が多くなっている。住民（特に一戸建）との調和をどうとっていくかが課題。 ・本社の承認が必要と言われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・店舗や会社にも防犯・防災、清掃活動への理解と参加を求めている（チラシ・面談・etc） ・定期的に説得のために訪問している。 ・献血では全ての店舗、会社をお願いしている。 ・体育祭の広告（助成）についても協力をお願いしてまわっている。 ・本社にお伺い書を送付している。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場から町費を徴収できないところがある。 ・外国人に町内会の説明がしにくい。 ・老人ホームはどんな徴収をすればよいかわからない。 ・生活保護受給世帯に対しては、町内会費の徴収が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場からも管理会社に連絡して会費を徴収している。 ・国際交流協会の周知（通訳派遣制度、ごみ出しルールパンフレット） ・事業所として加入を依頼する。 ・本人から生活困窮の申し出があれば、徴収していない。

エ 第5回会議

加入促進に役立つ「町内会加入のお願い」のチラシやマンション管理組合・管理会社と取り交わす「覚書」・「協定書」のひな形などについても意見交換、情報交換の結果とともに報告書にまとめ、今後の加入促進に役立てることとした。

また、今後の取り組みとしての工夫やアイデア。行政や管理会社・不動産仲介業者等に対して、協力を求めたい事項などが出された。

(ア) 校区や町内での取り組み

- ・ウェブ（ホームページ）を使った自治活動PR、行事参加のPR
- ・町内会として支援活動をアピール
- ・校区のホームページの充実を図る。
- ・もっと各町内会長の経験談を聞く。
- ・店舗と小規模事務所等で校区内の商工組織をつくり、相互連携を図っていく（高宮校区には現在無し）

(イ) 不動産仲介業者・管理会社への要望

- ・賃貸ルームの賃貸契約時に仲介業者等が、必ず町内会費の項目を明記して「重要事務説明」として賃貸人に町内会費の納入について了解をとる。（現に募集パンフレットに明記し、契約締結時に町内会費を明示している業者もいる）

(ウ) 行政への要望・意見

- ・福岡市の条例で町内会加入の義務化をすべき！！
- ・区役所（市）から住民に町内会加入について理解を求める。
- ・協力を得られていない管理会社等との協議の場の設定
- ・不動産仲介業者・管理会社に賃貸契約書への「重要事務説明」の明記と協力依頼
- ・住民の名簿がないと町費の徴収や国勢調査もしにくい。

③ まとめ

管理会社と「協定書」を取り交わすことで町内会加入を確実にするなどの工夫がなされていることを、全町内会長で情報共有することができた。

また、不動産仲介業者に町内会加入について「重要事務説明」項目に位置付けるように協力を求めるなど、今後の取り組みの方向性に関する意見も多く出された。

④ 参考資料

- 管理地域協定書 . . . 資料1 (P 29~31)
マンションとの管理に関する協定書

- 町内会費支払い方法に関する覚書 . . . 資料2 (P 32)
マンションとの町内会費納入に関する覚書

- 町内会加入のお願い . . . 資料3 (P 33)
住民への加入のお願いチラシ

管 理 地 域 協 定 書

(甲) 福岡市中央区 町内会

(乙)

管理地域協定書

福岡市中央区 町内会(以下、甲という。)

(以下、乙という。)

町内会と、(仮称)

マンション

(以下、本物件という。)の入居者がお互いに良好な住環境を確保・維持し、地域における自治活動の円滑な運営を計るため、下記の通り管理地域協定書(以下、協定書という。)を締結した。この協定書は2通作成し、甲・乙双方が記名押印の上、各々その1通を保有するものとする。

記

1. 乙は、本物件の維持・管理に関し行政の指導及び関係法の定める内容に従い、地域との調和を勘案して総合的な責任を持つものとする。
2. 乙は、入居者を厳選し入居後に騒音、不法ゴミ投棄、違法駐車等地域に迷惑をかけないように指導する。又遵守できない入居者については嚴重なる注意を行い、改善できない場合は退去勧告など責任を持って対処するものとする。
3. 乙は、甲より管理規約等管理に関する書類及び入居者名簿等の提出を求められた場合は、速やかに協力し提出するものとする。
4. 乙は、敷地内にゴミ置場を設けて福岡市のゴミ収集車によるゴミ収集を依頼する。又、野良犬、野良猫、カラス等が食い荒らすことがないように囲いなどを設置し、敷地内や前面道路の清掃を行うものとする。
5. 乙は、敷地内の道路面に防犯灯を設置し、地域の防犯・防災に協力するものとする。
6. 乙は、本物件における防火設備の維持・管理について万全の注意を払う。
7. 乙は、入居者及び入居関係者による違法駐車をさせないように十分管理する。又違法駐車があった場合は迅速に対応し、迷惑をかけないようにする。
8. 乙は、入居者の転入、転出時における荷物の積み下ろしは敷地内で行う。
9. 乙は、本物件の1階部分に集合郵便受け及び掲示板(90cm×120cm程度)を設置する。
10. 地域や行政に関する広報誌は速やかに受取り各世帯に配布する。また回覧するものは備え付けの掲示板に貼り周知徹底をはかる。
11. 乙は、入居者に高官校区自主防災会の趣旨、内容を説明し非常時に備えるものとする。
12. 乙は、国勢調査等行政が実施する調査に協力するものとする。
13. 乙は、建物管理人を常駐又は巡回させ下記の業務を行うものとする。
 - (1) 入居者の騒音・駐車・駐輪の処理
 - (2) 建物敷地内及び前面道路の清掃
 - (3) 本物件並びに近隣にて発生した緊急事態には迅速・機敏に対応し、甲に連絡をする。
 - (4) 近隣の住民と入居者間のパイプ役として両者の融和に努力する。
 - (5) その他、地域・町内の行事及び自治業務に対して協力する。
14. 乙は、本物件及び入居者に関する甲の苦情が発生した場合は、甲と適宜交渉し苦情の解決に当るものとする。

15. 乙は、入居者にかわり下記の通り町内会費をまとめ甲に対して納入するものとする。
但し、初年度においては別途協議するものとする。
- (1) 前期分 4月～9月分までの6ヶ月分を4月中に納入
後期分 10月～翌3月分までの6か月分を10月中に納入
金額の算定 世帯数× 円 (月額)
- (2) 事務所及び店舗については別途取り決めるものとする。
16. 乙は管理会社を別途選定する場合は本協定書内容を管理会社に完全に引き継ぐ責任を負うものとする。
17. 乙は、本物件の管理会社を変更した場合は、甲へ速やかに連絡し、自治活動の円滑な運営に支障をきたさないようにする。
18. 本協定書に定めのない事項が発生した場合は、その都度協議し甲、乙双方が誠意をもって解決に努めることとする。

以上

平成 年 月 日

甲 福岡市中央区

町内会長

乙

町内会費支払い方法に関する覚書

町内会（以下甲という）と、（以下乙という）とは
末尾記載のマンション居住者の町内会費納入につき、乙が代行することとし、次の通り覚書を締結した。
この覚書は2通作成し、甲及び乙双方が記名押印の上、各々その1通を保有するものとする。

記

1. 1世帯当たりの町内会費は、住宅1ヶ月当たり 円、事務所 円、店舗 円とする。
2. 町内会に納入する金額は総額 円とする。

算出根拠： 円×世帯×6ヶ月×80%= 円

円×事業所・店舗数×6ヶ月= 円

3. 町内会への納入時期

前期分として当年4月～9月の6ヶ月分を当年4月末日までに、後期分として当年10月から翌年3月までの6ヶ月分を10月末日までに、甲の指定する預金口座に振込みにて支払うものとする。

但し、覚書初年度については平成 年 月から同年 月までの ヶ月分 円を同年 月までに支払う。なお、振込手数料は乙の負担とする。

4. 甲の振込先

金融機関 :

普通口座 : 口座番号

口座名義 : 町内会 会計

5. 乙は町内会費の代行業務に変更を生じた場合はその責任と負担において本覚書を引継ぐものとする。

以上。

平成 年 月 日

甲 住所 福岡市中央区
氏名 町内会
会長

㊟

乙 住所

氏名

㊟

物件の表示

物件名称

物件所在地

総世帯数

平成 年 月 日

ご町内の皆様へ

校区 町内会
会長
会計

町内会ご加入のお願い

時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。

高宮校区、を、町内会でございます。

当該町内は住宅地域（第2種住居地域）ではありますが、都心に近い地域のため旧来からの居住者と企業の事務所並びに近年増えてきました店舗などが混在する地域となっております。

それゆえに校区にお住まいの方のみならず町内にて企業活動をされる方や、飲食や物販の営業をされる方にもご協力を頂き、地域の防犯パトロールや町内清掃等の環境維持、交通安全対策など、安全・安心で快適な地域環境を守るための支え合い共助をお願いしております。

これらの活動は皆様からの町内会費や資源物回収などの収入で支えられています。東日本大震災においても地域の繋がりや活動が多く命や困難を救ったとの教訓も皆様ご承知のことと思えます。

地域の防災組織（高宮校区防災会）も他人任せではいざという時に機能いたしません。町内会では行政との連携も含めより一層安全・安心な街づくりに取組んでまいりますので、何卒、地域活動にご理解とご協力を賜り、町内会にご加入下さいます様お願い申し上げます。

記

- ・町内会費納入をもって町内会ご加入となります。
- ・町内会費は毎年4月末日に1年分（4月から翌年3月分迄）をお支払頂きます。
- ・お支払方法は次の通りです。（①又は②をお選び下さい）
 - ①地区担当の「隣組長」が集金に伺いますので直接お支払下さい。
 - ②町内会銀行口座にお振込みの場合。（請求書及び領収書発行はご指示下さい）

お振込先

（銀行名） 銀行 福岡支店
（口座名義） 町内会 会計
（口座番号） 普通口座

町内会費

1年分 金 _____ 円（月額 _____ 円）

- ・連絡先 町内会長 090-
会計 092-

以上宜しくお願いいたします。

3 テーマ「魅力ある校区づくりを目指して」

(1) 西区金武校区自治協議会

～ようこそ金武校区へ～

金武校区のデータ（平成 25 年 9 月 30 日現在）

○人 口 5,948 人（男 2,930 人，女 3,018 人）

○世 帯 数 2,050 世帯

○自治会・町内会数 6 団体

○校区の特徴

西区の最南部に位置し，校区の東側に室見川があり西部から南部は飯盛山をはじめとする山間部につらなる自然豊かな田園地帯である。校区人口は室見が丘の宅地開発に加え，金武，吉武地区の区画整理事業で戸建て住宅建設により今も増加しつづけている。

歴史・伝統面では，流鏝馬の行事も行われている飯盛神社や，旧三瀬街道の面影が残る金武宿などがあり，平成 25 年 8 月末には国指定の吉武・高木遺跡の整備の一環として，やよいの風公園がオープンした。

また，平成 24 年オープンしたかなたけの里公園は，体験・参加型農業公園として金武の自然をベースに運営されており，市民の憩いの場になるものと期待されている。

① 目的

「関心」から「協力・参加」、そして将来の「担い手」への環境整備

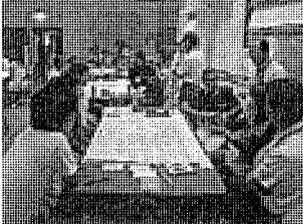
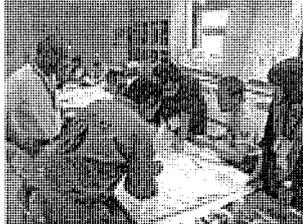
金武校区は，西区で最も人口の増加が著しい校区の一つです。住みよい金武を目指していくために，新たに移り住んだ住民の方々の思いや意見を知ることは，これからの校区の活動を活性化させるうえで重要な課題となっています。

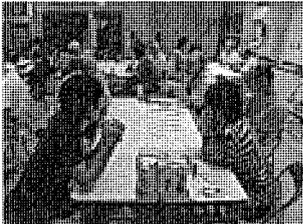
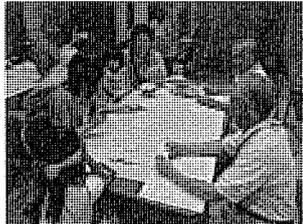
地域活動への「関心」を高め，行事や活動に「参加」，そして将来の「担い手」への人材発掘という段階を経ていくなかで，地域活動の参加が難しい若い世代の方々の意見を聞く場をつくり，その場へ誘うことが，活動や組織の活性化に有効な手段であり，第一歩であると考えます。

「知る」、「知り合う」、「語り合う」場をつくる

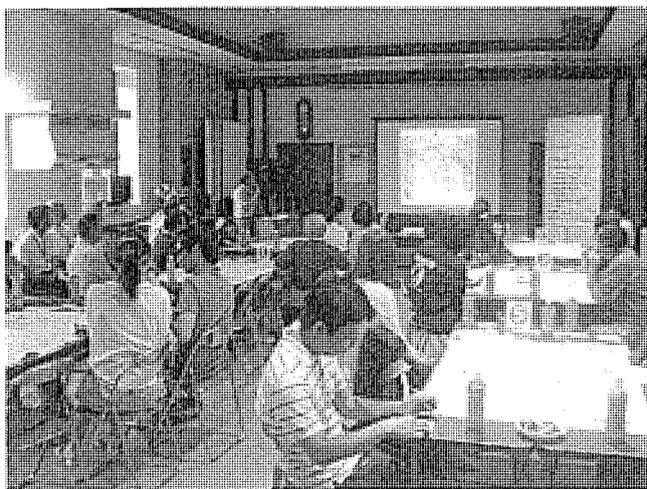
「関心」を持ち，「参加」へとつなげていくために，新たに移り住んできた住民の方々を中心に，町内会・自治会や自治協議会などの地域コミュニティの組織や取り組みを知っていただくとともに，さらに，活動の実施の主体となっている各種団体の方々とお互いに知り合い，その関係を基に，よりよい校区づくりに向けて，活動の理解を深め，お互いが一緒に活動を行っていく環境づくりを目指して，また今後のまちづくりの取り組みの参考とすることを目的に，金武への思いや意見を互いに語り合うワークショップを開催します。

② 開催状況

<p>第1回 「金武を知り合う」 平成25年6月22日(土) 10:00~2時間程度 講師：貞清 清氏 (福岡市地域活動 アドバイザー)</p>	<p>新しい住民の方々を中心に37名 (男性20名 女性11名 町内会長6名) ・自治会や自治協議会等の取り組みを紹介 ・金武に移り住んで感じている現状とこんな金武にしたい想いを共有</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
--	--

<p>第2回 「金武を語り合う」 平成25年9月21日(土) 10:00~2時間程度 講師：貞清 清氏 (福岡市地域活動 アドバイザー)</p>	<p>各種団体の方々を交えて28名 (男性7名 女性6名 町内会長・各種団体長15名) ・金武の現状を再確認 ・金武のまちづくりのスローガンを実現する活動を知り合い考える</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
--	--

ア 第1回ワークショップ (ア) プログラム



- 1 開会・あいさつ
- 2 校区の現況と取り組み
- 3 <ワークショップ>
 - ①プログラムの紹介
 - ②参加者紹介とグループ分け
 - ③校区を思い起こす
 - ④金武校区って？
 - 金武校区のイメージは？
 - 校区が目指す姿は？
 - 発表
- 4 閉会

(イ) 校区の現況と取り組みについて

自治協議会の概要やこれまでの取り組みについて、三角副会長より説明しました。



(ウ) ワークショップの成果

㊦ 金武校区のイメージは？

まず各自で、ポストイットに、移り住んで感じた金武の良いイメージ（赤）、気になるイメージ（青）を書き出しました。（各3枚程度）

その後グループで、一人ひとりが、良いイメージと気になるイメージを紹介し合い、ポストイットを模造紙に置いていきました。

ポストイットを模造紙に置き終わったら、同じような内容をまとめ、タイトルをつけました。

㊧ 校区が目指す姿は？

まず個人で、「こんな校区であつたらいいな」などの校区の目指すべき姿をポストイット（黄）に書き出しました。（2枚程度）

その後グループで、一人ひとりが、目指す姿を紹介し合い、ポストイットを模造紙に置いていきました。

ポストイットを模造紙に置き終わったら、同じような内容をまとめ、タイトルをつけました。

意見のまとめ（金武の良いイメージ・気になるイメージ、目指す姿）

良いところ	現状	気になるところ
<ul style="list-style-type: none"> 山、川が近くにあり、自然に恵まれている 四季折々の花や木や山 飯盛山 山頂からの景色が最高 ほたる、カブトムシ、クワガタムシ お米、ブドウ、イチゴ、野菜、地元の食べ物 歴史・文化に富んでいる 静か（住むのに良い） 公園が近い、多い、広い ウォーキング、散歩によい 	自然	<ul style="list-style-type: none"> 風が強い 花粉や虫が多い 川、ため池が多く、水の事故が心配 自然を楽しめる手段を知らない（情報が無い） 公園に遊具がない
<ul style="list-style-type: none"> 同年代の家庭が周りに多い 近所に子どもが多い お友達、知人、支えてくださる隣人 友達が作りやすい 子育てしやすい 	子ども	<ul style="list-style-type: none"> 学校が生徒数に比べて小さい 校区の学力に不安がある
<ul style="list-style-type: none"> 地域のつながりが強い、深い 校区の人たちが皆温かい 活動が盛んでコミュニケーションが取れている いろいろな行事、イベントがある 地域の一体感 	地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> 地元のイベント等にほとんど参加しない人も多い 知らない人が増えてきた
<ul style="list-style-type: none"> 治安が良い 静か 	安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> 夜、暗いところが多い 不審者（車）が多い 交通量、
<ul style="list-style-type: none"> 都心部への所要時間が短い 	公共交通アクセス	<ul style="list-style-type: none"> 駅までの公共交通機関の不便さ バスの便数が少ない バス停が遠い
	店舗施設	<ul style="list-style-type: none"> 車がなければ住みにくい不便（スーパー、店、病院、銀行等がない） 警察、郵便局、役所が遠い

求められる姿・目指す姿			
自然	自然	自然	自然
	<ul style="list-style-type: none"> 変わらぬ自然 自然を生かしたまちづくり 生活しやすい町にしてほしい（交通、店、施設等の設備） 	<ul style="list-style-type: none"> 自然を守りつつ便利な所 自然環境重視の校区に 自然保守 	<ul style="list-style-type: none"> 金武校区主催の全校区除草キャンペーンをすべきです 自然と生活が調和した金武 今の自然環境を残して町を守ってほしい 自然を大切にしてもらいたい
地域のつながり 交流	交流	住みやすさ	つながり
	<ul style="list-style-type: none"> 世代が続く地域にしたい 全世代が交流できて、世代交代後も続く地域にしたい いろんな方々と交流のある所 	<ul style="list-style-type: none"> 友人を呼びやすく、子どもが安全に遊べ、学力が上がることで人気のある校区の町になればいいなあ 雨の日でも集まれる屋根のある公園みたいな場所があると便利 大人も子どもも楽しくすごせる町 安全な町 	<ul style="list-style-type: none"> イベントがもっと多い校区に 飯盛神社、吉武遺跡、里公園を一体として守っていくことを考えてまちづくりをしてほしい 相手を思いやって、助け合っけて、気持ちよく過ごしていける街にしていきたいです 子どもたちが自分たちのまちを自慢できるような所
	地域	子どものため	住環境
	<ul style="list-style-type: none"> どの子どもも自分の子のように考えられる 新しい住民との地域の結びつきを強く 	<ul style="list-style-type: none"> 出戻り歓迎 子どもたちのふるさと 子どもが将来帰ってきたいと思える 子どもが帰ってくる校区になる 	<ul style="list-style-type: none"> 環境は壊さず、住みやすい（便利の良い） 住んでよかったなど思える街であってほしい 公民館を金武の中心部に移設 知り合いがいっぱいの金武 校区全体の祭りが欲しい 今以上に明るく楽しい
安全・安心	安全	安全	
	<ul style="list-style-type: none"> 事件、事故のない校区 自然を残しながら利便性の高い安全な地域になってほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 安全安心のまち金武に 子どもたちがのびのびと遊べる 	
発展	発展	発展	
	<ul style="list-style-type: none"> 基本はこのままで 適度に発展し、都市と田舎の間を維持してほしい 郷土愛が持てる金武 子どもの世代も引き続き住みたいと言ってくれる町でありたい 	<ul style="list-style-type: none"> 地下鉄 姪浜まで一直線の道路が欲しい 自然や人はそのまま、スーパーや病院、ATM、がきてほしい 自然と街の調和のとれた統一感のあるデザインされたまちづくり 	

イ 第2回ワークショップ (ア) プログラム



- 1 開会・あいさつ
- 2 ワークショップの目的と
プログラム
- 3 参加者紹介・グループ分け
- 4 前回の振り返り
- 5 現状を確認する
- 6 目標の実現に向けて取り組む
活動は？
- ①校区のスローガンの共有
- ②目標の実現に向けて何を？
- ③発表
- 7 閉会・あいさつ

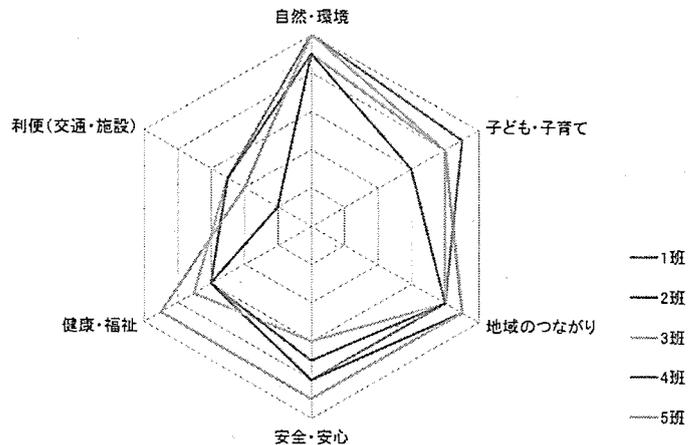
(イ) ワークショップの成果

⑦ 現状を確認する

前回の現状のまとめを基に設定された6つの切り口（「自然・環境」「子ども・子育て」「地域のつながり」「安全・安心」「健康・福祉」「利便（交通・施設）」）ごとに評価とその理由をグループで話し合い、校区の現状を再確認しました。

まず個人で6角形のシートを使って、現状に対する評価を5点満点で行いました。

その後、グループで高い評価（良い）の理由、低い評価（悪い）の理由を話し合い、ポストイットに記録しながら、グループとしての評価をまとめました。



⑧ 目標の実現に向けて取り組む活動は？

○ 校区のスローガンの共有

現状の再確認を踏まえ、校区のスローガン（「交流を育む活力ある校区」「自然環境と調和した校区」「地域の特性に応じた個性ある校区」「住民が自慢する校区」）で大切にしたいことやポイントをポストイット（黄色）に書き出して、スローガンを共有しました。

○ 目標の実現に向けて何をすべきか？（活動のアイデア）

目標に関わる既存の活動をポストイット（青）に書き出し洗い出しました。

目標の実現に向けて、校区全体で連携・協力すると効果的・効率的な活動、また新たに取り組むべき活動を考え、ポストイット（赤）に書き出しました。

☐意見のまとめ（スローガンを実現する活動 ・：既存の活動 ○：新たな活動）

スローガン	大切にしたいポイント	既存の活動		新たな活動のアイデア
交流を育む活力ある校区	<ul style="list-style-type: none"> ・金武を考える交流の場を増やす ・世代間の交流 ・子どもから高齢者まで異年齢の交流 ・団体のあり方を考え直す ・各町内会・自治会の情報の共有化 ・多数の人数が関わるができる内容であること ・一人でも多く参加いただく ・参加しやすく楽しめる行事 ・コミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭 ・運動会 ・球技大会 ・ほうけんぎょう ・各種サロン ・子ども会 ・男子会 ・消防 ・地域、学校、家庭の共育（人尊協） ・夏祭り（室見ヶ丘） 	<ul style="list-style-type: none"> ・各神社の祭り ・おこもり ・三世代交流（ウォーキング） 	<ul style="list-style-type: none"> ○校区全体のお祭り ・夏祭り ・校区あげての盆踊り大会（夏祭り） ・校区駅伝マラソン大会 ○校区ホームページの宣伝（開催行事を見やすく）
自然環境と調和した校区	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の保護 ・自然を壊さない ・自然とふれあう ・里公園の有効活用 ・校区全体での清掃 ・自然と調和した看板、建物 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキング大会 ・室見川再生会議 ・飯盛山を愛する会 ・メダカを守る会 ・かなりんピック ・川遊び ・観月会 ・ほうけんぎょう 	<ul style="list-style-type: none"> ・川遊び ・自然の中のウォーキング ・飯盛山登山 ・自然教室 ・自然観察会 ・不法投棄の見回り ・自然を大切にした公園（金武公園、やよいの風公園） 	<ul style="list-style-type: none"> ○野外コンサート ○ジョギングコースの整備（ルートづくり）里公園と吉武高木遺跡を結び ○登山ルートの整備（飯盛山⇄日向山⇄乙石山⇄飯場峠⇄西山） ○自然の中のキャンプ ○公園整備（ひなもろこ アメンボ公園） ○金武自然紹介 ○ホテルを守る
地域の特性に応じた個性ある校区	<ul style="list-style-type: none"> ・文化の継続 ・豊かな農産物 ・伝統食（かしわ飯、鶏がらスープ） ・やよいの風公園 ・飯盛神社（飯盛山） ・クラブ活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほうけんぎょう ・川遊び ・かなりんピック ・神社のお祭り（流鏝馬、だごごもり、輪越し祭り） 	<ul style="list-style-type: none"> ・飯盛山を守る会（植樹） ・子ども相撲大会 ・獅子舞い（飯盛文珠堂） ・かしわ飯、ぶどう 	<ul style="list-style-type: none"> ○地産地消（販売所） ○やよいの風公園の活用 ○オリエンテーリング ○室見が丘のように他町内も環境活動（歩道に花植え）
住民が自慢する校区	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の維持 ・自然を大切にする ・安心・安全な地域づくり ・人と人との交流 ・人と人とのふれあい ・住んでいる人がやさしい ・個性のある人が多い ・子どもの環境 ・子育て ・各部会の活動が盛ん ・神社・寺 ・田園 ・ぶどう 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭 ・おはようおじさん、ありがとうおばさん ・通学合宿 ・餅つき 	<ul style="list-style-type: none"> ・室見川へのアユの放流 ・遺跡 	<ul style="list-style-type: none"> ○校区特産物のPR ○校区歴史勉強会 ○室見が丘の男子会

③ まとめ

地域課題の解決に向けて地域活動の活性化が求められるなか、地域自治組織の体制強化は大きな課題となっています。住宅団地の開発により新たに金武に移り住む若いファミリー世代の方々の思いや意見を知ること、また自治協議会などの方々と知り合うことは、よりよい地域づくりに向けた意識の共有や人材の発掘など、これからの校区の体制強化につながる取り組みとなりました。

今回のワークショップをきっかけとし、よりよい校区づくりに向けて、より多くの住民の方々の意識が「関心」から「参加」、そして「担い手」へと、次のステップにつなげていく活動の実践が大切となります。今回のワークショップを通じて、基盤強化に向けて得られたことを整理します。

○集まる場づくりと参加を呼びかける（お誘いする）

今回のワークショップは、新たに移り住んだ方々の意見を聞くという実践したものであり、若い方々を中心とした参加者の募集には、幾度も足を運びかなりの労力を要しましたが、話し合いの場を設けるといふ真剣にそして気軽な気持ちでのお誘いが、まちづくりというテーマであったにもかかわらず、乳幼児を連れた方々も参加しました。

校区の方々との交流や人の優しさを指摘する意見もワークショップでは多く聞かれ、新たな住民の方々を素直に受け入れる地域の環境もさることながら、集まる場と労を惜しまない参加の呼びかけ（お誘い）の重要性が改めて示されました。

○自治協議会などの取り組みを知ってもらう

校区の目標や取り組んできた活動をはじめ、ラジオ放送「心のオルゴール」など、これまで取り組んできた活動を紹介しました。また、6つの町内会長、各種団体長の紹介とともにワークショップにも一緒に参加し、お互いが知り合うとともに、自治協議会などの組織や取り組みについて、一人でも多くの方々に根気よく理解してもらうことが大切です。

○若い世代の方々ならではの課題、校区全体で共通する課題が明らかになる

若い同世代が多く集まっていることで、子どもたちをはじめ友達を作りやすい、子育てなどを話しやすい環境があることが指摘されています。子育て世代の共通の悩みに耳を傾け、校区全体で共有していくことも大切です。

また、自然が豊かである半面、郊外という立地特性から都心への交通アクセスの不便さ、店舗や公益施設などが遠く、日常的な生活に車が不可欠という指摘が数多くありました。こうした課題は、旧来から住んでいる方々や高齢者だけではなく、若い世代の方々も共通に感じている課題であり、話すこと聞くことで、改めて地域の共通の課題であることが認識できました。

○ワークショップで話し合われた成果をできるところから活動へ反映していく

これまでも校区全体でのイベントはあるものの、新しく住まわれた方々と古くから住んでいる方々、子どもから高齢者まで世代を超えたイベントなど、校区全体で楽しみ、ふれあい、知り合える新たなイベントの開催が求められました。

今回のワークショップで話し合われた意見を踏まえて、公民館事業での歴史散歩、校区のロゴマークの制作検討などワークショップでの意見が反映された事業も既に行われました。また、定例会へもワークショップの成果は報告され、できるところから来年度の事業計画への意見の取り込みが確認されました。話し合われた内容を一つでも実現し、出番や居場所をつくることで、さらなる校区への理解や地域活動への新たな参加も期待されると思われまます。

(2) 東 区 松 島 校 区 自 治 協 議 会

～ 現状を踏まえ10年先の松島校区の将来像を考える ～

松島校区のデータ（平成25年9月30日現在）

○人 口 17,340人（男8,968人，女8,372人）

○世 帯 数 8,464世帯

○自治会・町内会数 29団体

○校区の特徴

松島校区は、平成5年に筥松校区から分離し、新たに誕生した校区で、平成25年度に校区設立20周年を迎えました。

校区には3本の河川が流れ、過去の氾濫により大規模な水害が発生しており、河川改修など治水事業が進められました。さらに平成21年7月のゲリラ豪雨でも大きな被害が発生したため、平成22年5月に住民と行政の共働で防災マップを完成させました。

校区内のほとんどが工業系の用途地域で企業や工場などが多く立地しています。また国道3号博多バイパス、福岡東バイパスなどの主要幹線道路が通っており、交通量も多いため、住民の交通安全対策への関心が高まっています。

ファミリー向けの中高層集合住宅やワンルームマンションの立地が進み、人口、世帯数ともに区内で2番目に多くなっています。比較的若い世代の転入者が多いため、高齢化率は12.1%と区内で3番目に低くなっています。

松島校区自治協議会では、子どもから高齢者の方々、ハンディキャップを持つ方や外国からの転入者を含め、すべての人々が安全で安心して暮らせる「共生のまちづくり」を目指し、毎年、福祉文化祭やふれあい夏祭り、大運動会などの主催事業を実施しています。

① テーマの選定及びその背景

松島校区は、校区が設立して20年、自治協議会が設立して10年という節目を迎えました。この間、各自治会・町内会や各種団体は、よりよいまちづくりのために様々な地域課題の解決に向けて活発な活動を続けてきました。特に自治協議会設立後は、校区が一体となった各種の事業を展開しながら、できるだけ多くの住民が行事に参加し、つながりや絆を深められるよう取り組んできました。

そのような中、松島校区ではこの10年間、校区外から非常に多くの住民が転入し、人口が倍増しました。また、子どもや高齢者、外国人の人口も増え続けるなど、大きな変化が起きてきました。

自治協議会は、これらの変化をとらえながら、様々な状況にある住民が共に助け合い、支え合いながら暮らせる「共生のまちづくり」をモットーに活動してきましたが、今後

も、押し寄せる変化の波を捉えながら、より実効的な事業に取り組んでいくことを目指しています。

そこで、このたびの「自治協議会の運営基盤強化に向けた支援事業」では、現在、地域活動を担っている地域の役員の方々が、松島校区の10年先の将来像を見据えたビジョンを考え、そこに至る課題や改善策を検討し、これからの活動に活かしていくことを目的としました。

② ワークショップの開催状況

外部講師として山本華世氏をお招きし、各自治会等から45名が参加して、松島会館で講演会及びワークショップを開催しました。

日時	主な内容	参加数
3/1 (土) 14:00~16:00	・ ボランティア活動などをテーマに30分間の講演 ・ ワークショップ	45人

ア 講演テーマ

「自分らしく生きる ～ 共生のまちづくりを前進させるためには…」

イ 講演内容

講師は、仕事ではテレビやラジオ等で活躍される一方、無償でのプロバスケットボールチーム代表就任や、障がい者との交流行事など各種のボランティア活動をされています。その活動の中で、ボランティアならではの難しさや、善意の行動に対する誤解や批判など様々な壁を乗り越えてこられました。



この日は、地域でボランティアとして活動する自治会・町内会の役員や、地域の各種団体の役員に対して、それらの体験を伝え、共感を呼び、課題への共通認識を持つことができました。それを踏まえることで、次のワークショップでは活発なディスカッションが交わされました。

ウ ワークショップ

(ア) コンセプト

現状を踏まえ10年先の松島校区の将来像を考える

共通テーマ： 共生のまちづくり ～ ユニバーサルタウン まつしま ～

(イ) グループ分け

◎「厚生の将来像」を考えるグループ（厚生G）



◎「安心・安全の将来像」を考えるグループ（安心・安全G）



◎「生涯学習の将来像」を考えるグループ（生涯学習G）



◎「町内会・自治会の将来像」を考えるグループ（町内会・自治会G）



(ウ) 10年後のサブテーマ決め

◎厚生G

- ・みんなが集う住みたいまち、ずーっと住みたくなるまち、みんなが笑顔で暮らせるまち「松島」

◎安心・安全G

- ・ボランティアの大切さを知り、ボランティアが根付くまち「松島」

◎生涯学習G

- ・緑と文化のまち「松島」

◎町内会・自治会G

- ・地域の全ての人が楽しく暮らせるまち「松島」

(エ) 課題抽出

◎厚生G

- ・年齢の層が広いので、子ども、青少年、青年、壮年、高齢者のみんなが参加しやすい行事や祭を考えるべき。
- ・高齢者が参加したくなる行事が必要。
- ・古くから住んでいる人も、新しく来た人、若い人も交流できる場、集いの場があった方がよい。

◎安心・安全G

- ・どんな場面でもボランティアが必要になってくる。
- ・ボランティアをする世代が高齢化している。

◎生涯学習G

- ・校区の人口が多い割には行事の参加者が少ない。
- ・高齢者、成人、子どもそれぞれの活動とそれぞれの世代がつながる町づくり、世代交流が必要。

◎町内会・自治会G

- ・住民の地域活動に対する意識が低い。
- ・20～50代の若い世代の参画が少ない。
- ・自治会から子どもたちの活動が見えにくくなっている。
- ・校区内の組織がうまく機能していない。
- ・校区や分野ごとの進むべき方向性（マスタープラン）がない。

（オ）改善策検討

◎厚生G

- ・若い方や引っ越してきた方、外国人の方もこれから校区や地域に参加してもらうように呼びかけが必要。
- ・校区の中に集会所やいこいの施設が増えると、みんなが集まることができ、交流の場ができる。
- ・花を植えてきれいなまちへ。子どもたちも一緒に作業したり、作業後に花見をする。町の清掃にもなり、多くの人に参加しやすい。
- ・保育園、幼稚園、小学校、中学校の保護者が自治会、校区と交流を深める場を増やしたい。

◎安心・安全G

- ・まずは地域住民の皆に関心を持たせる。
- ・仕事を持っていても活動できるというアピールが必要。
- ・評価されなくても大事だということを伝える。←しかし、評価してあげることも大事。周囲からの後押しも必要。
- ・ボランティアの大切さを小さな頃から教え、根付かせる。
- ・ボランティアをした場合のメリットも必要。達成感を持たせる。
- ・親子での参加。子どもの興味を引く行事。公民館、会館等、人の集まる場所の活用など。
- ・公民館サークル間の交流を図る。

◎生涯学習G

- ・子どもの声、地域の声を聞き、共通理解を図る。
- ・花植え、アート作成等 ～ 障がいのある方や高齢者との共働 ～ 企業や施設からも協力を得る。
- ・計画的な町づくりが必要。道路の確保、公園等の整備、歴史的遺産の活用など。
- ・今ある畑や田んぼを将来的に活用する。(公園や文化施設)
- ・一人一人がゴミを拾うように心掛ける。
- ・まず私たちから始めて次へつなぐ。

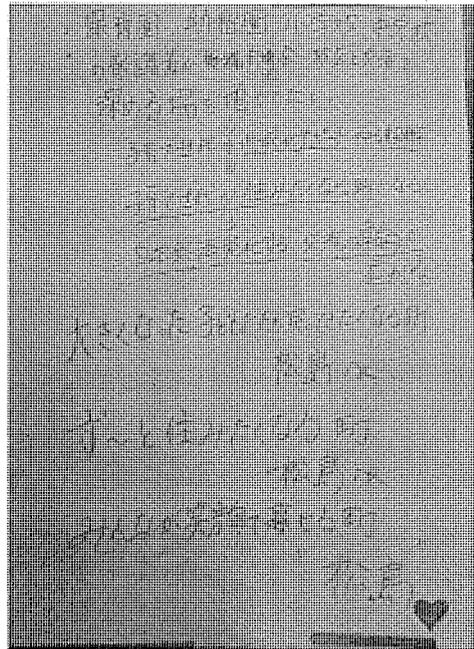
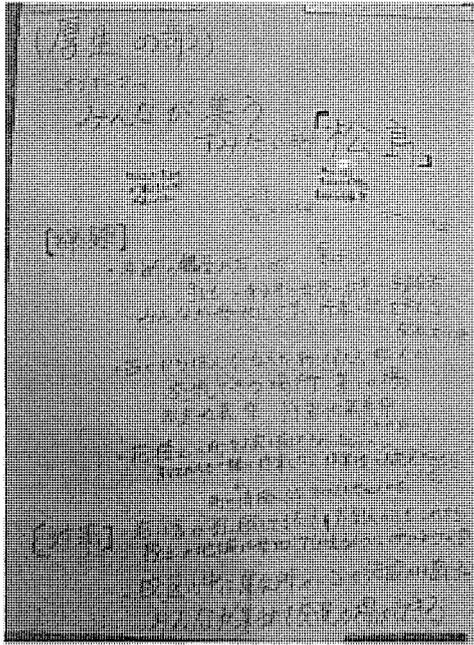
◎町内会・自治会G

- ・次世代の育成が大切。
- ・誰もが活動できるような自治会活動のシステムを作る。
- ・自治協議会が民意を知る住民アンケートなどを実施してみる。
- ・まずは各自治会内でのコミュニケーションを図る。
- ・自治会内部で出会いの行事を作る。もちつき大会、バーベキュー大会は参加が多い。
- ・向こう3件両隣の地域社会をを目指す。
- ・若い世代の指導者を育てていく。

(カ) まとめ、発表

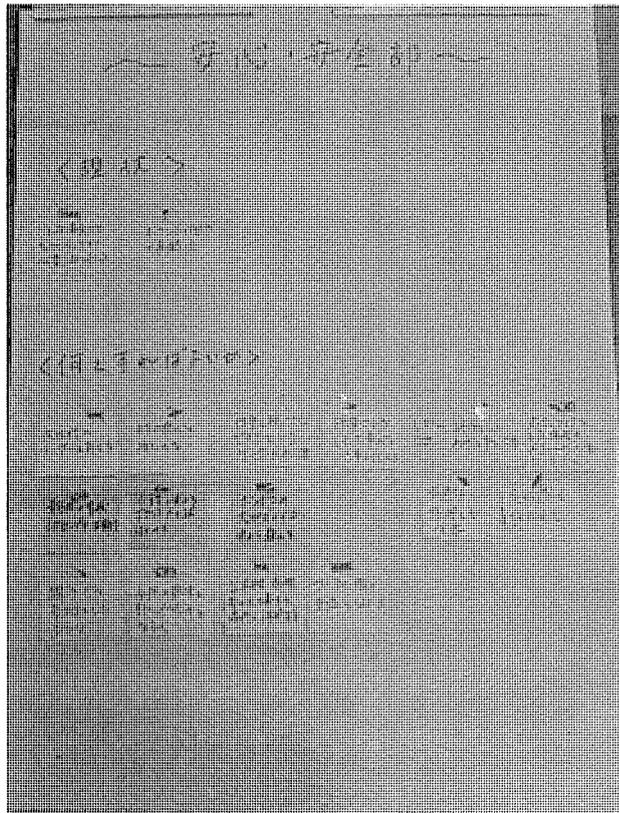
◎厚生G

- ・大きくなった子どもたちが帰って来たくなるまちにしたい。
- ・子育て世代を地域がサポートできる組織づくり。
↓
子育て世代が住みたくなるまちになる。
↓
自治会が活発化する。交流の場が広がる。
- ・1年に1回、子どもからお年寄りまで集まれる行事、祭を行う。夏祭り、ファミリーウォーキング大会、マラソン大会など。



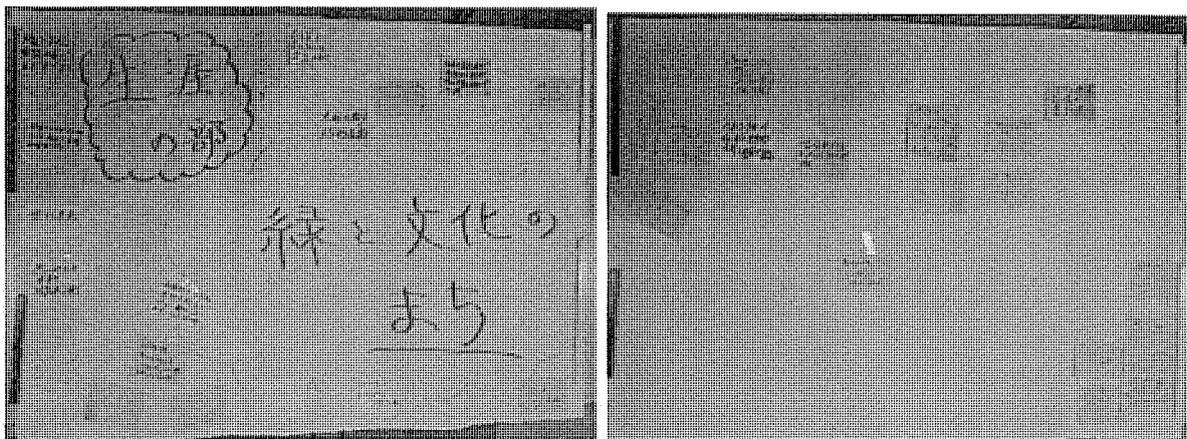
◎安心・安全G

- ・ボランティアで活動する人たちが途切れないように、子どもたちからボランティアの大切さが体験できる活動を行う。
- ・次世代のリーダーを育てることが大切。



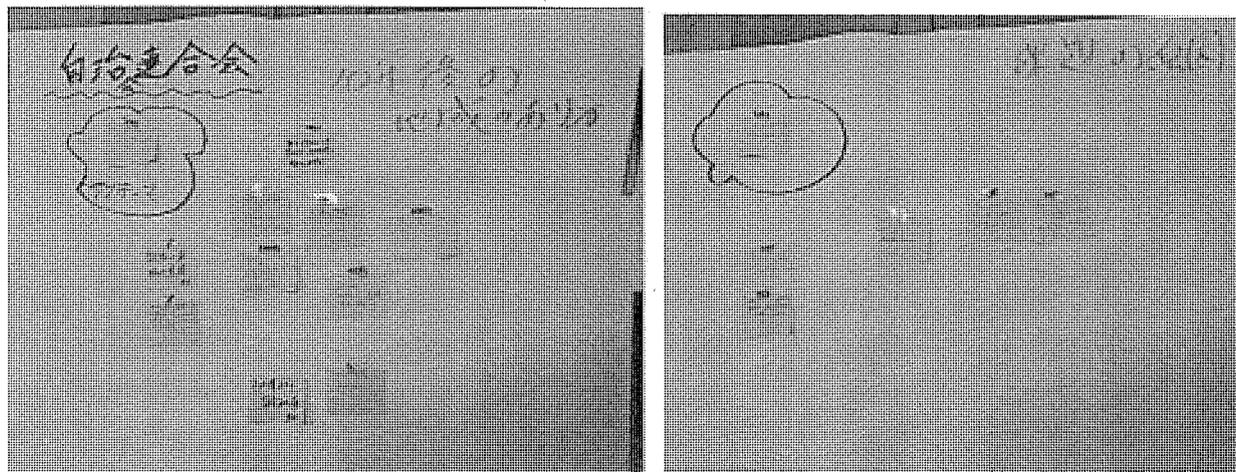
◎生涯学習G

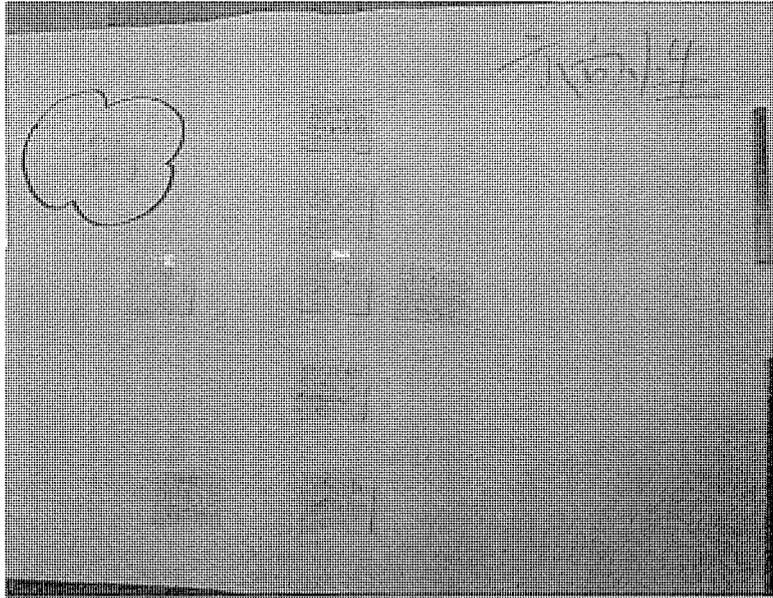
- ・緑と文化施設の多いまちをつくる。地域の歴史、他校区の歴史との交流を図り、文化の香りただよ、笑顔あふれるまちづくり。
- ・文化の面で各世代をつなぐ。高齢化から子どもまで、世代を越えて仲良く、思いやり、支え合い、活力のあるまち。
- ・福祉と教育を充実し、すべての人々が住みやすく、子どもたちが元気なまちを目指す。



◎町内会・自治会G

- ・誰でも（みんな）参加できる地域づくり。
- ・安全で子どもが住みやすく、隣人同士が見知らぬ人ということがないまち。安全、安心、笑顔で一声かけ運動など。
- ・自治協議会は市役所との連携機関となり、各自治会・町内会が充実するように、10年のマスタープランを立てたい。





4 テーマ「組織体制の見直し」

(1) 東区香椎下原自治協議会 ～より連携のひろがりのある体制づくりに向けて～

香椎下原校区のデータ（平成25年9月30日現在）

- 人口 13,390人（男6,903人、女6,487人）
- 世帯数 6,446世帯
- 自治会・町内会数 15団体
- 校区の特徴

香椎下原校区は、立花山・三日月山の麓に位置する自然に恵まれた校区です。立花山山頂には、鎌倉時代の末期に豊後の大友氏が築いたといわれる山城、立花城址があり、その周辺には特別天然記念物に指定されているクス原生林が見られます。立花城址や長谷ダムはアメニティ百選にも指定され、市民が身近な自然にふれあえる場、いこいの場として親しまれています。また、住宅地周辺には多くのため池が見られます。校区の北境は新宮町、東境は久山町に隣接しています。校区内には国道3号及び県道町川原福岡線が東西に走っており、現在、3号バイパスの整備が進められています。

九州産業大学が校区の隣接地に立地していることもあり、単身世帯の割合が高いことも校区の特徴の一つです。

地域では、長谷ダム水がめまつりやまちづくり音楽祭の開催など積極的なまちづくり活動が行われています。

① テーマの選定及びその背景

香椎下原校区には、15の町内会があり、市街地の拡大と共に生まれた新興住宅団地と既存集落が地域ごとの特性に合わせた地域活動を展開している。風土、文化、成り立ちが異なる各自治会と各種団体が校区でまとまり、一体的に活動するために幹事会による部会制をとりながら事務局機能を持つ体制による運営がなされてきた。しかし、近年の高齢化に伴う地域課題の変化に対して、固定化した役員、慣例化した組織体制がこうした状況に対応しきれずその見直しが求められている。

② ワークショップの開催状況

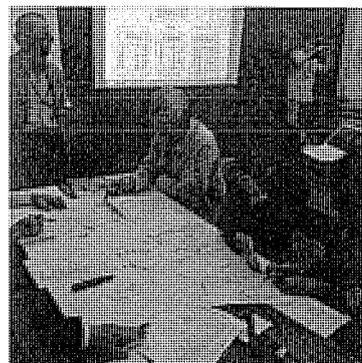
外部講師として、これまでも校区まちづくり研修、アドバイザーとして地域との関わりの深い十時裕氏（福岡市地域活動アドバイザー）をお招きし、校区運営メンバーを中心に地域活動リーダー約30名の参加によるワークショップを3回、香椎下原公民館で開催した。

	日 時	主 な 内 容	参加数
第1回	10/21（月）19：00～21：00	地域活動の洗い出し	28人
第2回	11/18（月）19：00～21：00	課題の共有	32人
第3回	12/9（月）19：00～21：00	見出し、改善点の整理	26人

ア 第1回ワークショップ

(ア) 香椎下原校区の現状（活動、組織）

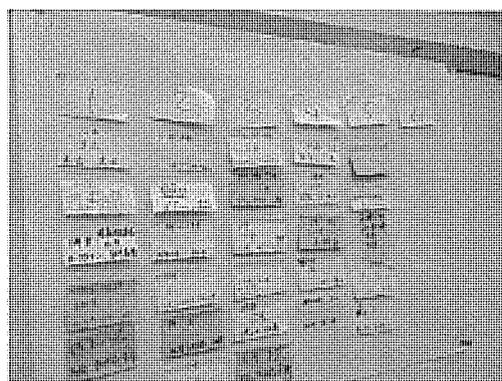
香椎下原校区は、まとまりのある15自治会と幹事会（部会）で構成される自治協議会で運営されている。地域の活動は、各団体とその活動を取りまとめる事務局を中心にこれまで培われた人の連携、経験の中で大きな変化のないまま校区行事が運営されている。



(イ) 参加者紹介、グループ分け

参加者に現在の地域でのリーダー（役職）についての動機、背景を3つの選択肢から選んでもらい、各カードに居住年数、まちの住み心地の満足度を記入してもらい、5班のグループ分けをした。

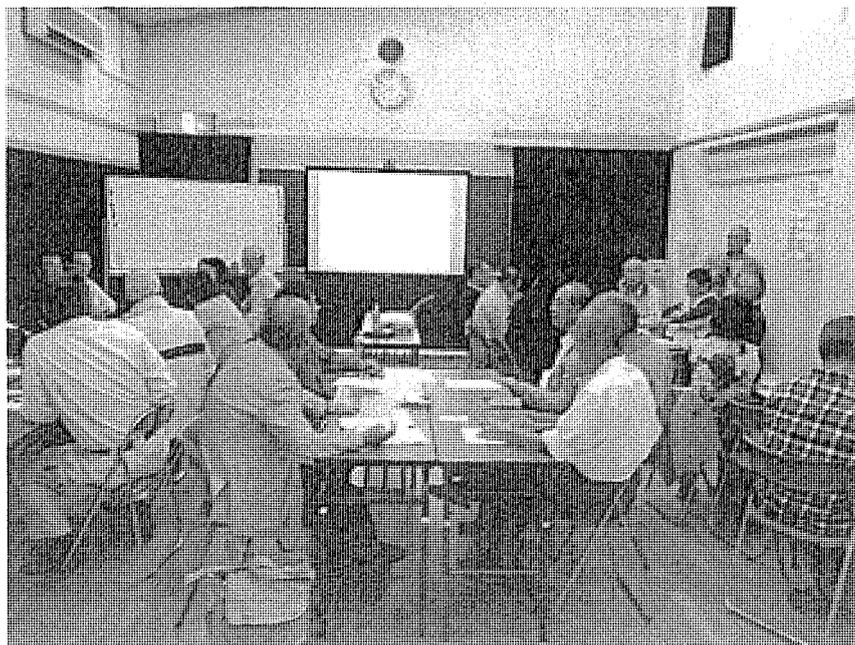
現在のポストに自ら積極的についた人はほとんどみられず、大半の参加者がこれまで活動してきた成り行きや突然の指名、順番によるもの等、やむを得ず現在の役割を担っている。



(ウ) 組織体制の課題

地域活動の組織体制は、固定化しており新しい活動、人材を受け入れにくいものになっており、組織の見直し、再編が望まれている。

幹事会が会議も少なく機能しておらず、命令系統が見えない頭でっかちな組織になっている。



イ 第2回ワークショップ

(ア) 前回の振り返り（地域活動、組織）

第1回ワークショップで整理された（A）地域活動の状況、（B）組織の体制についてどのようにとらえられているのか、の説明を行った。この情報をもとに2回目は、課題の共有と問題解決への糸口を探るための話し合いの場とする。

㊦ 地域活動の状況

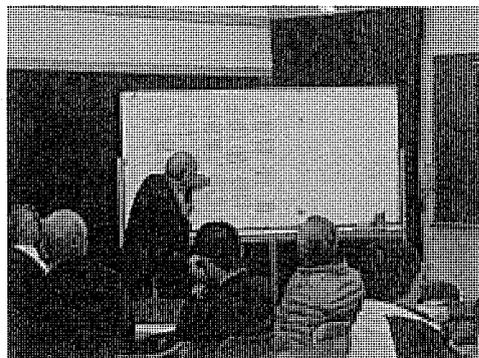
校区全体のシンボリック活動である「長谷ダム水がめまつり」があり、地域の交流ふれあいの場となっている。こうした校区行事がこれまでの慣例、実績で運営されていることで町内単位の活動の負担が少なく済んでいる。

㊧ 組織の体制

幹事会の活動が見えなく機能していないという意見と共に事務局集中、おまかせで、グループ間、住民同士の連携を図る会議、交流の場が少ないと感じられている。

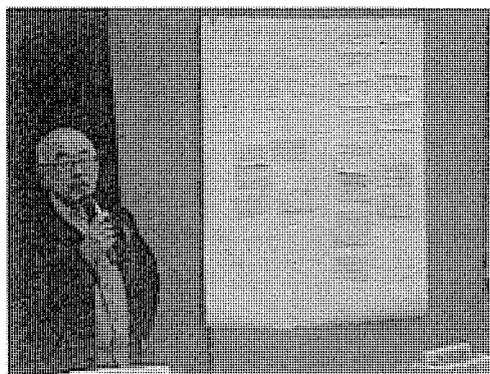
(イ) 参加者紹介、グループ分け

参加者同士の話しやすい環境をつくるため、各自のよく食べるお気に入りの鍋を記入した参加者カードを記入してもらい、グループ分けを行った。参加者カードをもとに各グループごと参加者同士の自己紹介を行った。

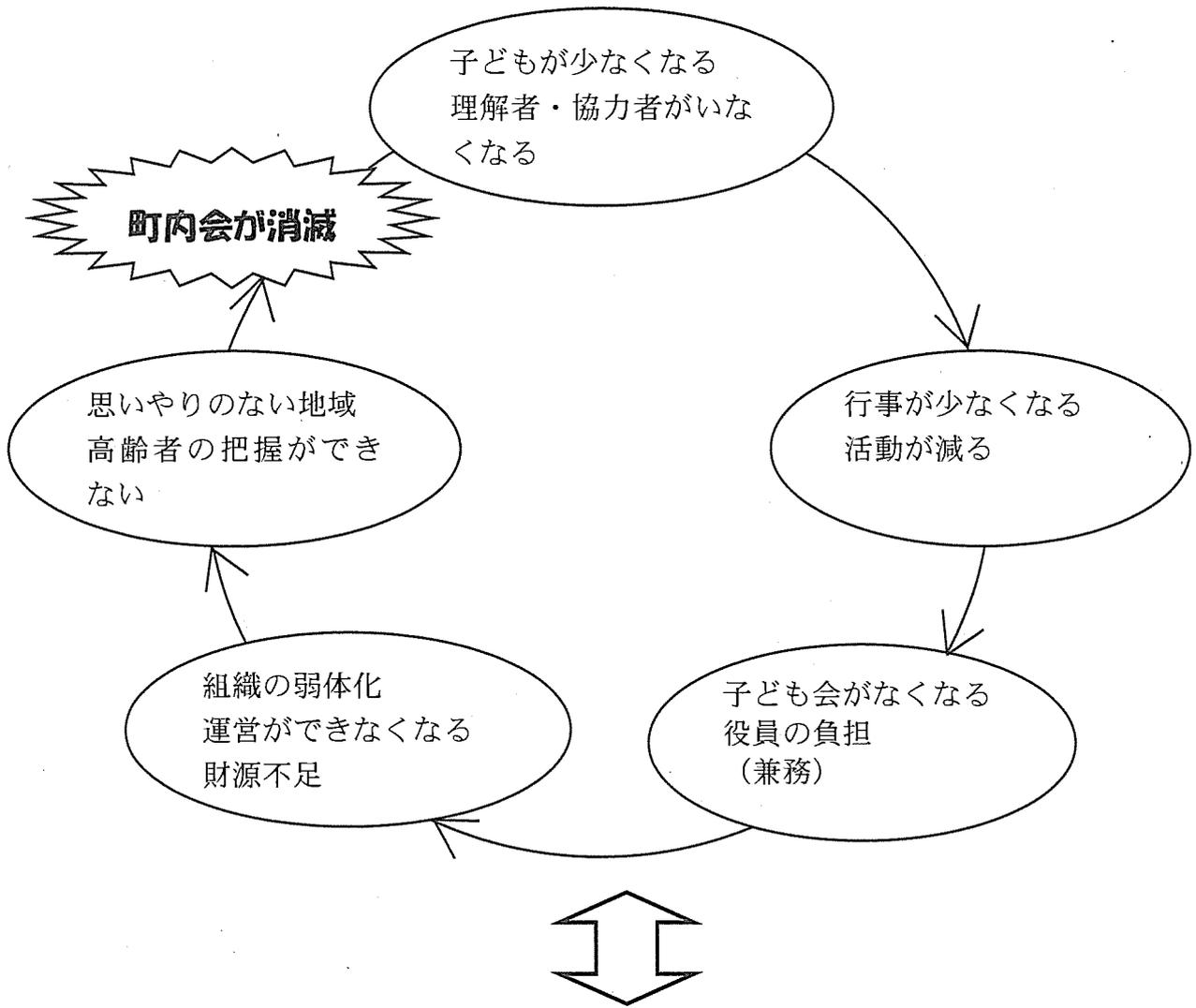


(ウ) 香椎下原校区の置かれている状況確認

香椎下原校区は、事務局が窓口になり、校区主催の行事がこれまでの体験・実績にもとづいて行われていることから、新しい取り組みが行える柔軟性に欠けている。校区活動と町内活動のバランスの取れた取り組みがベストであるが、校区活動がしっかりやられている反面、町内活動及び新規事業への取り組みが希薄化している。こうした現状を打開するため、何らかの改善・見直しの必要性が感じられている。



これからのストーリー



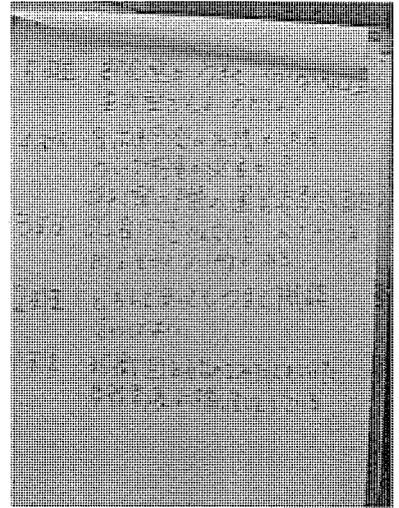
依 存	自分のやることではない。誰かやってくれる。
負 担	個人・家族主義、忙しい。
少子高齢	独居、高齢者所帯。

(エ) 今後の地域の将来予測

㊦ 地域活動が何故必要かを問う

後継者不足、住民の無関心と地域活動は大きな課題を抱えている。市民アンケートでは、地域活動の大切さは高く叫ばれているのに何故、こうした状況にあるのか？地域活動の必要性をもう一度、問い直してみた。

住民に地域活動への関心、参加を呼びかけるためには、役員等がその必要性を自信を持って働きかけることが第一歩。地域活動の必要性を改めて問われると？



人は一人では生きていけない、助け合いが必要。
高齢化が進む現状で、お互いが知り合いであることが大切。

㊧ 何もしなければどうなる地域活動の未来

無関心、後継者不足が続くと、地域活動がどうなるのかの予測を行い、今後の取り組みの緊急性を共有する。

今後の最悪のシナリオ

地域活動の担い手（役員）がいなくなり、一人ひとりの責務が増す。
これまでの活動が持続できなくなる。
特に子ども会、高齢者支援等がおざなりになり、思いやりのない地域に。
町内が消滅する。

(オ) これからの見直しのために（原因と解決策）

㊦ 原因と考えられる事項

地域活動が大切と感じられながら低迷している現状がある原因は、

住民側（社会）—— 価値感の多様化 核家族化（少子高齢化）
時間不足
地域側 —— 活動のマンネリ化、報酬（ボランティア）

㊧ 考えられる解決策

社会構造の価値感の変化、活動自体の問題も含めて、地域がやれる活性化へのヒントとなる解決策としていく。

対話、交流の機会を増やす。（祭、集い）
役員の仕事量、行事を減らす。
情報発信、広報のあり方を考える。
若い人、商工会等共に新しい企画を考える。（アンケート）

ウ 第3回ワークショップ（見直し，改善点の整理）

（ア）前回の振り返り，今回のプログラム

地域活動が低迷する原因は少子高齢化や核家族化といった社会構造の変化と活動のマンネリ化に代表される周辺社会環境と活動の実態そのものがあげられた。

こうした状況を打ち破るために大きく6つの改善テーマが出された。これらテーマについて具合的な取り組みを改善策として検討し今後の取り組みのヒントとしていく。

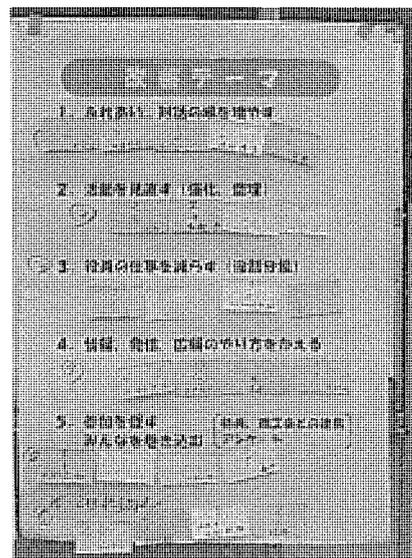
改善テーマ

1. ふれあい，対話の場を増やす
2. 活動を見直す（強化，整理）
3. 役員の仕事を減らす（役割分担）
4. 情報発信，広報のやり方を変える
5. 参加を促す
みんなを巻き込む } [特典、商工会との連携
アンケート
6. 組織

（イ）改善テーマの説明，グループ分け

6つの改善テーマを説明し，参加者が議論したいテーマに集まり6班を構成

- 改善テーマ
- ① ふれあい，対話の場を増やす
 - ② 活動を見直す
 - ③ 役員の仕事を減らす
 - ④ 情報発信，広報のやり方を変える
 - ⑤ 参加を促す，みんなを巻き込む
 - ⑥ 組織



(ウ) グループディスカッション

◆ 自己紹介

何故、このテーマを選んだのかを説明、テーマに対する関心、考え方を自己紹介と共に示す。

◆ アイデア出し

テーマに対して改善点、ポイントを出し合い、どんなことができるのかのアイデアを自由に出し合い、その可能性をひろげる。

◆ グループ移動（一人だけ席に残して他のグループへ）

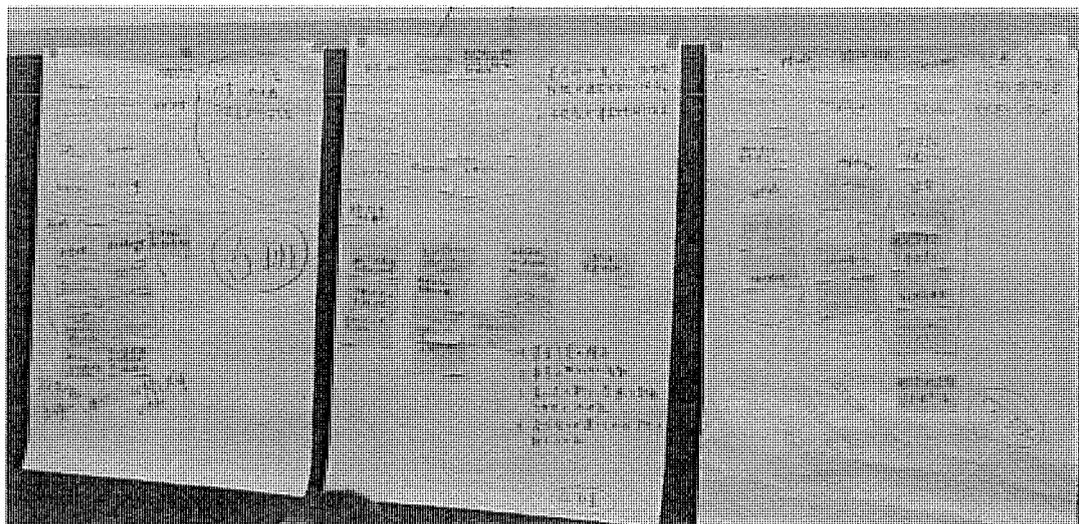
アイデア出し

テーブルのこれまでの議論を聞いたのちに、新しい参加者が気づいた点、ヒントを出す。

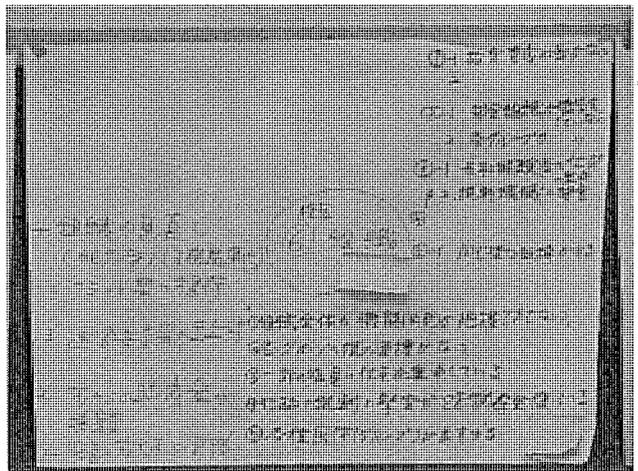
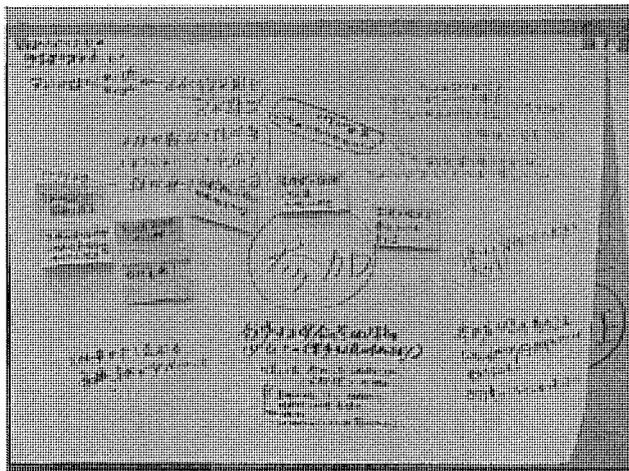
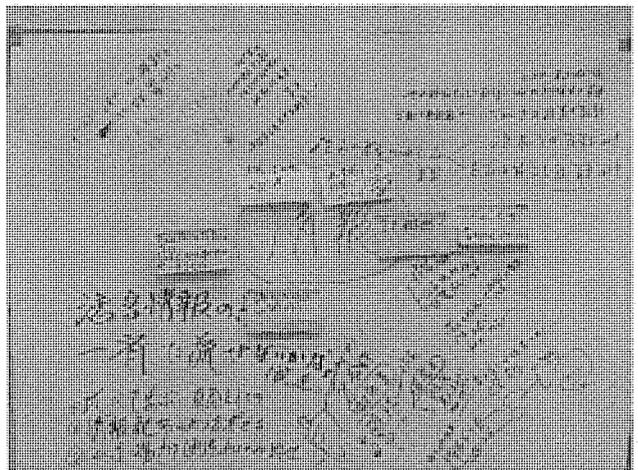
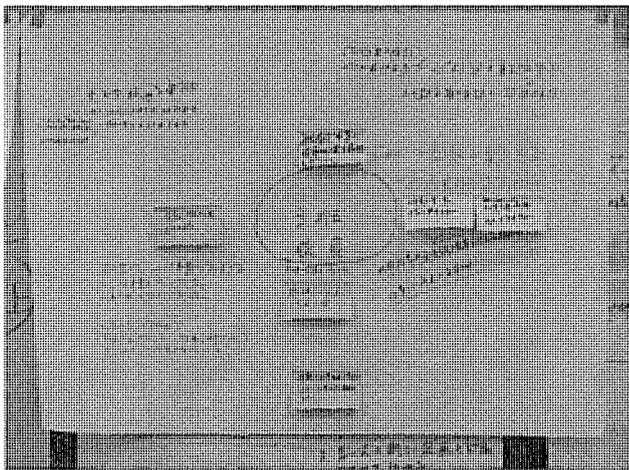
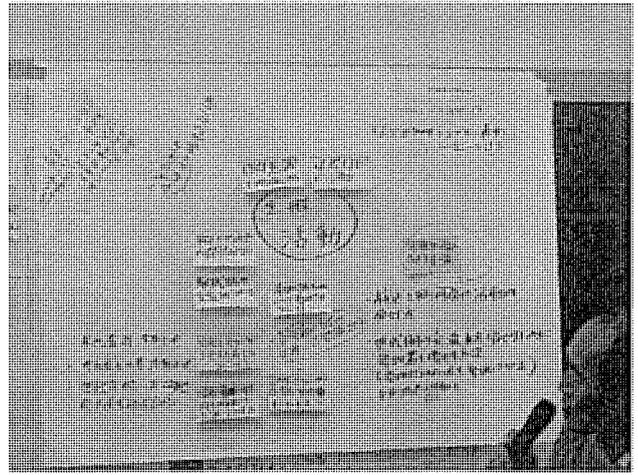
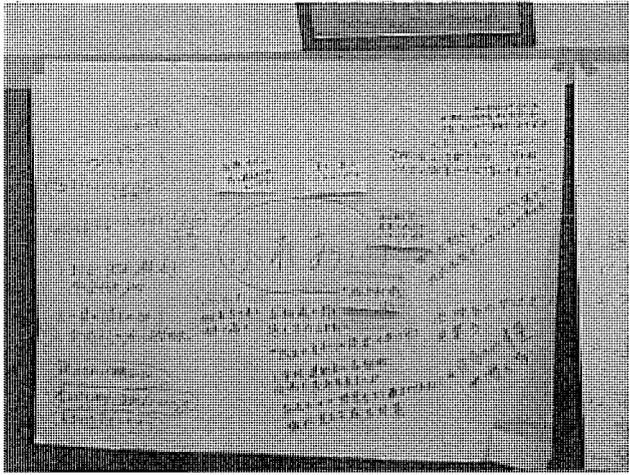


◆ グループ移動（最後のテーブルへ戻す）

2回目のグループで話された内容を参考にして、改善テーマのあるべき姿、その具体的方法を取りまとめた。



ふれあい	… 各団体間・世代間の交流，会話がない。校区行事を充実する。
活動	… 目的意識を明確にして，世代を超えた活動を。校区と町内の活動を分けて新しい視点を持って参加が増える取り組みを考える。
役員	… 特定の人に仕事が集中しないよう，みんなで平等に仕事の負担ができる組織体制の見直し。
情報	… 役に立つ情報が収集できるように各町内会で工夫し，IT機器等新しいツールを導入して校区の活動を広め，発信する。
参加	… 行事への参加が少ない。子どもの頃から，地域との関わりを持たせる機会を設ける。
組織	… 一部の役員に仕事が集中し，幹事会機能も低下，運営委員会を立ち上げ，フラット型の組織にする。リーダー育成を図る。



エ まとめ

(ア) 成果

これまで議論を避けてきた組織体制について、多くの意見交換がなされ、固定化した人事やマンネリ化した活動について積極的な改善策が出された。

特に独立した活動として見られていた各自治会間の話し合いがなされ、校区全体の活動に目を向けた自治会活動の情報交換の必要性が認識され、今後の自治体相互の連携の基盤は生まれた。

やっている人に任せて、われ関せず的になっていた校区事業の課題やあり方も話され、新しい住民、若い人を巻き込んだ活動の必要性が共有された。

(イ) 今後の取り組み

組織の見直しのポイントが出された気づきの状況ではあるが、地域リーダーの必要性が共有されたことで、役員会で具体的な対策が提案される環境が整った。特に幹事会の見直しについては、今回、参加者から関係者への説明を随時行い、早急な対応が図れるものと思われる。

(ウ) 取り組みに必要な作業（準備）と役割分担について

意思決定の中核をなしてきた役員会と事務局が新しい体制のあり方を示し、自治会を含めた校区全体の活動の整理が望まれる。そのためには自治会長の総意の取りまとめ、各種団体の定期的な会合の充実を図っていく。

(2) 東 区 和 白 校 区 自 治 協 議 会 ～より連携のひろがりのある体制づくりに向けて～

和白校区のデータ(平成 25 年 9 月 30 日現在)

- 人 口 11,375 人 (男 5,450 人、女 5,925 人)
- 世 帯 数 5,029 世帯
- 町 内 会 数 9 団体
- 校区の特徴

和白校区は、昭和 40 年頃から周辺で大規模団地が次々と開発され、昭和 49 年に美和台校区、昭和 52 年に和白東校区、昭和 56 年に奈多校区、平成 8 年に三苦校区が分離誕生して現在に至っています。

和白小・中学校は、4 校区が分離する以前はほぼ中心に位置していましたが、現在、三苦校区寄りに位置し香住ヶ丘校区沿いの世帯は、香住ヶ丘小学校に通学しています。

校区の海岸線には野鳥が飛来する和白干潟が広がり、沖合ではアイランドシティ整備事業が進行しています。また、歴史的な塩田の跡地約 27 ha では、地権者約 130 名の「新開土地区画整理組合」が設立され、今後の土地活用等について協議が行われています。

平成 24 年 3 月 10 日にオープンした塩浜 3 丁目の福岡工業大学塩浜総合グランド(FIT スタジアム)では、大学の硬式野球部が活動しているが、広く地域への利用も可能としており、校区と大学との交流の広がりが期待されています。

① テーマの選定及びその背景

和白校区は、集合住宅、戸建住宅が混在する郊外住宅地であり、伝統的な集落地域と新たな住宅地においてそれぞれの地域特性に合わせた地域活動が展開されています。

各町内会ごとの活動となる夏祭りやイベントが活発で不足する町内会相互の連携、交流を促す校区全体での活動のひろがり求められつつあります。

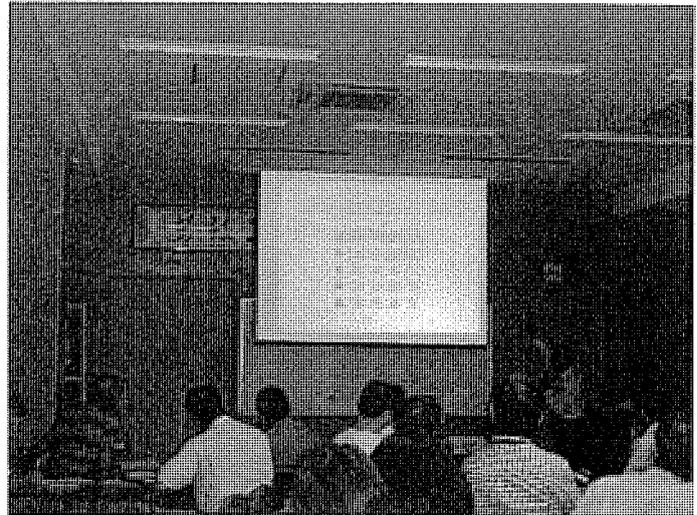
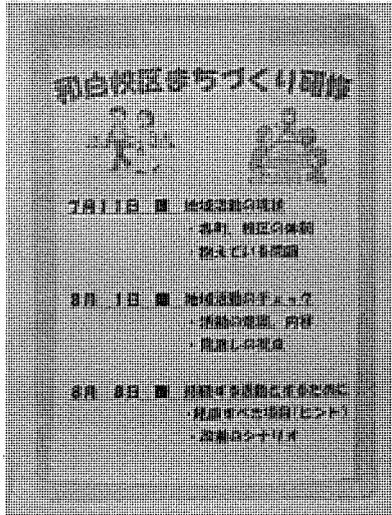
現在、今後予想される地域活動の停滞、衰退を招かないように各町内会と校区のバランスのとれた地域活動を継続、実施し、地域住民の助け合い、支え合える各組織、団体の連携ある取り組みが求められています。

② ワークショップの開催状況

外部講師として、十時 裕氏(福岡市地域活動アドバイザー)をお招きし、各町内会及び自治協議会の役員等の参加によるワークショップを計 3 回和白公民館で開催しました。

	日 時	主 な 内 容	参加数
第 1 回	7/11 (木) 19:00~21:00	地域活動の現状	29 人
第 2 回	8/ 1 (木) 19:00~21:00	地域活動のチェック	20 人
第 3 回	8/ 8 (木) 19:00~21:00	継続する活動とするために	18 人

ア 第1回ワークショップ



(ア) 対話のまちづくりのすすめ (情報提供)

価値観の多様化、社会構造の変化に伴い市民が目的を共有して一体的な活動をすすめていくためには、これまで以上に人と人との触れ合い、知り合うことが必要となってきました。

特に、同じ地域にいる住民という関係で成り立っている地域組織が今後、共に助け合い、支え合いその活動を継続、維持されていくには対話のある地域をつくっていく必要があります。

(イ) グループ分け

参加者全員が町内会長、その他のリーダー（男、女）別にポストイットに居住年数、住みごこち度を記入した参加者カードを作成し、各町内の参加者がバラバラになるように5班に班分けを行いました。

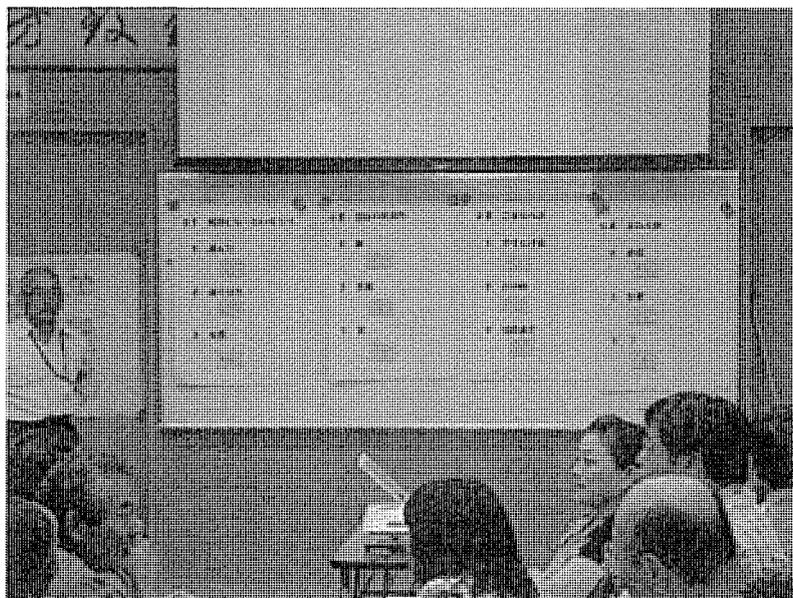
グループに分かれたのち多くの自由に創造的意見を引き出す、話しやすい環境づくりのために参加者カードをもとに自己紹介を行い、グループ内での相互理解、関係づくりを行いました。

(ウ) 関係づくり (リーダー意識の把握)

参加者がより良い関係で話し合っていけるようそれぞれがどんなポジションにいて、どんな考えに立っているかを旗揚げ、アンケートを行いました。

- 設問は
- ① 現在の役に付いたいきさつ。
 - ② 現在の役員としての活動の状況。
 - ③ 今後の目標、到達点は？
 - ④ 後継者を見つけているか？

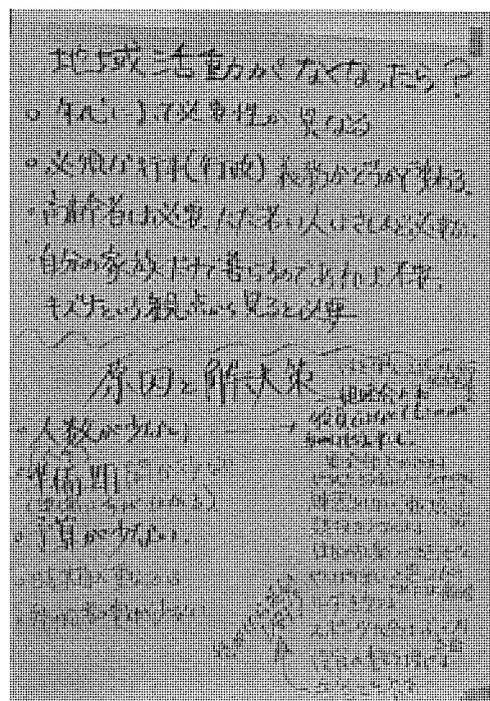
その結果、参加者の多くは進んで現在の役に付いてはいないものの実際やってみると楽しいと実感もあり、今後、ある目標まで達成するまで活動を続けるという意気込みが感じられました。役に付いてみると相応のやりがいが見出せているようですが、後継者を見出している人は約半数にも達していませんでした。



(エ) 地域活動は大切ですか

まず地域活動が有する問題を直視するため「地域は大切ですか」という質問を投げかけ、参加者の意見交換を行いました。地域活動の今後のあり方を検討するにあたっては、活動の意義、目的を今一度、共有することから始めその問題点、解決策に迫っていこうとするものです。

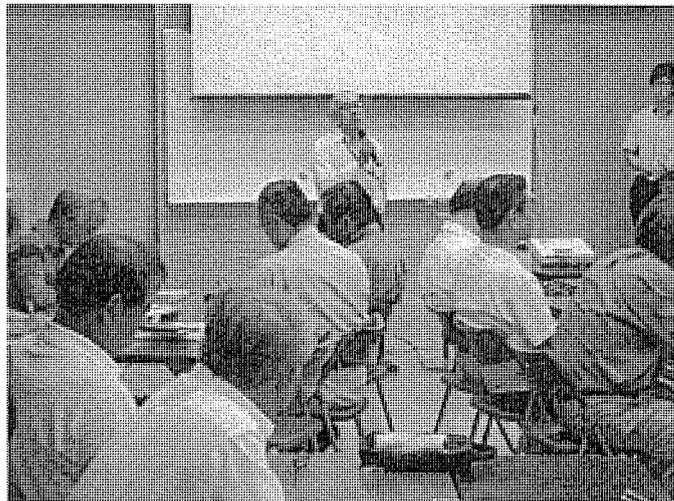
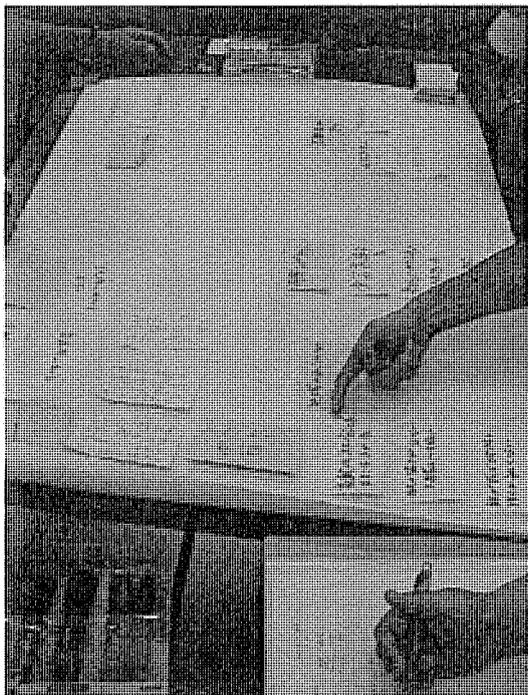
これまでやるのが当然のように習慣化していた地域活動が何のためにやっているかは意外に共有されておらず、あたためてこの問題を考えることで地域活動への関心度を高めていくことができました。



(オ) 直面している問題点の洗い出し

各町内がミックスされた5つのグループが町内の現状を出し合い、意見交換し、地域活動が直面する問題点を洗い出し整理しました。

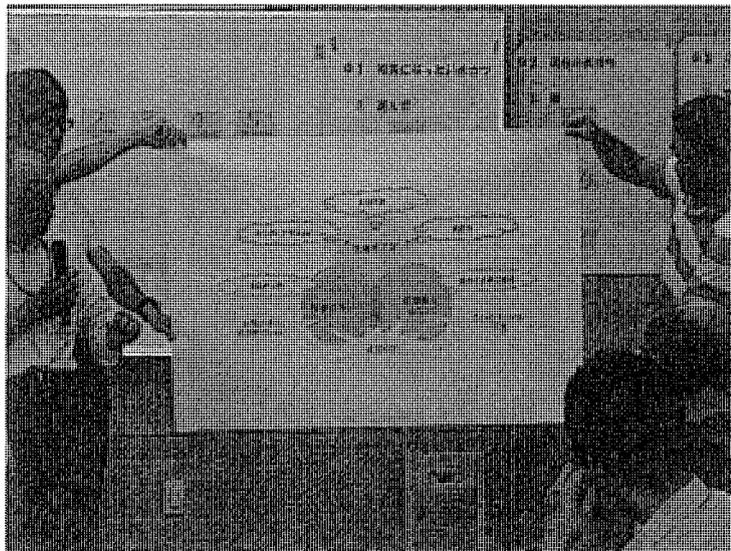
参加者が感じている共通の問題点は、地域活動のひとつひとつの事業にかかる労力、作業量、事業の数が多いということ、また、それぞれの事業にかかる準備、練習等が慣例化して、その時間を取られていることが全体のモチベーションを下げているという指摘がありました。



イ 第2回ワークショップ

(ア) 前回の振り返り

第1回ワークショップでは、地域活動への関心不足や後継者不足の主たる原因として、事業、役員、住民の仕事量の多さが共通の課題となっており、何らかの見直し、改善の必要性があげられた。



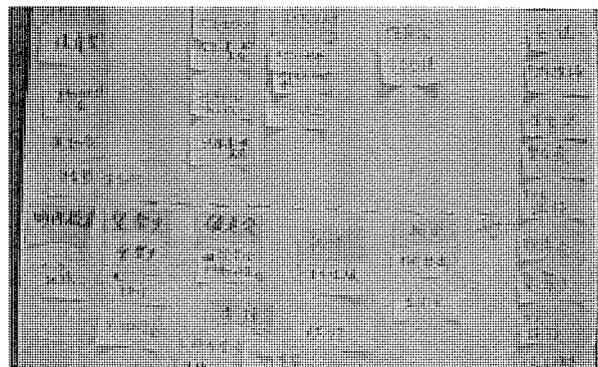
(イ) 関係づくり

各町内会、各種団体の役員からなる参加者がこれからの校区活動を連携して進めていくために仲間づくりにつながるように新たに5つのグループをつくりました。

(ウ) 地域活動のチェック

町内ごとに特徴を持つ地域活動を校区全体で見直すために各町内活動と校区行事の振り分けを行いました。町内活動はそれぞれの地域の変遷、伝統に裏付けされた町内活動が活発に行われている傾向が見て取れました。校区全体の活動はスポーツ、レクリエーションが多く、今後、夏祭り、敬老会等町内でバラバラにやられているもの見直しの必要性があげられました。

		会 議	
(体育祭)	(体育祭)	(体育)	(体育祭)
(祭)	(祭)	(体育祭)	(敬老会)
(敬老会)	(子供の球技)	(子供の球技)	(子供の球技)
(子供の球技)	(子供の球技)	(敬老会)	(子供の球技)
(大人の球技)	(祭)	(祭)	(大人の球技)
(子供の球技)	(祭)	(大人の球技)	(祭)

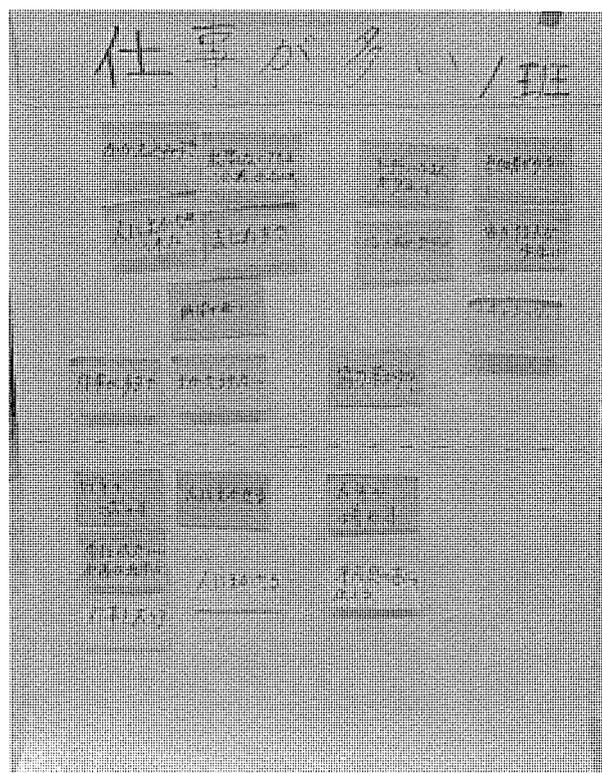
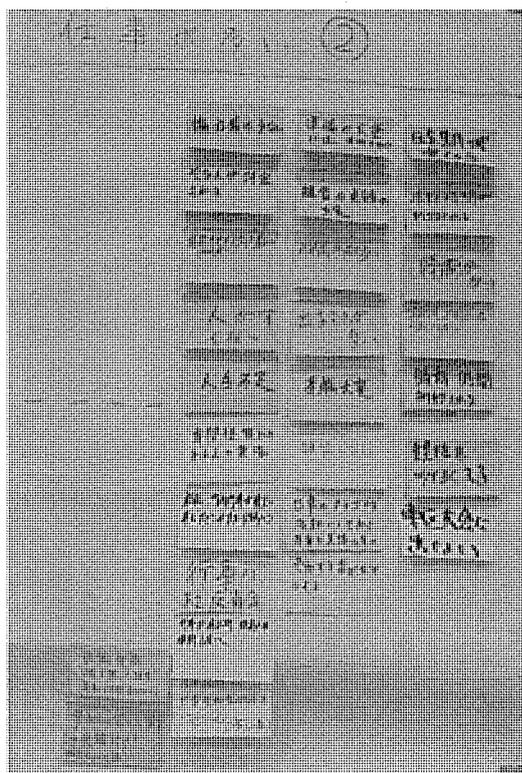


(エ) 課題解決の方向を探る

第1回目ワークショップで整理された主要な課題ごとにその原因を探り、解決策のアイデア出しを行いました。原因と解決策の相関を表は、以下のようにまとめられました。

原因	解決策
仕事が多すぎる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 役員の仕事を減らす。 ・ 町内活動を減らす。 ・ 人に任せる。
準備等の労力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 役割分担。 ・ スポーツ行事を検討する。 ・ 打ち合せ、段取りをシンプルに。
人手不足	<ul style="list-style-type: none"> ・ 達成感の喜びを伝える。 ・ 役割分担 ・ 楽しさをアピール ・ 手当を払う。

主要な課題をつくっている原因に各活動に必要な以上の手間、時間が特定の役員等に集中しているという指摘があり、こうした根本的な原因を解決する方法が話し合われました。



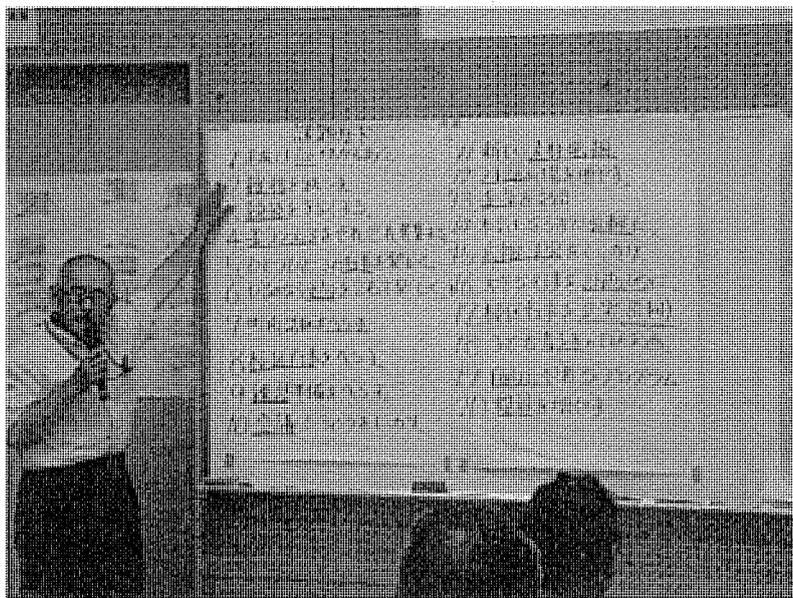
ウ 第3回ワークショップ

(ア) 前回の振り返り

前回では課題を分析して、それが起こっている原因と解決策を整理することができました。この解決策を吟味していくことで具体的な新しい活動につなげていく取り組みを考えている時期がきているという共通認識でまとまりました。

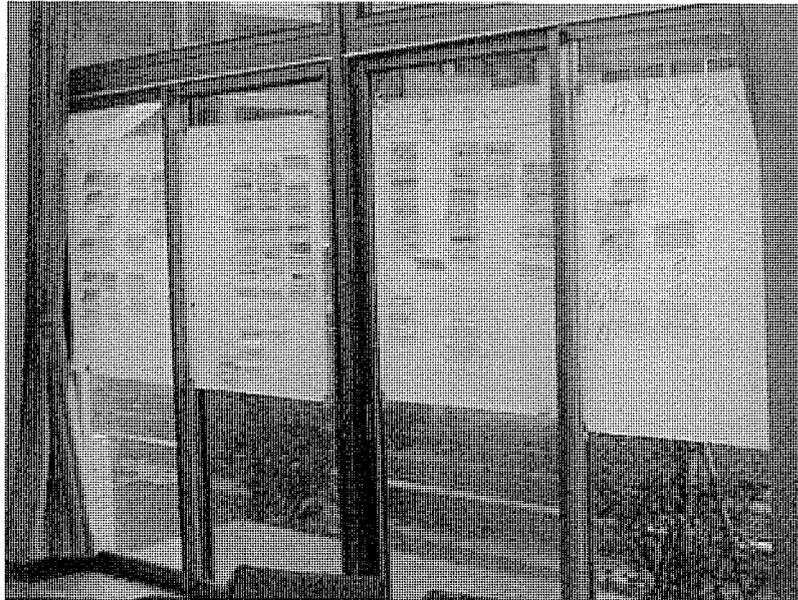
(イ) グループ分け

これまでのワークショップで出された意見をもとに20に整理された課題カードから参加者が重要と考えるテーマを選択し、そのテーマ別にグループに分かれて具体的な取り組み、アイデアを引き出しました。



テーマ一覧表

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 達成した喜びを分かち合う | 11. 新しい人材発掘 |
| 2. 雑務を減らす | 12. 対話の場を増やす |
| 3. 競技を少なくする | 13. 手当を支給 |
| 4. ボランティアをそれぞれ募集する | 14. 本気にならずに気軽に |
| 5. ひとつひとつの行事を楽しく | 15. 広報、PRをしっかり |
| 6. やるのなら文句を言わず楽しく | 16. 大きな行事を計画的に |
| 7. 町内活動を減らす | 17. 校区行事を充実 |
| 8. 校区行事を減らす | 18. 子どもと青少年の自主企画 |
| 9. 練習整備を減らす | 19. 自由にやれるプログラム |
| 10. 会議、ミーティングをしない | 20. 役員を増やす |



(ウ) 今後の取り組み（全体方針）

地域活動の活性化に向けては、(A) 仕事量の軽減、(B) 楽しさを増やす (C) 新しい人材、ボランティア等が選択され、それらテーマに沿った解決策が話し合われました。

㊦ 仕事量の軽減

- ・事業の内容、意味を今一度、検討し、地域に必要な活動を絞り込む。
- ・準備や練習に時間がかかっているのを見直す。

㊧ 楽しさを増やす

- ・お誘いや広報をひろく伝える。
- ・やった事の結果をできるだけ多くの人に楽しく伝える。

㊨ 新しい人材、ボランティア

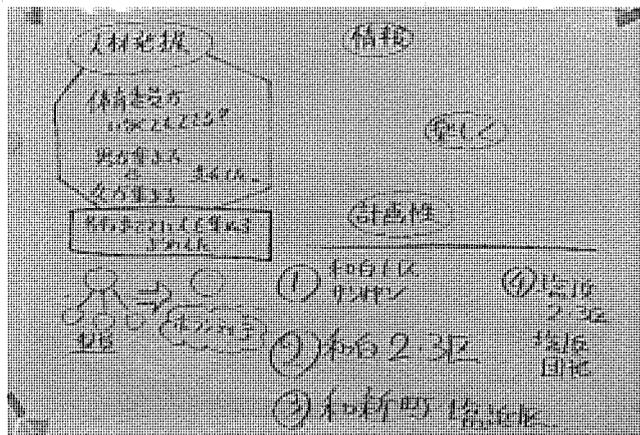
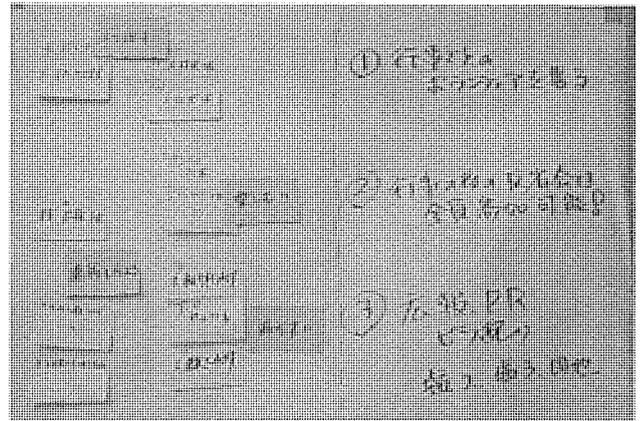
- ・あて職のように役員を事業に割り当てるのではなく、その事業ごとにボランティアを設けて、やれる人がやれることを自由に。

(エ) 具体的取り組み（町内別）

今後の取り組み（全体方針）を受けて、町内別の具体的にこれからの事業、活動をいかに改善するべきかが議論されました。全体方針で指摘された3つのポイントをクリアーしてみんなが参加していく地域活動としていくための改善点としては

- 全事業に役員等限られた人が動員をかけられてくるのではなく、行事ごとにボランティアを募り一人一人の負担を軽減する方法が必要
- 校区行事と町内行事との調整を図り無駄のない人出がダブらない地域活動を調整する
- 行事、事業が終わった後には反省会、振り返りを行い、次回に向けてステップアップする進化する活動めざし、マンネリ化を防ぐ
- 事前の情報通達、報告、広報を時間の余裕をもって行い、いろいろな人が参加できる環境、情報を伝えていく。

1.		
2.		
3.		
4.		
5.		
6.		
7.		
8.		



5 テーマ「高齢化等地域の課題に対応する新しい自治組織の創造」

(1) 早良区四箇田校区自治協議会 ～自治協議会の委員会組織を見直そう～

四箇田校区のデータ(平成25年9月30日現在)

- 人口 7,999人(男3,829人,女4,170人)
- 世帯数 3,474世帯
- 自治会・町内会数 7団体
- 校区の特徴

四箇田校区は、昭和54年四箇田団地の建設に伴う小学校の設立により4団体で発足し、その後平成14年度から四箇の3団体が編入し7団体になった比較的新しい校区である。

① 校区住民は、三つのタイプに分かれている。

ア 古くから住み主に農業を営まれている。イ. 新しく住居を構えられた新住民
ウ 一時的に居住されている住民

従って、町づくりに関わる積極性と考え方に大きな違いがみられる。

② 高齢者(65歳以上)が現在22%、平成30年には30%近くになる。

③ 自治協議会の組織率が現在49.8%と低い。これは、団地が19%他は80%台である。

自治協議会結成当初は、54%(団地約28%)であった。16年の世帯数が3,361世帯が現在3,474世帯であり増加しているにもかかわらず組織率が下がっている。

④ 校区の半分は調整区域であり、農業に利用され自然豊かな地域である。

① テーマの選定とその背景

ア 委員会を見直す理由

(ア) 現行委員会の問題点

各町内自治会が持つ困難点

- ㉚ 高齢化のため委員としての活動が十分にできる人材が不足。
- ㉛ 委員会の活動内容により適材適所人選が出来にくい。
- ㉜ 特に四箇本町は農業関係の役割があり現在1人がいくつかの役を持たざるを得ない状態である。
- ㉝ 団地自治会は会員が減少し委員に割り当てられない。
- ㉞ 委員適任者に男性が少ない。若い男性は勤めのため委員になりたがらない。
- ㉟ 高齢化が進み5年後には確実に33%になり、3人に一人は高齢者となる。
- ㊱ 会員数が減少し委員対象者も減少している。

※参考 24年以降の高齢化率の推移

24年度20.1%、25年度23.7%、26年度25.7%、27年度27.6%、
28年度29.9%、29年度31.8%、30年度33.6%

(イ) 委員会及び委員が持つ問題点

- ㊦ 委員会間で委員の活動量に差がある。
- ㊧ 委員会で人員不足のため、各町に支援をお願いする場合、困難な町がある。
- ㊨ 委員に女性が多くその為活動が制限される。
- ㊩ 男女共同参画委員会の日常的活動をどうしたらよいかの問題
- ㊪ 委員の意欲の問題
- ㊫ 委員が目的・活動内容に対する認識が浅い。活動している事が住みよい地域づくりにつながっている認識が低い。

(ウ) 問題点をまとめると

- ㊦ 委員対象者の高齢化，将来的に高齢化はもっと厳しくなる。
- ㊧ 会員減少等による委員対象者の減少 ㊨ 委員の女性化傾向

(エ) 委員会見直しの視点は

- ㊦ 高齢者でも出来る委員会活動
 - ㊧ 女性にも出来る委員会活動
 - ㊨ 少数委員で出来る委員会活動
- 上記の3項目を満たす委員会は
- ・少数による活動
 - ・地域づくりは住民の力で
 - ・適材適所，女性や高齢者を生かす
 - ・委員は事業の企画，運営にあたる

イ 取り組みの経緯

- 4月13日 役員会，運営委員会にて総会提案内容決定
- 4月28日 総会にて「運営や事業のあり方・委員会の活動や構成員等を見直す」ことを承認
- 5月11日 役員会 見直しの方法，日程等について審議
- 5月20日 役員及び各委員会委員長と協議
委員活動に携わっての問題点集約
 - ・委員が減少しても活動できる。
 - ・各町のバックアップ体制が必要
 - ・委員の役割を明確にする
 - ・活動のあり方を見直す
 - ・地域に関わる活動は，知己みんなで取り組むことが原則
- 8月10日 役員会にて「委員会設立の経緯について」の学習が必要と意見
- 8月15日 福岡市地域活動アドバイザーを交え今後の進め方について協議
 - ・地域づくりと委員会活動との関係を理解しておく
 - ・若い人を取り込む
 - ・見直しが必要であるとの声を皆から起こさせる
 - ・皆の意見を大切にする
 - ・多くの人の参加によるワークショップが有効である
- 8月31日 学習会中止(台風)のため，各自資料(別添資料1)をもとに学習
- 11月2日 委員会委員を対象に「委員会活動と地域づくり」について学習会とワークショップ実施
テーマ「活動に携わっての問題点と改善したいところ」
- 随時，役員・各委員会委員長で見直しの方向性を審議しまとめる。

② ワークショップの実施

11月2日役員及び委員会委員を対象にワークショップを実施した。

参加者 53名 (約40%関心が薄い)

7グループに分かれ「委員会活動をして困ったこと」「委員会はどうあるべきか」を話し合った。

ア 参加者の意見

(ア) 活動をしていて問題点等気がついたこと

- ・主たる仕事がよくわからない(男女共)女性の地位向上というが何をすればよいのか。昨年は婦人会のように『ゴミ集め』『手伝い』が多かったが他校区は講演をしている。しかし予算の問題がある。
- ・問題なし。委員が内容をよく理解している。(体振)
- ・委員を減らすなら各町の応援が必要(体振)
- ・無理にでも参加すると町内のことがわかる。(重留)
- ・青少年委員にしても体育委員にしても行政からくる行事が多い。こちらでセレクトしないと負担が大きい。
- ・青少年問題だが校区の子供が少ない。 ・記録がなく、引継ぎが不十分
- ・委員を決める時点で活動内容をあらかじめ知らせる。
- ・委員の構成は性別、青・壮・老のバランスがとれた組織であってほしい。

(イ) 委員会はどうあるべき

- ・運動会で各町必ず1名を出されるなら、委員は各町1名でよい。(体振)
- ・委員の中から委員長を出すことになるので体育振興会では絶対務まらない。
- ・委員は各町2名となっているが1名でもよい。(男女共)
- ・委員には、委員に出席できる人を選んで欲しい。
- ・委員を町内2名出すことに限界がある。
- ・仕事が減っているので2名でなくても良い。(防犯)
- ・仕事を持っている人が多いので1名では不安(防犯、重留)
- ・人数を減らすなら体制を整えなくては(体振)
- ・委員会どうしのコミュニケーションが必要。(重留)

(ウ) その他の意見

- ・10年以上委員をしている人がいるが。(体振)
- ・役員が10年も15年もしている代わりがないため止むを得ず。(団地)
- ・現行委員の問題点を出して話し合わないと
- ・委員会を代表する意見でなくてよいのか。
- ・自治協に若い人が入らない。入りやすい環境づくりが必要。皆でカバーし合う事。
- ・行事が多すぎる。運動会と夏祭りを1年ごとにしてはどうか。

イ ワークショップのまとめ

- (ア) 委員会活動について関心が薄い。その為か問題点や困難点があまり出なかった。
- (イ) 活動をしている意識より、させられている意識か。
- (ウ) 自分たちの活動が地域を支えている意識が薄い。
- (エ) 高齢化との関係は、委員を選任する立場の町内会長が切実に感じている事で、現委員は、感じていない。
- (オ) 将来的に高齢化の問題と地域づくりを危惧しているのは、会長等役員であるので、もっと地域の人々に理解してもらうことが必要である。

③ まとめ

ア 見直しの視点

- (ア) 構成員数
 - ㊦ 委員数を減らす。
 - ㊧ 現行の委員数を定数に近づける努力。定数外委員の取り扱いを明確にする。
- (イ) 委員会の再編
- (ウ) 委員、委員会の役割を明確にする。
- (エ) 委員会と地域づくりの関係を明確にする。
- (オ) 委員と委員会のあり方等の研修の持ち方を工夫
- (カ) 委員会運営の手引きをつくる（現行の手引きより抜粋）
- (キ) 引継ぎの方法を工夫する。

イ 具体的取組

- (ア) 構成員数
 - ㊦ 活力補助金の見直しが検討されているので、確定するまで現行容認。
 - ㊧ 早急に見直す（兼任の容認 外）
- (イ) 活力補助金の見直しが検討されているので、確定するまで見直し保留。
- (ウ) 委員の役割を明確にする。
- (エ) 各委員会の目的を再度明確にする。
- (オ) 委員会研修の持ち方・開催時期を考える。
- (カ) 運営の手引きの委員会部分を冊子にして配布
- (キ) 引継ぎの方法を工夫し26年度から実施する。

ウ 明確にするべき事項

○委員会の役割

- ・ 委員会は、目的実現のため事業の企画運営にあたる。
- ・ 事業内容によって、委員会のみで実現できないものは、各町内自治会へ支援をお願いする。
- ・ 事業内容に専門性が要求される場合は他の委員会へ支援を求める。

○委員の役割

- ・ 所属委員会の目的に従って活動する。
- ・ 委員は各町内自治会の要望等を委員会に伝え活動に生かす。
- ・ 委員会の意見等を委員所属各町内自治会に伝える。

・学習会のための資料 (25.10)

(1) 自治協議会発足時の委員会について

ア 設置の根拠

活力あるまちづくり支援事業補助金の交付要件である下記の必須事業を実施することとなった。

- ① スポーツ・レクリエーションに関する事業
- ② 交通安全の推進に関する事業
- ③ 地域で子どもを育む意識を醸成し、健全育成活動や非行防止に関する事業
- ④ 男女共同参画推進に関する事業
- ⑤ ゴミ減量・リサイクル推進に関する事業
- ⑥ 環境・美化に関する事業
- ⑦ 集団献血に関する事業
- ⑧ 健康づくり活動に関する事業
- ⑨ 防災に関する事業

イ アの事業を実施するため既存組織(連合会)をベースに決定した組織と目的

- ① スポーツ・レクリエーションに関する事業。(番号は設置の根拠の番号を指す)
 体育振興会(24年規約改正で委員会と改める):各町3名・四箇住宅2名
 目的:地域のスポーツとふれあいを深めるレクの振興
- ② 交通安全の推進に関する事業
 交通安全推進委員会:各町1名
 目的:地域の交通安全に関する事、安全安心な地域づくり
- ③ 地域で子どもを育む意識を醸成し、健全育成活動や非行防止に関する事業
 青少年育成会(21年委員会と改める):各町1名地域委員
 目的:青少年の健全育成に関する事。
- ④ 男女共同参画推進に関する事業
 女性協議会(17年男女共同参画委に改める):各町2名
 目的:男女共同参画に関する事・女性の人権と役割を考える。
- ⑦ ⑧ 集団献血に関する事業・健康づくり活動に関する事業
 衛生委員会:各町2名
 目的:地域の健康に関する事・健康の保持と増進を目指す。
- ⑨ 防災に関する事業
 防犯防災委員会:各町2名
 目的:防犯・防災に関する事。安全安心な地域づくり
- ⑤ ⑥ 環境・美化に関する事業
 環境推進委員会(19年市より校区に移管され委員会となる):各町2名
 目的:地域の環境浄化に関する事

(2) 委員会の目的等の見直しについて

平成 21 年 自治協議会「運営の手引き」を作成し、運営委員全員に配布。
当初作成した委員会の目的を修正し、具体的活動を付加した。

① 体育振興委員会

目標：地域のスポーツ・レクリエーションの振興を図り、住民の福祉の増進、
住民同士のふれあいを深める機会を作り、健康づくりに寄与する。

活動：体育的事業の立案と運営・校区健康づくり事業への支援
校区スポーツ大会の運営 外

② 青少年育成会

目標：青少年の健全な育成を図り、非行防止に寄与する。

活動：生活を切り開こうとする子どもの育成を目的とした事業の展開
非行防止をねらいとするパトロールの実施 外

③ 交通安全推進委員会

目標：地域の交通に関する安全の確保及び交通安全指導に寄与する。

活動：地域における交通安全確保のため地域の諸団体との連絡調整
交通安全運動期間(年 4 回)の街頭指導の実施 外

④ 衛生委員会

目標：校区住民の健康づくりに努力すると共に集団献血に協力する。

活動：住民の健康に関する啓発活動
集団献血の啓発と保健所補助活動 外

⑤ 防犯防災委員会

目標：校区住民が安心して暮らせる安全な地域づくりに寄与する。

活動：防災防犯に関する意識の向上を目指す啓発活動
防犯灯の管理と新設の申請 外

⑥ 男女共同参画委員会

目標：女性の地位向上を目指す。そのため、女性だからとの決め付けを廃し、
男女が人として尊重しあえる環境の醸成に努める。

活動：女性の人権に関する意識の向上を目指す啓発研修活動
女性の地位向上を目指す具体的取り組み

⑦ 環境推進委員会

目標：地域の環境破壊に目を配りと共に環境美化や地球温暖化問題解決に役立
つ取り組みに努力する。

活動：住民の環境問題に関する意識向上を目指す啓発活動
地域の生活環境悪化を防ぐため事前に問題を把握し改善に努める外

⑧ 各委員会共通

- ・定例会の実施
- ・活動目標の設定と概要報告及び問題提起 外

⑨ 問題点及び反省点

「運営の手引き」を平成 21 年度の運営委員には配布したが、その後配布しな
かったため、各委員会の委員までは浸透しなかった。

(3) 平成22年に補助金の必須事業(9項目)がまちづくり基本事業へ分類整理

ア まちづくり基本事業

- ① 安全・安心に関する事業（交通安全・防災及び防犯）
- ② 子どもに関する事業（子どもの健全育成・非行防止）
- ③ 環境に関する事業（環境美化及びごみ減量・リサイクル推進）
- ④ 健康に関する事業（健康づくり及び集団献血）
- ⑤ スポーツに関する事業（スポーツ・レクリエーション）
- ⑥ 男女共同参画に関する事業(男女共同参画)

イ 地域の活性化や問題解決に繋がる事業

・夏祭り，校区運動会，ドンド焼き 外

分類整理されたが，既存の委員会でもまちづくり基本事業を実施できるので，変更なし

(4) 現在の事業と委員会

交通安全の推進に関する事業

（交通安全推進委員会）

スポーツ・レクリエーションに関する事業

（体育振興委員会）

地域で子どもを育む意識を醸成し，健全育成活動や非行防止に関する事業

（青少年育成委員会）

男女共同参画推進に関する事業

（男女共同参画委員会）

ゴミ減量・リサイクル推進に関する事業

（環境推進委員会）（リサイクルステーション運営委員会）

環境・美化に関する事業

（環境推進委員会）

集団献血に関する事業

（衛生委員会）

健康づくり活動に関する事業

（衛生委員会）

防災に関する事業

（防犯防災委員会）

その他の事業（夏祭り，校区運動会，環境浄化運動，ドンド焼き 外）

6 テーマ「自治会・町内会の活性化」

(1) 東区千早西校区自治協議会

～よりよい町内会運営に向けての課題の共有～

千早西校区のデータ（平成25年9月30日現在）

○人口 6,835人（男3,224人, 女3,611人）

○世帯数 3,048世帯

○町内会数 15団体

○校区の特徴

千早西校区は、国道3号と都市高速道路に挟まれた校区で、戸建住宅と集合住宅のほか、商業施設も立地しています。平成25年度からは、千早西小学校が道徳教育推進モデル校に指定され、自治協議会、小学校、公民館が連携して「こころ輝くまちづくり」を進めています。

① テーマの選定及びその背景

千早西校区では、よりよい町内会の運営を目指すため、町内会長をはじめとする役員らの悩みや課題を話し合い、その課題の解決に向けて意識を共有するためにワークショップを開催した。一定の結論を導き出すというよりも悩みや意識を共有することに主眼を置いた。

② ワークショップの開催状況

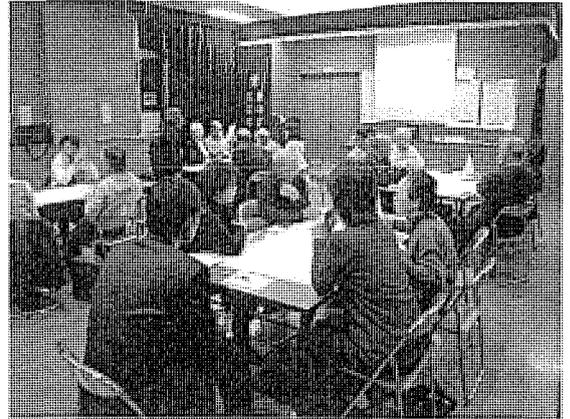
外部講師として福岡市地域活動アドバイザー貞清潔氏を招き、自治協議会役員、部会長、町内会長等が参加して、千早西公民館でワークショップを2回開催した。

	日 時	主 な 内 容	参加数
第1回	12/4（水）19:00～20:30	市民意識調査結果について	22人
第2回	1/8（水）19:00～20:30	地域活動・組織運営の課題や工夫、今後に向けて	23人

ア 第1回ワークショップ

(ア) プログラム

- 1 開会・あいさつ
- 2 <ワークショップ>
 - ①プログラムの紹介
 - ②市民にとって町内会は？
～市民意識調査結果を用いて～
 - ③市民意識と町内会について意見交換
 - ④発表
- 3 閉会



(イ) ワークショップ

■市民にとって町内会は？

平成24年度市政に関する市民意識調査の結果での「地域活動は大切だと思いますか？」と「地域活動に参加していますか？」の設問について、肯定的な回答の割合を予想してみた。

「地域活動は大切だと思いますか？」について、各班の予想では「そうだと思う」「どちらかと言えばそうだと思う」を合わせて55%～70%だったが、実際の結果は91.1%だった。

「地域活動に参加していますか？」について、各班の予想では「よく参加している」「ときどき参加している」を合わせて18%～30%だったが、実際の結果は34.2%だった。

いずれもワークショップ参加者の予想より肯定的な回答の割合は高かった。

■市政に関する市民意識調査の結果について

講師から、パワーポイントを使って、地域活動に関する調査結果について平成22年度、24年度の意識の変化などの説明があった。

■市民意識と町内会活動について意見交換

<主な意見>

- 地域活動の大切さは90%とみなわかっているが、参加していない人が65%いる。みな人任せである。
- 参加したきっかけは、友人・知人、地域の役員に誘われた人の割合が高い。やはり呼びかけは必要だと思う。
- 参加しなかった理由で、地域活動に関心がないからがかなり増加していることがとても気になった(H22:8.0%→H24:14.3%)。
- 大切と思う活動は、防犯、子育て、高齢者だとみなわかっている。これを実現するにはどうすればよいかをやはり校区や町内で話し合うことが必要。

- 大切だと思う活動と参加した活動が比例していないことがとても問題だと思う。住民が望んでいる活動を創り出す必要がある。
- 町内会へ加入してない理由として、加入を勧められたことがない 65.3% (H24)、活動や運営状況がわからないから 35.5% (H24) は、理解できない。
- 福岡市に自治協議会ができて 10 年にもなるのに認知度が低すぎる(まったく知らない 50.3% (H24))。

イ 第1回ワークショップ

(ア) プログラム

- 1 開会・あいさつ
- 2 <ワークショップ>
 - ①プログラムの紹介
 - ②前回の振り返り
 - ③地域活動の活性化に向けて
 - ・地域活動や組織運営の課題と工夫
 - ・これからの地域活動や組織運営で大切にしたいこと
 - ④発表
- 3 閉会



(イ) ワークショップ

町内会や自治協議会等の活動，組織運営の課題を知り合い，これからの活動の活性化に向けた工夫について話し合った。

■地域活動や組織運営の課題

<主な意見>

- 行事の参加者を集めることが大変。
- 行事の準備作業などへの住民の協力が得にくい。
- 町内会長，役員のみ手がない。
- 町内会長や役員への理解不足，引継ぎ不足がある。
- 住民の情報がなく，ワンルームマンションへのなどへの対応が難しい。

■地域活動や組織運営の工夫

<主な意見>

- 参加された方にはできるだけ声かけし、コミュニケーションを図るようにしている。
- 若い世代を誘うため、また子ども達の顔を覚えてもらうためイベントを行う。
- 行事への参加は、現役員だけでなく旧役員にも依頼して各行事への参加を呼び掛けてもらっている。
- 告知方法に気を使っている。回覧物には、重要事項にはマーカーを引いたり、手書きするなどしている。
- 町内会の定例会議では、わかりやすい資料で説明を行う。口頭だけの説明ではだめ。
- 月に一度の組長会で情報伝達し、仕事の分担を行っている。
- 綿密な役割分担をし、担当を確実にする。
- 日ごろから、挨拶、声かけを重視している。
- 隣に座った人にはいろいろ自治会活動について話しかける。

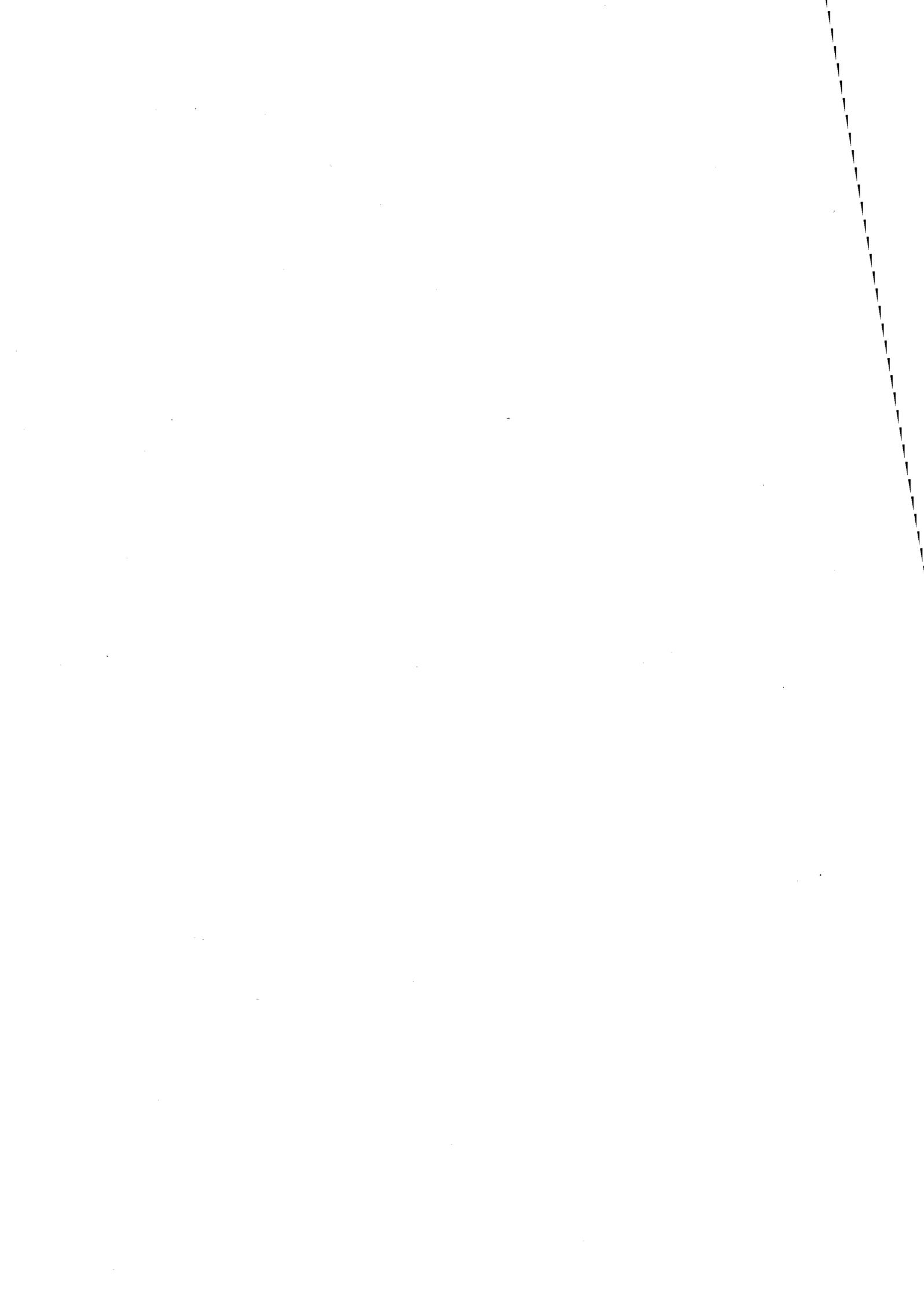
■今後の地域活動や組織運営で大切にしていきたいこと

<主な意見>

- 町内の人達が仲良くなることが大切、そのためには町内会（定例会）を月1回～2カ月に1回開催していろいろなことを話す。
- 予算や行事などは、町内の人々が納得できることをやっていく。
- 町内会の活動はボランティアであり、仕事ではないため、やれることをやれる範囲で一生懸命やればよい。
- 自分が住む所だからみんなと仲良くしていく。
- コミュニケーション！いつでもどこでも誰とでも。
- 周りの方への心配り、人の輪を広げる。

② まとめ

今回のワークショップでは、同じような居住形態による4班編成を行ったうえで、ワールドカフェ形式でも意見交換を行った。共通する悩みや相違する悩みなどを確認することで地域活動や組織運営についての改善のヒントも得ることができた。ここで出された悩み、考え方を次期役員にも伝え、継続して役員をする際の心がけや工夫のヒントなど、地域活動や組織運営が少しでも改善できるように、成果をみんなで共有していくこととした。



◆作成

福岡市市民局コミュニティ推進部コミュニティ推進課

〒810-8620 福岡市中央区天神1丁目8-1

電話 092-711-4286 FAX 092-733-5595

メール community.CAB@city.fukuoka.lg.jp

ホームページ <http://www.city.fukuoka.lg.jp/community/>

◆「地域支援課」の連絡先

東区 電話 092-645-1041 FAX 092-645-1042

博多区 電話 092-419-1048 FAX 092-434-0053

中央区 電話 092-718-1062～3 FAX 092-714-2141

南区 電話 092-559-5071～5 FAX 092-562-3824

城南区 電話 092-833-4062～4 FAX 092-822-2142

早良区 電話 092-833-4416 FAX 092-851-2680

西区 電話 092-895-7036 FAX 092-882-2137

第3回

福岡市自治協議会サミット

□開催日時：平成26年8月26日（火）13:30～（13:00開場）

□開催場所：ももちパレス（福岡県立ももち文化センター）

大ホール

□主催：福岡市 福岡市自治協議会等7区会長会

自治協議会サミットプログラム

時間	プログラム
13:00	開場
13:30	開会
13:40	自治貢献者感謝状贈呈式
14:00	<p>事例発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「人材育成～新任町内会長向けの研修の実施と引き継ぎ資料の作成～」 中央区草ヶ江校区自治協議会 会長 宮原 泉 中央区草ヶ江校区自治協議会 副会長 竹下 浩子 ○「住んでよかったそんな街に」 早良区野芥校区自治協議会 会長 行徳 収司 ○「安全・安心のまちづくり」 東区青葉校区自治連合協議会 事業部会長 救仁郷 登喜男 東区青葉校区自治連合協議会 事務局長 木村 妙子 ○「防犯で住みよいまち 吉塚」 博多区吉塚校区自治協議会 会長・防犯委員会会長 笹山 守人 博多区吉塚校区自治協議会 副会長 棚田 正憲 博多区吉塚校区自治協議会 副会長 萩原 純子 ○「地域のシンボルづくり ～世代を超えた地域住民が参加できる新しい祭りの創設～」 南区西高宮校区自治連合会 副会長 甲斐 育子 ○「出あい ふれあい 助けあい 明るいわが町 わが校区」 城南区城南校区自治協議会 会長 稲益 重樹 城南区城南校区自治協議会 副会長 川島 恭子 ○「北崎の魅力とまちづくり活動～北崎を考える会～」 西区北崎校区自治協議会 会長 柴田 敏昭
15:15	休憩
15:25	<p>意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コーディネーター：福岡市地域活動アドバイザー 十時 裕 ○コメンテーター：各区事例発表団体 福岡市自治協議会等7区会長会代表 石川 孝治 " 平山 清子 福岡市 東区長 日下部 修
16:30	閉会

活動事例発表

「人材育成～新任町内会長向けの研修の実施と引き継ぎ資料の作成～」

中央区草ヶ江校区自治協議会 会長 宮原 泉
中央区草ヶ江校区自治協議会 副会長 竹下 浩子

校区の特徴

- ・九大六本松キャンパス跡地や福岡大学附属大濠高等学校などがある文教地区と護国神社、旧陸軍墓地がある谷公園などの緑に包まれた住宅地区という性格を合わせ持っている。
- ・昭和 2 年に大濠公園で開かれた博覧会を機に、城南線が開通して急速に発展を続け、現在も、交通の要衝として副都心的な性格を持っている。
- ・地下鉄 3 号線の開通、さらには九州大学六本松地区跡地の開発と合わせて、さらなる発展が期待されている。

【校区の現況】（平成 26 年 3 月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65 歳以上人口（割合）
15,039 人	7,970 戸	1.9 人/世帯	2,566 人（17.1%）

活動について

1. 概要

初めて町内会長となる方に町内会、自治協議会の活動を理解していただくために、その活動内容をまとめた研修資料を作成し、その資料を活用して研修を実施している。

2. きっかけ

町内会長が 2 年に 1 回交代される場所があり、1 年目は何もわからず、2 年目で少しわかってくる。新任の町内会長にも、早く活動について理解していただく必要があると感じたこと、また、重要な引き継ぎ事項の漏れや誤解が生じることもあったので、具体的でまとまった説明資料が必要と感じた。

3. 経緯

これまで自治協議会役員や事務局で作成してきた資料を、役員で話し合い、新任の町内会長を想定した説明資料にまとめ、研修資料とした。現在はこの資料を活用して、新任町内会長を対象に自治協議会役員が講師となり、研修を実施している。

4. 成果

- ・町内会長が交代しても、スムーズな移行ができるようになった。
- ・町内会長の役割や、自治協議会の活動内容を説明することで、新任会長の不安軽減にもつながっている。
- ・町内会加入率が 94% と高く維持できている。

5. 苦労した点

- ・新任の町内会長向けの研修会では、町内会活動の大切さや楽しさを伝えることに苦労している。
- ・2年間で交代してしまう町内会長は、有能な人材であっても役職に就けることができない。
- ・町内会長を辞めることで活動から遠ざかってしまうことが多い。

6. 工夫した点

- ・マンション建設の際の管理会社との交渉の仕方や町内会費に関する覚書の書式を具体的に示すことで、町内会長の負担を軽減している。
- ・町内会に貸付けしているヘルメットやジャンパーなどの備品台帳を作成した。

7. 今後の目標・課題

- ・後継者（若い世代の人）を育てるためにも、役職を次の人が引き受けやすい環境づくりが大切なため、今後も工夫していきたい。
- ・町内会長の仕事に、魅力ややりがいをもてるようにしていきたい。
- ・町内会長を辞めても、活動に残ってもらえるような仕組みを考えたい。

皆さんにぜひ伝えたいこと

- ・町内会長の仕事は、住民の皆さんの理解と協力が不可欠。
- ・人材を発掘して育成するためには、リーダー的な人の声掛け、気配り、支援が大切。

「住んでよかったそんな街に」

早良区野芥校区自治協議会 会長 行徳 収司

校区の特徴

- ・西油山の麓にあり、緑豊かな自然環境の中、263号線を挟んで東西に広がっている校区である。
- ・商業施設や店舗等も多く、地下鉄3号線、外環状線、都市高速の開通などにより、近年、戸建て、アパート、マンションの建設が進み人口が増えているが65歳以上の人口率も高くなっている。

【校区の現況】（平成26年3月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65歳以上人口（割合）
11,541人	5,117戸	2.3人/世帯	3,129人（27.1%）

活動について

1. 概要

校区自治協議会の14町内、14団体のほか、小中学校とそのPTA、保育園・幼稚園、保護司会、野芥南商工連合、どこのけ会（地元有志の団体）などが一堂に会し、自治協・公民館が「年間テーマ」を提案する。また、各団体からの要望を聞いたり、基調講演を実施したりしている。

2. きっかけ

町内会連合会の時代に、各町内会や各団体間の連絡が十分でないまま行事が決まり日程が重なることが往々にしてあったと聞いていた。年度当初に各団体が集まり日程を調整することで、各団体の行事をスムーズに進め、相互理解を深めるようにしたいということから始まった。

3. 経緯

昭和57年度第1回野芥サミットはテーマを「住んでよかったそんな街に」と設定してスタートした。平成26年度で33回を数え、この間のテーマは青少年健全育成、地域づくりと人権、地域の活性化を目指して、ごみ問題と地域の人間関係、子どもや高齢者が住みよい街に、安心・安全の街づくりなど様々なテーマを追求してきた。

平成16年度は自治協議会のスタートに当たり「自治協議会とまちづくり」というテーマで話し合った。

平成26年度のテーマは「野芥校区あいさつでつなぐ人の和・地域の和」であった。この間、町内会連合会傘下の町内会の集まりから校区で活動する団体に呼び掛けて30団体以上の三役100名近くの人々が参加するようになった。

4. 成果

年度当初に開催されるため、各団体等の取組みが早い時期にわかり協力体制を取る場合に早めに対応できる。

また、各団体の三役紹介を行うことにより、顔と名前の確認を取ることができる。

さらに、自治協や公民館以外の団体に案内することにより、より広範囲の団体が共通目標を持ち活動を展開できる。

サミット開催時、自治協議会が情報を集めて作成した野芥校区年間行事日程表を配布することで各行事が校区全体に認識される。

5. 苦労した点

100名近くの参加者を収容できる施設が少なく参加者も椅子のみの状態である。現在は、民間の施設を借用しており準備に労力を要しているため公設の施設の必要性を強く感じる。

また、規約や要綱が無くテーマについても各団体の自主性に依存している。そのためテーマの継続性や深みのある活動が気になるところである。

6. 工夫した点

年間テーマについては青少年に関するもの、高齢者に関するもの、安全安心について、環境美化問題など「住んでよかった野芥の街」と言われるように数年おきに繰り返している。

役員交代期においては必ず三役紹介をし、全員に徹底するようにしている。節目の時期には1時間程度の基調講演を行って学習的要素を入れている。

平成23年度の「東日本大震災救助活動の現場から」は救助活動に赴いた福岡市職員から、平成25年度は「地域と精神障がい者の共生を目指して」と題して地元病院から講演をしていただいた。

また、サミット終了後は必ず「懇親会」を開催し交流を図っている。

7. 今後の目標・課題

サミットのテーマがマンネリ化しないような工夫、参加者（三役）の枠の拡大、校区内のあらゆる団体の把握（網羅できているか）。

皆さんにぜひ伝えたいこと

自治協議会の活動を幅広く厚みのあるものにしたいと思います。

野芥公民館では週3回、2時間ですがコーヒーコーナーを開設し身近な公民館として気軽に立ち寄れるように取り組んでいます。自治協議会もコーヒーコーナーを訪れる人のために新聞3紙を揃え好評を得ています。このような公民館との協力が校区の皆さんの関心呼び校区の発展に繋がればと期待しています。



「安全・安心のまちづくり」

東区青葉校区自治連合協議会 事業部会長 救仁郷 登喜男
東区青葉校区自治連合協議会 事務局長 木村 妙子

校区の特徴

- ・青葉校区は、山陽新幹線とJR香椎線に挟まれ、北側には三日月山を臨む緑豊かで閑静な住宅地域である。
- ・青葉小学校、青葉中学校、東福岡特別支援学校、東部療育センターが公民館近くにまとまって建っており、お互いの連携も密である。また地域の住民の学校に対する理解も深く、協力も積極的である。
- ・総合病院である原土井病院などの各種医療施設に加え、高齢者介護施設であるデイサービスセンターや通所介護施設等も校区に点在し、福祉面で恵まれた地域という住民の意識も強い。地域での生活向上、福祉の向上のため意識の高い人が多く、校区内の各種団体はそれぞれ大変活発に活動し、自治連合協議会を中心として連携も密である。一方、積極的活動者の高齢化は進んでいる。若い世代への活動継承は大きな課題である。

【校区の現況】（平成26年3月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65歳以上人口（割合）
12,301人	4,730戸	2.6人/世帯	2,772人（22.5%）

活動について

1. 概要

各町内から一名ずつの防犯推進委員で組織される「防犯組合」に加え、独自に「自警団青葉安全パトロール隊」・「自警団女性パトロール隊」・「シニアパトロール隊」を組織し、夜間・子どもの下校時間・登校時間等、校区内のパトロール、子どもの見守り活動を続けている。

入学・卒業式の前夜には、深夜3時から学校周辺をパトロール、学校公開日には不審者の侵入が無いよう学校内のパトロール、各学校の運動会や校区の体育会の時には会場内はもちろんのこと、留守がちになる校区内を巡回パトロールする。

香椎の花火大会の日には、青葉公園周辺の駐車場整理、違法駐車の見回りも実施している。環境活動推進会議の呼びかけで「わんわんパトロール」の黄色い帽子をかぶって犬の散歩をする活動もある。

2. きっかけ

平成13年に防犯組合長に就任された救仁郷さんが、町内の防犯推進員の皆さんと始められた夜のパトロールが自警団発足のきっかけだった。

3. 経緯

最初は男性の有志による自警団の夜のパトロールから始まり、その後女性パトロール隊が結成され子ども達の下校時のパトロール、ねんりんクラブの皆さんの協力によるシニアパトロール隊の登校時のパトロールと活動が広がっていった。その頃栃木、広島、奈良などで、子どもが大切な命を奪われ

る事件が相次ぎ、このようなことがけっしてあってはならない…という強い思いがパトロール活動の広まりへとつながった。

4. 成果

空き巣等の犯罪被害は、パトロール隊の活動が始まってから目に見えて減少した。

活動の様子や成果が、市や県の広報誌やテレビ等で広報されることで、校区の方々が自分の街の安心・安全に積極的に目を向けることが出来るようになり、「私たちの街」に対する誇りを感じる機会が増えたと思う。

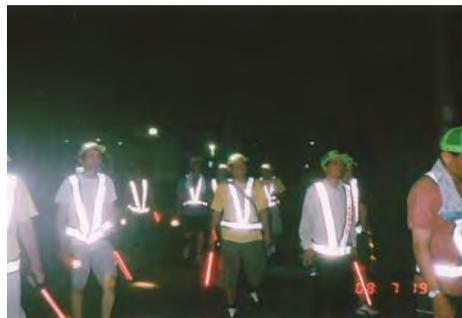


5. 苦勞した点

苦心しているのは「人集め」。

結成当初は年配者が多かったので、若い世代の方へ声かけを心がけた。それぞれの方の事情に合わせ、「無理はしないで」と声掛けをしている。

女性パトロール隊の結成は、幅広い年代の方に活動が広がる良いきっかけになった。



6. 工夫した点

町内に掲げている防犯ののぼり旗が破れていたら、ちょっと心掛けて報告していただくなど、校区住民ひとりひとりが「わがまち」の防犯に、より関心を持って何らかの形で関わっていただけると考えている。「旗が破れています」との報告にも、その日のうちに旗を届ける等こまめな対応がされている。

7. 今後の目標・課題

校区内の犯罪ゼロが目標。また、自校区のみでなく、隣接校区の犯罪も合わせて減って欲しいと願って活動を続けたい。そのためにも、協力者層をより大きく広げるため、今後は大学生、高校生に夏休み等を利用して活動に参加してもらい機会も作りたいと考えている。

現在も、夏休みに中学校の生徒会の皆さんと合同で校区パトロールや学習会をしているので、それらに参加した生徒さんから防犯意識が広まってくれば良いと思う。



皆さんにぜひ伝えたいこと

地域の安全は皆の力を合わせて守るもの。小さな点の活動がつながり線となり面となる…そんな広がりがある安心安全な地域を作ると信じ、ひとりひとりが自覚を持って周りを気にかけて声をかける「向こう三軒両隣」のような関係作りが大切である。

「防犯で住みよいまち 吉塚」

博多区吉塚校区自治協議会 会長・防犯委員会会長 笹山 守人
博多区吉塚校区自治協議会 副会長 棚田 正憲
博多区吉塚校区自治協議会 副会長 萩原 純子

校区の特徴

- ・吉塚校区は、JR吉塚駅の南側から福岡空港まで細長く広がる地区で、北部は主に住宅街であり、南部は空港や都市高速道路に近接した利点を活用し、流通関連施設が多く立地している。

【校区の現況】（平成26年3月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65歳以上人口（割合）
9,931人（区の4.8%）	5,621世帯	1.8人/世帯	1,619人（16.3%）

活動について

1. 概要

平成16年4月1日より自治協議会が新組織として構築され、それに伴い校区防犯委員会（会長 笹山 守人）を結成し、校区を挙げて防犯パトロールに取り組んでいる。

毎週土曜日、夜8時より校区を2班に分け、隔週交代にて団体・住民が拍子木を打ちながら巡回し、防犯テープを流し夜間パトロールカーで巡回している。

また毎朝、小学校の登校時にスクールガード（地域ボランティア）が児童に声を掛けながら横断歩道で交通安全指導を実施するとともに、防犯パトロールカーでテープを流しながら校区を巡回している。

その他、校区行事（夏祭り・体育祭等）の際に、防犯・交通安全指導などの活動を行っている。

2. きっかけ

平成16年8月より各防犯委員の自家用車で青パト活動を開始し、その後、平成18年4月に市より中古の軽貨物車の譲渡を受け、青パトに改造し校区防犯パトロールカーとして活動を開始した。

また、平成17年より防犯ジャンパーを購入し校区全体で防犯意識の高揚を図った。

3. 経緯

平成18年6月4日に青パトの披露と夜間パトロールの周知を兼ね、校区住民や精華女子高の吹奏楽部が参加し『吉塚2000年通り』でパレードを実施した。

また、平成23年には、校区自前の青パトを導入し防犯活動以外にも博多警察署や区役所の会議及び講習会等の連絡用として活用することにより、博多区全体の防犯意識の普及啓発に努めている。

4. 成果

小学生や校区住民との挨拶や交流が広がり、犯罪に関する情報などが気軽に提供されるようになり、校区の危機管理に大いに役立っている。

また、不審者等の情報提供があった場合は、防犯パトロールカーで校区内を巡回している。

さらに、防犯ジャンパーを日常着用することにより、スーパーなどから万引き防止になっていると感謝され、防犯に関する相談等も持ちかけられるようになった。防犯ジャンパーを着用することにより校区の防犯意識が高まり、いつも地域のみなさんから『お疲れ様～』の声をいただいている。

5. 苦労した点

夜間防犯パトロールの協力や人員確保及び高齢化に伴う若い世代の協力について、今後どうすればよいか、役員等で調査・検討している。

6. 工夫した点

各町内や各団体で購入した会員・住民統一の『防犯帽子・防犯ジャンパー』をどこに行くときも着用することにより、校区の連帯感及び“安全・安心の吉塚“をアピールしている。

夜間パトロールでは、防犯テープを流し拍子木を打ちながら巡回し校区内の防犯に努めており、小学生の登校時のパトロールにおいても防犯テープ及び声掛けなどを行っている。

また、小学校の入学式をはじめ、登校時の街頭指導の際、防犯ジャンパーを着用しているため新一年生の見守りの印として定着している。

7. 今後の目標・課題

小学生の放課後の見守りについては、不定期に青パトで巡回しているが、下校時間が学年によって違うので手薄になることがある。

夜間パトロール時の中学生や高校生に対する声掛けについては、言い争い等が起きないように注意している。

皆さんにぜひ伝えたいこと

地域の安全・安心は、まず校区住民の協力・努力によって、高齢者から乳幼児までを守るという意識があってこそ守れるのではと思っている。

少しでも犯罪が減るよう願いを込めて、今後も校区の防犯活動の取り組みを積極的に進めていきたい。

防犯で住みよいまち吉塚

防犯研修会



オハヨウゴザイマ〜ス！



夜間パトロール出陣



お疲れ様！

「地域のシンボルづくり

～世代を超えた地域住民が参加できる新しい祭りの創設～

南区西高宮校区自治連合会 副会長 甲斐 育子

校区の特徴

- ・南区で一番北側に位置し、都心部に近く、西鉄天神大牟田線平尾駅・高宮駅に隣接した交通利便性の高い地域。
- ・都心に近い割には緑が多く、交通の便も良いため、マンションが数多く建設されている。
- ・人口は南区内 25 校区中で 1 番多く、人口密度も 1 番高い。
- ・小学校の児童数も南区内で最も多い。
- ・過去 10 年間（2003～2013 年）で人口が 14.2%増加。（南区 3.0%増）。

【校区の現況】（平成 26 年 3 月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65 歳以上人口（割合）
17,349 人	8,207 戸	2.1 人/世帯	2,857 人（16.5%）

活動について

1. 概要

西高宮校区では、新しい地域の活性化、コミュニティづくりの行事として公民館に隣接するため池を利用して、平成 21 年度から毎年 9 月に「あかりのともる新池まつり」を開催している。牛乳パックや竹筒を利用して手作りしたぼんぼりで、池ののり面や湖面を照らし、幽玄の世界へ誘う。併せて、各種団体の出店や演奏会などを実施している。

2. きっかけ

西高宮校区では、住民が一体となれる事業で、かつ、次の世代へ繋げる事業を模索していた。

一方、校区内には、住宅地にもかかわらず複数のため池が存在しており、その一つである「平尾新池」は、校区の拠点施設である公民館の隣に位置し、過去は汚れていたものの近隣住民の清掃活動のおかげできれいになった。また、遊歩道が整備されて校区住民の憩いの場となっていたことから、この「平尾新池」を活用した事業を検討していた。

この二つの思いが結びついてこの事業が始まった。

3. 経緯

平成 21 年度に、公民館主催事業として各種団体や学校、地域住民の協力を得てスタート。平成 24 年度からは、校区自治連合会と公民館の共催事業として開催している。

4. 成果

ぼんぼりの多くは、小学校を通じて子ども達に作ってもらっており、年々、その数も増えてきている。準備や当日の協力についても、年々、多くの人が参画するなど、校区の祭りとして定着してきた。

祭り当日は、子どもから高齢者まで多くの人たちで賑わっており、この催しをすることで、日頃から池をきれいにしようという気風が生まれてきている。

5. 苦労した点

日頃から近隣住民の人々が清掃活動は行っているものの、池へ河川の流入がなく雨水のみのため、池の浄化が課題となっている。

屋外での事業なので、天候が不安定なときの実施可否の判断時期、そして、その結果の広報には、毎回苦労している。

6. 工夫した点

ぼんぼりは、牛乳パックをリサイクルしたり、間伐竹で作るので、それほど費用がかからないうえに、環境にもやさしく、また、子ども達に作ってもらうことで、子ども達が地域行事に参加する機会にもなっている。

7. 今後の目標・課題

校区の祭りとして、また、コミュニティ形成の機会として更なる高まりを目指していきたい。そして、住民一人ひとりが主役として活動する参画型の祭りとして続けていきたい。

皆さんにぜひ伝えたいこと

平成 21 年度から始まり、今年で 6 回目となる「あかりのともる新池まつり」は、清掃活動によりきれいになった平尾新池を地域のシンボルと位置づけ、その池を利用した地域コミュニティづくりの新しいイベントとして定着してきました。

「あかりのともる新池まつり」では、小学生のほか公民館サークルや各種団体が、牛乳パックや竹筒を利用して作った約 4,000 個のぼんぼりを、池の周りや、筏や神輿に載せて池に浮かべます。だんだん暗くなってくると、みごとな幽玄の世界へと誘ってくれます。そして、その明かりをバックにピアノやヴァイオリンなどのコンサートが行われます。

毎年、子どもから高齢者まで地域の皆さんの協力で作られる素晴らしい夜景を、校区の方々が誘い合って見に来る姿が見受けられ、世代を超えて一緒に楽しめる一夜となっています。

この「あかりのともる新池まつり」は、これからも校区で継承していきたい事業の 1 つとなりました。



「出あい ふれあい 助けあい 明るいわが町 わが校区」

城南区城南校区自治協議会 会長 稲益 重樹
城南区城南校区自治協議会 副会長 川島 恭子

校区の特徴

- ・場所は、西新から南へ約3キロ。城南区の西端に位置。
- ・最大の特徴は、校区の中心に3つの公立学校（城南小学校、城南中学校、城南高校）が隣接していること。高層マンションや大型商業施設はなく、3つの学校を中心に住宅地がひろがる文教地区として歩んできた。
- ・中村大学や福岡大学からも近いので、賃貸アパートも点在。
- ・昔からの住民の高齢化が進む一方で、「子育てがしやすい落ち着いた校区」として若い家族や転勤族らの転入も多く、人口・世帯数ともに増加している。

【校区の現況（平成26年3月末現在）】

人口	世帯数	世帯当たりの人員	65歳以上人口（割合）
14,173人	6,512世帯	2.2人/世帯	3,207人（22.6%）

活動について

1. 概要

毎週日曜日の朝8時から、城南小学校の運動場（雨天時は体育館）で、「ひまわりサンデー ラジオ体操」を行っている。

その他、年間を通じて、さまざまな行事を企画。夏は、夏祭り。秋は、「ふれあいフェスティバル（運動会）」や文化祭。冬は、もちつき大会や「ウィンタースポーツフェスティバル」を実施し、住民の交流の場づくりに力を注いでいる。

2. きっかけ

城南校区のスローガンは、「出あい ふれあい 助けあい 明るいわが町 わが校区」。住民が高齢化し、新たな住民も増える中で、このスローガンどおりの校区にするために、住民の交流行事にさらに力を入れていきたいという思いがあった。

そこへ平成25年度、区役所から「地域参画予算」の募集があった。そこで自治協議会役員と公民館で話し合い、「ひまわりサンデー ラジオ体操」を企画した。

ラジオ体操に着目した理由は、近年その健康効果が改めて注目されていること。またラジオ体操ならば、年齢を問わずに、短時間で参加できる点も魅力だった。と同時に、毎週実施することにもこだわった。

その狙いとしては、①住民の出会いの場を定期的に設ける②世代を超えた交流の場を増やす③継続することで住民の健康増進に寄与する④地域に顔見知りを増やすことで、災害時や困った時に役立つ助け合いネットワークが育ってほしい、という願いと期待があった。

3. 経緯

- ・平成 25 年 5 月：城南区役所に「ひまわりサンデー ラジオ体操」の企画書を提出。審議の結果、「地域参画予算」の対象事業に採用決定。
- ・平成 25 年 7 月：実行委員会を開催。
- ・平成 25 年 8 月：ポスター・チラシを作成し、広報活動を開始。地域参画予算で公民館備品として、区役所がラジカセ・スピーカー・マイク・CD・延長ケーブルを購入。
- ・平成 25 年 9 月 8 日：「第 1 回ひまわりサンデー ラジオ体操」を城南小学校体育館にて実施。
- ・以後、現在にいたるまで、毎週日曜日の朝 8 時から実施。休止したのは、盆、年末年始、運動会の日のみ。毎回の運営（道具の出し入れなど）は、自治協議会や各種団体の役員が交代で行っている。

4. 成果

- ・第 1 回目は、249 名の住民が参加。以後、少しずつ減っていったものの、現在でも毎回 100 名以上がコンスタントに集まっている。
- ・参加者の顔ぶれは、小学生から高齢者までさまざま。
- ・なかには 1 人暮らしの高齢者もあり、外へ出て、人とふれあう機会になっているようだ。
- ・また、小学生の保護者からは「日曜日朝早く起きるので、生活リズムが崩れなくなった」という声も聞かれる。
- ・引っ越してきたばかりの住民が家族ぐるみで参加しているケースもあり、「地域に溶け込むきっかけになった」という声も聞かれる。
- ・一方、運営する自治協議会役員にとっても、顔見知りの住民が増え、ラジオ体操の場でさまざまな校区行事の PR を行えるようになった。そのおかげで、2 月には福岡市内で初の試みとなる、中学生と地域住民が語り合う「トーク・フォークダンス」も多くの住民の参加を得て実施できた。
- ・さらに、役員同士が日曜日ごとに会うので、顔を合わせて話し合う回数が増え、各町内会や各種団体との横のつながりも強まった。

5. 苦労した点

- ・いちばんの課題は、参加者集め。どうしたら住民に参加してもらえるか、本当に集まってくれるのか、当初は心配した。
- ・また、道具の出し入れや、受付、ラジカセの操作、後片付けなど、毎回の運営を誰が行うのか。毎週実施するにあたっての、継続的な人手の確保も課題だった。

6. 工夫した点

- ・住民に参加を呼びかけるツールとして、掲示板のポスター、各戸配布のチラシを作成。公民館だけでなくでも広報した。また城南小学校の全児童・保護者向けに、参加を呼びかけるプリントを配布した。
- ・リピーターを育てるために、参加カードを作成。参加のたびにスタンプを押し、1 枚（スタンプ 15 個）が終わったら、粗品（ティッシュペーパー）をプレゼントするようにした。
- ・年度末には、「お楽しみ抽選会」も実施。
- ・また 3 ヶ月に 1 回の割合で、「スペシャルデー」を企画。健康運動指導士による運動指導や、保健師による血圧測定コーナーなどを設け、新たな参加者の掘り起こしを図った。
- ・毎回の運営は、自治協議会三役、各町内会、各種団体から 1 名ずつ参加して、道具出しや片づけにあたることにした。

7. 今後の目標・課題

- ・参加者が固定化しつつあるので、PR活動を工夫し、新たな参加を呼びかけていきたい。
- ・参加する楽しみの一つとして、粗品のプレゼントや抽選会を継続していきたいが、その予算捻出も課題の一つ。
- ・そこで新たな企画として、参加者に毎回、家庭にある空き缶を持ってきてもらい、リサイクル回収にまわすことを検討している。そこで得た資金を、ラジオ体操の景品などに充てたいと考えている。
- ・毎回の運営スタッフも固定化している。負担を軽減するための工夫も課題。
- ・また自治協議会全体としては、高齢化や少子化のなかで、いかに今後も地域を活性化させていけるか。また、多くの校区行事や活動を、誰が役員になっても継続していける仕組みづくりが、今後の課題と考えている。

皆さんにぜひ伝えたいこと

- ・本校区は、校区の真ん中に3つの学校があり、「あいさつ通り」もある。昔から伝統的に、子どもを中心とした住民の輪やつながりが自然に育っていた。だからこそ、この「ひまわりサンデーラジオ体操」も実現・成功したのだと思う。
- ・ただ、本校区でも、校区の運動会を中止した時期があった。「人集めや準備が大変」という声があがったためだった。
- ・しかしやめてみたことで、分かったこともあった。行事をなくすと、住民同士の交流の場や、校区の活気が失われてしまう、ということ。また、1度なくしてしまったものを復活させるためには、3倍、4倍のエネルギーが必要だということである。しかし3年後、当時の役員会で話し合い、校区運動会を復活させた。以後、交流行事に一層の力を注ぐようになった。
- ・行事を行うことは大変である。まして新たな行事を増やすことには勇気がある。しかし、校区行事は、住民同士の貴重な交流の場。また行事を準備する過程で、役員同士も結束し、互いの仲を深めることができる。行事が増えれば増えるほど、それらのチャンスも増え、冒頭のスローガンどおりの校区に近づいていけると信じている。

ひまわりセンター ラジオ体操



血圧測定などでの健康づくり



肩たたきでふれあい♪



黒田官兵衛も来たよ♪

校区旗のデザインに託されたまちづくり



校区旗には「出あい」「ふれあい」「助けあい」のまちづくりへの気持ちが込められています☆

- ① ひまわりの花の中心にある10個の種子は、校区内10町内会を表しています。それぞれ形や大きさが異なっており、町内ごとに特色があることを表現しています。
- ② 花びらは12枚あります。これは10町内会と小学校と中学校の計12枚で、地域で和になって咲く力を表現しています。
- ③ 2枚の緑の葉は平和を表し、自治協議会と公民館で地域を支えていることを表現しています。
- ④ 旗の青色は校区の色で大海原を表し、花の橙色は元気を表しています。

「北崎の魅力とまちづくり活動～北崎を考える会～」

西区北崎校区自治協議会 会長 柴田 敏昭

校区の特徴

- ・糸島半島の北端に位置し、糸島市と隣接している海・山の自然豊かで風光明媚な地域
- ・旧北崎村は、1961年(昭和36年)に福岡市に合併、2011年(平成23年)に50周年記念式典を開催
- ・地域の産業は、農業と漁業が中心で校区全体が市街化調整区域、高齢化と人口減少傾向が続いている

【校区の現況】(平成26年3月末現在)

人口	世帯数	世帯当たり人員	65歳以上人口(割合)
2,528人	910戸	2.8人/世帯	867人(34.3%)

活動について

1. 概要

当初は、自治協議会とは別個の団体として活動していたが、現在は、校区自治協議会の中の組織として位置づけており、校区一体のまちづくり活動を行っている。

2. きっかけ

平成11年に北崎グリーンビレッジ構想が凍結になった後の北崎校区の活性化を図るためのまちづくり団体として、平成12年に設立し活動を始めた。

3. 経緯

平成13年、北崎地区活性化構想を市と策定し、9つのアクションプラン(行動計画)により、各項目の実現に向けて活動を開始した。

4. 成果

アクションプランの項目について、地域の考えを取り入れた北崎公民館の建て替え、フラワー道路整備、ハイキングコース整備などが行われた。

また、長らく実施していなかった地域おこしイベントを昨25年、「花鯛郷秋穫感謝祭 in 北崎」として開催、多数の来場者により活況を呈した。

5. 苦労した点

- ・地域のいろいろな立場の人たちの意見調整

6. 工夫した点

- ・北崎を考える会は、北崎の将来を考えるまちづくり団体であるので、校区内の多様な意見を反映できるような人員体制に努めている。

- ・市との意見交換会を過去2年間に2回開催し、施策への反映に理解を求めている。

7. 今後の目標・課題

○目標

さらなる北崎の魅力を創出・発信するとともに、定住化促進や訪問者の増加を図り校区の活性化を図りたい。

○課題

公共交通機関(バス)が本数などの面で不便、主要道路が海岸沿いの県道だけで交通ネットワークが弱い。

皆さんにぜひ伝えたいこと

北崎は、玄界灘に面して2つの漁港を有するとともに、美しい海岸線が糸島市方面へ連なり、陸地にはハイキングコースが整備された灘山や柑子岳などがある自然豊かなすばらしいところです。

北崎の農・漁業はみなさんの生活と密接な関係があります。市内の漁業生産量の第2位の西浦漁港や、ブランド牡蠣「恵比須牡蠣」を生産する唐泊、農業耕地面積も市内で最も多く、北崎スイカや大根などの野菜を生産しており、また花卉の生産地としても北崎は有名です。

これら北崎産の農産物や魚介類は、ときにみなさんの家族団らんの食卓に並び、花卉は潤いとなごみをお届けしているものと思います。

私たちはみなさんに、このすばらしい北崎を知っていただき、多くの人たちに当地を訪れてほしいと願っています。このため、より地域の魅力を高め、来て良かったと言ってもらえるまちづくりに取り組んでいきますので、どうぞ注目していただきますようお願いいたします。



北崎を考える会
福岡市

1 構想の理念

はなたいこく ポートヒル 花鯛郷北崎・帆音陽流宣言 あいうえおの理念

私たちは『あ、い、う、え、お』を郷づくりの理念として大事にします

花鯛郷北崎・帆音陽流宣言とは、船の帆音が静かに聞こえ、陽が海に反射され丘を明るく輝かせながら、変わりなく海から上がり、海に沈んでいく北崎のイメージをこれからも大事にするとともに、今後の郷づくりビジョンとする決意をこめた宣言である。北崎を中心とした志賀島、能古島、玄界島、糸島半島で形づくられる博多湾内外の海の美しさをポート(Port)として、同様に、北崎のもう一つの重要な地域資源としての山をヒル(Hill)として位置付け、それらに花や鯛などの北崎くささ(らしさ)を付け加え活用していく。この構想をもとに、私たちは、福岡都市圏の中で重要でかけがえのない北崎として、農業・漁業の振興を図ると共に、住み良い環境と地域社会を創り上げることに努力する。

活性化とは、地域住民が中心となり、皆が共有できるまちづくりの方向を定め、それに向かって地域住民と行政が共働で継続的に努力することである。この観点から、地元住民で構成される「北崎を考える会」と福岡市が共に構想策定にあたった。構想の策定後は案件により短中期および長期的視点に立ち、北崎地区のまちづくりを行うものとする。

2 活性化の方向性

- 【方向性】
- 地域資源の活用
 - 北崎地区の豊かな自然を守る
 - 都市近郊農業・漁業の振興を図る
 - 地域の魅力の創出
 - 住みやすく、魅力的なまちづくりを行う
 - 北崎の魅力を売り出すPR戦略の展開を図る
 - 地域の自主性と主体性によるまちづくり
 - 地域住民の自主性、主体性を確立する
 - 継続的なまちづくりの展開を図る

3 9つのアクション・プラン

上記で示した理念と方向性に基づいて、9つのアクション・プランを設定し、優先的に実行していくものとする。

■ソフト分野■

1 「北崎を考える会」の発展拡大

- 「北崎を考える会」を発展拡大させ、地元若手を中心とした企画運営委員会を「北崎を考える会」の中に設立する。この委員会において今後の北崎のまちづくりを企画運営していくとともに、必要に応じて部会を作って郷づくり活動を推進していく。

(例) ハイキングマップ(歴史探索)部会、北崎ブランド部会、イベント部会、フラワーロード部会、定住化プラン部会、姉妹村交流部会 など

2 北崎ブランドの確立

- 北崎地区の農産物・魚等に付加価値を加え、消費者にアピールできる北崎ブランドを開発し、販路を確立し販売する。（例）花鱒郷・北崎ブランド

3 PRイベントの開催

- 「北崎」の知名度向上を図るため、地域住民（北崎を考える会）が自主的、定期的に北崎各地でイベントを開催する。
- H14年度にキックオフ・イベントを計画し、北崎活性化へのスタートとして住民総意のもとに開催する。

4 海釣公園緑地の活用

- 公園緑地を利用し、朝市（さかな市、やさい市）などを開催し北崎産物の直売を行う。
- 開催運営は農協や漁協を中心に地域住民（北崎を考える会）が行う。

■ハード部門■

5 まちづくり拠点の創出

- 北崎公民館の改築を機に、北崎校区老人いこいの家、西消防団北崎分団車庫、西区役所北崎連絡所を合築し、北崎のまちづくり並びに生涯学習の拠点となる複合施設を、平成15年度建設に向け検討する。この建設にあたっては、ワークショップ等を通じて地域住民と行政が共働で進める。
- 北崎の魅力を多くの人に発信するため、地域情報を提供する。
（例）訪問者へのハイキングマップ、季節の花・魚、北崎の名所の情報提供

6 フラワーロード整備

- 整備中の小田農道（H.16 完成予定）の沿線に季節の花々を植えることで訪問客や地域住民にアピールし、「花のまち・きたざき」のイメージを定着させる。
- 花の管理運営は地域住民（北崎を考える会）が行い、北崎地区のまちづくりの一つのシンボルとして育てる。

7 道路ネットワークの充実

- 小田農道から西浦方面への交通の円滑化を図るため、道路の改善を行う。
- 学園通線開通（H.20代 年半ば予定）や九州大学学術研究都市構想の進展や地域状況の変化を勘案しながら、道路ネットワークの充実策を検討する。

8 住みたくなるまちづくり

- 地域住民（北崎を考える会）が主体となって定住化プランを策定する。
- 定住化プランに基づき、地域にふさわしい居住機能の充実を図る。
（例）漁民住宅、田園住宅など

9 ハイキングコース整備

- 北崎の自然を活かし、柑子岳において地元の協力を得てハイキングコースを整備し、併せて案内標識や休憩施設等を設置する。また将来的に、柑子岳の史跡化を検討する。灘山の現在のハイキングコースについては、早期に施設の改善を行う。
- 地域住民（北崎を考える会）を中心にして、北崎地区の歴史・史跡を中心にハイキングマップ作成やハイキングコースの設定、観光ボランティアを育成する。

■空から見た北崎



■平成 25 年開催の「お花の学校天神分校」でのフラワーアレンジメント



■福岡市と合併当時の風景

昭和 36 年頃の定期船「栄久丸」



■福岡市と合併当時の風景

昭和 37 年頃の中学校の朝礼風景



■近年の学校の様子



■平成 25 年開催の「花鯛郷秋穫感謝祭 i n 北崎」の告知ポスター

はな たい ごく しゅう かく かん しゃ さい

花鯛郷 秋穫感謝祭 i n 北崎

2013年 11月4日 (月・祝)

西浦漁港

8時より販売開始

売れ物絶! スーパーマーケット

大抽選会

抽選券配布 先着 2000名
北崎ならではの
特産品盛り
たくさん



主催
北崎校区自治協議会
《問い合わせ先》
北崎公民館
(092)
809-1733

- ★味飯3種食べ比べ
(鯛飯・牡蠣飯・かしわ飯)
- ★海産物・農産物などの
地域の特産品の販売
- ★干物やめんたいこ等の
加工品



荒天の場合は中止します

■平成 25 年開催の「花鯛郷秋穫感謝祭 i n 北崎」の会場の様子



校区での様々な取り組み

福岡市は、北は玄界灘に臨み、海の中道と糸島半島によって仕切られた博多湾を擁し、南は脊振(せぶり)山地、東は三郡(さんぐん)山地に囲まれた半月型の福岡平野に位置しています。

自然や歴史、社会環境など地域ごとに特色を持つ福岡市のコミュニティは、そこで生じる多様な地域課題に真摯に向きあい、生活を営む住民の豊かな住環境を維持し、向上するため、様々な取り組みを行っています。

福岡市では、そうした取り組みを広く市民の皆さまにお知らせし、コミュニティの活動への理解をいただくとともに、コミュニティにあっては他校区での活動を参考に、これからの取り組みのヒントにさせていただきたく、平成 21 年度から、広報紙「コミュニティ通信」の発行を始めました。

今年度は第 17 号から第 20 号までを発行済みですので、ご紹介します。

福岡市

私たちのまちの話題を紹介します

コミュニティ通信

第17号

コミュニティ通信は、地域の様々な取り組みを紹介し、皆様に“コミュニティや地域活動にもっと興味を持っていただきたい”“身近に感じていただきたい”、そんな思いを反映して発行しています。

平成25年10月1日発行

今月号のテーマは“健康”です

～地域で取り組まれている、健康につながる活動を紹介します～



第2回自治協議会サミットにおいて、さざんクラブがウォーキングなどの健康づくりに関する取り組み内容を報告しました。詳細は裏面へ。

今号の地域の情報 博多区:南部6校区 / 中央区:小笹校区 / 城南区:別府校区 / 東区:三苦校区 / 早良区:飯倉中央校区

発行/福岡市市民局コミュニティ推進課 〒810-8620 福岡市中央区天神1丁目8番1号 TEL:733-5161 FAX:733-5595 ■協力/福岡市自治協議会等7区会長会

中央区
小笹校区

地域の体操でイキイキ元気

～みんなでやろうよ小笹よかとこ体操～

「小笹よかとこ体操」は、地域住民に親しみをもって体操に取り組んでほしいという校区の自治協議会や健康運動指導士の思いから5年前に考案されました。振り付けは簡単で、曲も地域になじみのある「小笹音頭」が使われています。

これまでも校区の運動会などで用いられてきた同体操。さらに広げようと、7月1日に動画撮影が行われました。撮影には市の特定検診キャラクター「よかろーもん」も登場。地域の健康づくりを応援しようと元気に体操をしていました。

撮影を企画した健康だいすき小笹実行委員会副委員長の入江正浩さん(74)は「老若男女問わず、日常のちょっとした体操に取り入れてほしいです」と話します。今回撮影した動画は、小笹小学校や校区内の保育園、幼稚園、各町内などに配布する予定です。



よかろーもん和元気に体操



城南区
別府校区

「けんこうラリー」

別府校区では、平成18年度に実施した「みんなで健康」城南まちづくり事業をきっかけに、その翌年度から自治協議会(健康づくり推進協議会)が中心となって「けんこうラリー」をスタートし、今年で7年目を迎えることができました。

「けんこうラリー」は、毎月第3日曜日朝9時からの別府公民館を起点とする校区周辺のウォーキング・年1回の三世代ウォーキング・講師による健康講座、城南保健所での校区検診など年間を通して多彩なメニューで行い、参加者は毎年500名を超えます。また、出席カード(右写真)には、毎回違ったシールが用意されているため皆さんの楽しみとなり皆勤賞をもらう方も増えてきました。

「健康で明るく、そして楽しい 住んで良かった別府校区」のスローガンと、「健康づくりは、まちづくり」を合言葉に、子どもから高齢者までだれでも気軽に参加でき、楽しく交流できる場として「けんこうラリー」が元気なまちづくりの一環になるよう目指しています。



ウォーキング	29-10 4月 7	5月 19	6月16 OK	7月7日 X
	8月 18	9月 15	10月 20	11月 17
	12月 8	1月 19	2月 8	3月 16

体	重	任	健康講座
参加			出席計画
出席			11/6
皆勤			

健康講座	校区検診	保健所での健康相談	保健所での健康相談
10月6日	11/7	8/18	8/18

地域では他にも「健康」に関わる様々な活動が行われています

城南区 城南校区
ウィンターフェスティバル
子どもと大人が全力で
走った駅伝!!

西区
「美☆ボディメイク」
バランスボールや
ストレッチや体幹
運動で体と心の
めざします



「みとま健康フェスタ 2013 in 三苦公民館」

平成25年2月に校区健康づくり推進委員会で協議を行い、参加人数が減ってきている、ストレッチ体操を中心とする「健康教室」と校区ヘルスメイトの「料理教室」とを共催し、フェスティバルをすることに決めました。

事業の名称を、「みとま健康フェスタ 2013 in 三苦公民館」と決め、平成25年7月12日(金)に公民館で開催しました。1階講堂では、校区ヘルスメイトによる朝食教室と講演会、2階では、校区健康づくり推進委員会の隠れ脳梗塞の診断や血管年齢・体脂肪・血圧の測定(右写真)などの健康診断を行いました。約70名の参加があり、健康づくりへの関心の高さを感じることができました。



健康づくり推進委員会では、「地域の交流こそが一番大事」と思っており、地域の人たちが集まって楽しい話をする、みんなが顔見知りになるということが地域の「健康づくり」であり、このまちに住んで良かったといわれるような「まちづくり」にもつながると考えています。

まちづくり



～三世代体力測定&スポーツ交流会～

飯倉中央校区では、毎年、三世代の交流を中心に健康教室やイベント、また講演会や健康づくりに関する情報提供を行っています。

三世代交流事業は、春のグラウンドゴルフ大会、秋のウォークラリー大会及び体力測定&スポーツ交流会があり、地域の交流を図る毎年の恒例行事となっています。

その中のひとつ、三世代体力測定&スポーツ交流会は、健康づくりに取り組んでもらうには、まず自分自身の身体について知ってもらうことが必要とのことから、当初は一般の方を対象に計画をしていましたが、当時、子ども達の体力低下が報道されていたので、子ども達にも運動するきっかけづくりができればと思い、平成19年度からは三世代で実施しています。

毎年100名を超える参加者があり、測定終了後はみんなでカレーライスを食べ、午後からは子どもから高齢者の方まで一緒に楽しめる、風船バレーや卓球バレーなどのニュースポーツや、ゲーム・レクリエーション等を行っています。

参加者との意思の疎通を第一に考え、これからも笑顔あふれる楽しい健康づくりを続けていきたいと思ひます。



体力測定は年代別に行われます～上体起こし

セミナー) を使って を鍛える が美"を



東区 箱崎校区 「ゲンキッズはござき」 元気にラジオ体操!



南区 花畑校区 校区探検ウォークラリー 次はどっちに行けばいいのかな?

博多区
さざんクラブ
南部6校区

ウォーキングで地域の絆を深める ～健康づくりはまちづくり～

「さざんクラブ」は、平成16年度に博多区の南部6校区(那珂、弥生、板付北、板付、三筑、那珂南)の衛生連合会が中心となってつくられた団体で、地域に健康づくりが根付くようにと、合同でウォーキングマップを作成し、ウォーキングと交流会を実施しています。

ウォーキングは本年度で10回目を迎えますが、回を重ねる毎に参加者が増え、昨年度は100名を超える参加者となっています。

ウォーキングで無理のない体力づくりをするとともに、特に特定検診・がん検診の受診率が低い壮年層(特に男性)に対し、健康づくりへの積極的参加を勧めていきたいと考えています。



さざんクラブ主催のウォーキング前の説明風景

報告!

第2回自治協議会サミットを開催しました!

福岡市自治協議会等7区会長会と市は、平成25年7月6日(土)、西南学院大学チャペルで「自治協議会制度10年目をむかえて～これまでを見つめて未来へつなごう～」をテーマに「第2回自治協議会サミット」を開催しました。

第1部は、自治貢献者感謝状贈呈式が行われ、自治協議会会長などを2年以上経験された方々全5名に対して、高島市長より、感謝状が贈呈されました。

第2部の事例発表では、自治協議会の運営や災害時の要援護者誘導訓練、健康づくりなど、地域の実情に応じた具体的取組みの事例が、各区1例ずつ報告されました。

続いて、第3部では、市長と自治協議会等7区会長会の結城会長、コミュニティ政策学会幹事によるコメントがあり、城南区片江校区人権尊重推進協議会の山本会長、片江校区片江4丁目自治会の大澤会長が加わり、地域活動アドバイザー千時さんの進行で、担い手不足などの地域課題について、意見交換が行われました。

当日は天候の悪い中、約530名の参加があり、参加者からは「それぞれ特色ある活動がなされているのが、よくわかった。」「各校区間の情報交換が今後重要だと感じた。」「大変参考になり、今後の運営の参考にしたい。」などの感想が寄せられました。



●福岡市コミュニティ通信は福岡市のホームページに掲載しています。

福岡市コミュニティ通信

検索

●J:COMでは福岡の地域情報を発信しています。

ふくおかまいCOM

検索

お問い合わせ・
地域の情報などは
各区役所まで

東 区役所	地域支援課	☎092-645-1041	FAX:092-645-1042
博多区役所	地域支援課	☎092-419-1048	FAX:092-434-0053
中央区役所	地域振興・支援課	☎092-718-1062	FAX:092-714-2141
南 区役所	地域支援課	☎092-559-5072	FAX:092-562-3824
城南区役所	地域支援課	☎092-833-4063	FAX:092-822-2142
早良区役所	地域支援課	☎092-833-4416	FAX:092-851-2680
西 区役所	地域支援課	☎092-895-7036	FAX:092-882-2137

次号(1月1日号)は、「安全・安心」をテーマにお届けいたします!

福岡市

私たちのまちの話題を紹介します

コミュニティ通信

第18号

コミュニティ通信は、地域の様々な取り組みを紹介し、皆様に“コミュニティや地域活動にもっと興味を持っていただきたい”“身近に感じていただきたい”、そんな思いを反映して発行しています。

平成26年1月1日発行



今号のテーマは“安全・安心”です

～防災・防犯など、安全・安心なまちづくりにつながる地域の活動を紹介します～

城南区
南片江校区

ボウハンダーZ

南片江校区では、校区住民の平和と安全を守るため、「ボウハンダーZ」が活躍しています。防犯に関する活動をはじめ、交通安全や防災の啓発活動などを通じて「地域住民が安心して暮らせるまち」や「子どもたちの笑顔があふれるまち」を目指して活動を行っています。



◀「ふれあい城南フェスティバル」でのパレード。



▲草ヶ江校区(中央区)のヒーロー「グラスサイダー」とコラボ。



▲自治協議会青バト“ブルッパ”に同乗。小中学校下校時に合わせてパトロール!!

今号の地域の情報 城南区:南片江校区/博多区:美野島校区/南区:花畑校区/西区:周船寺校区/東区:青葉校区
中央区:笹丘校区/早良区:飯原校区

発行/福岡市市民局コミュニティ推進課 〒810-8620 福岡市中央区天神1丁目8番1号 TEL:733-5161 FAX:733-5595 ■協力/福岡市自治協議会等7区会長会

博多区

美野島校区

美野島地域

児童見守り隊

美野島校区では、安全安心な街づくりの為に、従来から実施してきた希望者によるボランティア見守り活動を、平成24年4月の美野島小学校と住吉小学校の統合により通学区域が広がるのを機に「美野島地域児童見守り隊」を編成し、毎日、PTAと共同で40名程度が参加して登下校時の見守り活動を行っています。(右写真)

見守り活動を通じて、児童の交通マナーやルール遵守の点で成長が感じられます。更に、住民や通勤者(高校等の学生含む)の安全安心意識の高揚が期待されます。また、児童を含む、地域とPTAとの連携が深まってきています。

挨拶ができる子できない子、その時の児童の様子などの状況に応じた対応をすること、また、公園などの不審者対策としても見守り隊の配置を工夫しているところです。



南区

花畑校区

「みまもり隊」



「おはようございます。」「もう遅いからお家に帰らないかんよ。」「子どもたちと「みまもり隊」のカードを下げた隊員のあいさつや会話する様子が、校区内のあちこちで見られます。

「みまもり隊」は、子ども、障がい者や高齢者が安心して過ごせるように見守ることを目的として、平成18年に小学生の保護者全員と、校区内の住民や事業所職員の有志で組織されました。子どもの登下校時や放課後をはじめ、休日も校区内で見守り活動を行っています。

これからもみんなが安心して生活できるように、隊員を増やして校区内にあいさつの輪が広がっていくように活動を続けていきたいと思っています。

おまけですが、隊員にはお得な特典があります。校区内のスーパーマーケットや飲食店に協賛いただいて、隊員が協賛店で買い物をする時割引やポイントサービスを受けることができますよ。



▲登校時活動の様子

ここがツボ!

子どもたちは、「みまもり隊」のカードを下げていることで、安心して挨拶をします。また、注意や安全指導をされても、よく聞き入れてくれます。

西区

周船寺校区

通学路見守り隊

登下校時に周船寺校区防犯推進委員会や小学校・PTA・民生委員等で協力し、通学路の要所での見守り活動や、青色防犯パトロールカー(青パト)でのパトロール活動を行っています。青パトでの巡回では、子どもたちに身近に思ってもらおうよう、助手席には周船寺小学校の校長先生に同乗してもらい、マイクで「おはようございます」等の呼びかけを行っています。(右写真)

当初は、交通安全をメインで活動を行っていましたが、近年、携帯電話・スマートホンの普及や伊都区画整理事業による人口の増加で、犯罪に巻き込まれる危険性が増えたことなどにより、防犯活動に重きを置くようになりました。

地域からは、「子どもたちを安心して登下校させられるようになった」などの声をいただいています。また、子どもたちも地域の方々の顔を覚え、挨拶や会話をするようになってきているため、防犯だけでなく、地域コミュニティづくりにも役立っています。



東区
青葉校区

**犯罪ゼロの校区を目標に
様々な取り組みを!!**

青葉校区では、校区内の犯罪ゼロを目標に自警団による夜のパトロールをはじめ、女性パトロール隊による下校時のパトロール、老人クラブの協力のもとシニアパトロール隊による登校時のパトロールなど様々な取り組みを行っています。

その取り組みのひとつとして、夏休みに中学校の生徒会の皆さんと合同で校区パトロール(下記写真)や学習会を実施しています。

この合同パトロールを始めるにあたり、中学校は活動を心配していましたが、いまでは中学校も活動をバックアップしており、参加した生徒の皆さんの防犯意識の広まりに期待しています。

その他、入学・卒業式の前後には、深夜3時から学校周辺をパトロール、学校公開日には不審者の侵入が無いよう校内パトロールなどを実施しています。

校区を上げての取り組みにより、空き巣などの犯罪被害は目に見えて減少しており、活動の様子や成果が県や市の広報誌やテレビなどで紹介されることで、自分のまちの安心・安全に目を向ける機会が増えました。



中央区
笹丘校区

**校区をあげて防犯・防災・
交通安全活動推進中!!**

笹丘校区自治連合会の危機管理部は、防災活動だけでなく、防犯そして交通安全について訓練をする「総合訓練」を年に1回取り組んでいます。今年は、より多くの住民の方に参加してもらうため、「ゆるキャラ大集合!」や「大声コンテスト」も企画しました。また、反射材を用いた「自転車ステッカー」や「飲酒運転禁止ステッカー」を校区独自に作成して、街頭キャンペーンなどでの配布や、20年以上前から年末に友泉中学校と連携して地域住民と中学校のブラスバンド部員が参加する「歳末、安全・安心パレード」を行っています。

さらに、平成14年から地域住民が「パトロール中」と書いている黄色の札をリールにつけて犬の散歩をする「笹丘わんわんパトロール隊」を結成しています。福岡市内で草分け的存在になっており、この取り組みを開始してから校区の街頭犯罪



▲歳末、安全・安心パレード

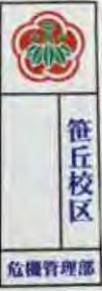


が減少しています。

笹丘校区危機管理部統括本部長でもある自治連合会の副田会長は「さまざまな活動を通して地域みんなが知り合いになることで、住民一人ひとりが笹丘校区を住みよいまちにしなないといけないと思ってもらえるようになればいいな」とおっしゃっていました。

◀わんわんパトロール隊

▶自転車ステッカー



早良区

飯原校区

「通学路・緊急避難場所案内表示(政令市初)」 を利用した防災訓練

飯原校区で約300人の住民参加のもと、防災訓練が行われました。今年の訓練では本年度の福岡市の新規施策である地域参画予算で整備した「通学路・緊急避難場所案内表示」を確認しながらの避難行動が新たにメニューに加わりました。

この案内表示は飯原校区からの提案を区が事業化したもので、歩道や早良区の「安全・安心まちづくり事業」で整備したグリーンベルトの路側帯、計26カ所に整備したものです。

車椅子や足がご不自由な高齢者の方も参加され、支え、支えられながら



▲通学路と避難場所(小学校)への方向・距離が一目で分かります。



▲本番さながらに避難訓練

の、まさに共助の精神に溢れた訓練風景でした。

飯原校区自治協議会の鮫島紘会長は「案内表示ができたことで、家庭で防災について話し合うきっかけができたという声も聞かれます。案内表示は災害時の避難だけでなく、防災意識の浸透に役立っています」と手応えを語りました。



▲体育館での応急手当訓練



▲消火器を使っの初期消火訓練

●福岡市コミュニティ通信は福岡市のホームページに掲載しています。

福岡市コミュニティ通信

検索

●J:COMでは福岡の地域情報を発信しています。

ふくおかまい COM

検索

お問い合わせ・
地域の情報などは
各区役所まで

東 区役所	地域支援課	☎092-645-1041	FAX:092-645-1042
博多区役所	地域支援課	☎092-419-1048	FAX:092-434-0053
中央区役所	地域振興・支援課	☎092-718-1062	FAX:092-714-2141
南区役所	地域支援課	☎092-559-5072	FAX:092-562-3824
城南区役所	地域支援課	☎092-833-4063	FAX:092-822-2142
早良区役所	地域支援課	☎092-833-4416	FAX:092-851-2680
西区役所	地域支援課	☎092-895-7036	FAX:092-882-2137

次号(4月1日号)は、「地域活動」をテーマにお届けいたします!

福岡市

私たちのまちの話題を紹介します

コミュニティ通信

第19号

コミュニティ通信は、地域の様々な取り組みを紹介し、皆様に“コミュニティや地域活動にもっと興味を持っていただきたい”“身近に感じていただきたい”、そんな思いを反映して発行しています。

平成26年4月1日発行



今号は 様々な、特徴ある地域の活動を紹介します

西区
金武
校区

通学合宿 ~金武の子は金武の宝~

金武校区では、家庭、学校、地域の共育(ともいく)に取り組んでいます。

開館式
(みんなで記念写真)



レクで仲間づくり



サラダづくりにチャレンジ

詳しくは次のページへ

今号の地域の情報

西区: 金武校区 / 早良区: 飯倉校区 / 東区: 箱崎校区 / 博多区: 板付北校区
南区: 西長住校区 / 中央区: 草ヶ江校区 / 城南区: 田島校区

発行/福岡市市民局コミュニティ推進課 〒810-8620 福岡市中央区天神1丁目8番1号 TEL: 733-5161 FAX: 733-5595 ■協力/福岡市自治協議会等7区会長会



通学合宿 ～金武の子は金武の宝～

金武校区人尊協では、「金武の子は金武の宝」の考えのもと四つの目標(「通学合宿」「あいさつで子育て」「団体で子育て」「地域・集落で子育て」)を掲げて、家庭、学校、地域の共育(ともいっく)に取り組んでいます。

その取り組みのひとつが通学合宿です。子どもたちが、親の手を離れたところで自分たちで考え、自分たちで行動することを学ぶ合宿です。

金武小学校の3～6年生25人が、9月16日(月・祝)～19日(木)の3泊4日で金武公民館に寝泊まりし、学校へ通学、食事の用意、勉強、もらい湯など、初めての体験でした。

公民館、人尊協、自治協議会を中心に実行委員会を組織して、ボランティアの学生7名を含む地域の方々、延べ100名の温かい支援を受け一定の成果をあげることができ、「絆」のある金武の町づくりにつながったのではと喜んでます。

参加した子ども達からは、「学生ボランティアさんから将来の夢を聞いて感動した」「金武の町が一番好きになった」「もらい湯がわかった」「金武のやさしさが肌で感じる事ができた」など、また、保護者からは「子ども達にいろいろな気づきがあり金武の「共育」を実感した」「不登校の子どもが参加し、その後時々ですが、登校するようになった」などの感想をいただきました。

来年の参加者が増えすぎるのでは？と今から悩んでいる地域の皆さんには笑顔がありました。



バーベキュー



レクリエーション



カレーづくり



子ども育成団体の再編 ～子ども会を全員加入に～

飯倉校区では、子どもの育成に関する組織「育みネットワーク」の中に、青少年育成会、子ども会育成連合会、わくわくランド委員会、子育てサロンの4団体がそれぞれ独立した特色ある活動を行っています。

しかし、行事・活動の重複による無駄や、各団体の役員や協力される保護者、町内の方々の負担が増加するなど、各団体の連携がとれていないことによる弊害が顕在化してきました。また、共働き世帯の増加・少子化等により、校区の子ども会参加者が減少し、子ども会の加入率が40%を割る町内も出てくるようになりました。

このような様々な地域の課題の改善を図るため、平成22年から、「育みネットワーク」に町内有志を交えて話し合いを続け、平成24年12月からは、子どもに関する新組織の発足を目指して、「育みネットワーク」4団体、自治協、町内会長、各町内子ども会役員、小学校PTA、公民館、校区子ども育成調査アドバイザーで「組織改善検討委員会」を立ち上げ検討を重ねてきました。そしてその結果として、来年度から4団体を一つにまとめ、行事内容を一元化し、新組織「飯倉校区子ども部会」をスタートさせることが決まりました。

新組織は、時代に合った方法で飯倉校区の子ども達の健全な育成を願い、小・中学校、関連する諸団体・公民館と連携して各種の事業を行い、子ども達の主体的活動を支援することになります。

そして、最も大きな変更点は、平成26年度からは、各町内の「子ども会」は任意加入から全員加入に変更となり、校区内の子どもは漏れなく会員となり、町内会の活動や校区行事に安心して参加できるようになります。



里まち探検



組織改善検討委員会



高学年キャンプ





ついに完成!草ヶ江“笑顔”音頭♪



▲笑顔音頭のCD

草ヶ江校区自治協議会は、今年度校区独自の音頭「草ヶ江“笑顔”音頭」を制作しました!

草ヶ江校区独自の音頭としては、昭和30年に当時の公民館長が歌詞を募集して制作を試みたものの、応募者が少なく一度断念していましたが、平成24年に草ヶ江校区自治協議会として再度制作を企画しました。歌詞を募集したところ、市内外から11編の応募があり、自治協議会と作曲者として選考し、今回できあがりました。

歌詞は、草ヶ江の故郷が思い起こされる様に1番から4番にそれぞれ草香江、六本松、谷地区の特徴を取り入れ、各節末に「ワッハッハ」と笑いを取り入れ校区の絆を結ぶ音頭にしたことから、草ヶ江“笑顔”音頭となりました。毎年10月に行われる恒例の「まつり草ヶ江」に間に合うよう歌と踊りを特訓し、昨年10月にお披露目しました。



▲まつり草ヶ江で“笑顔”音頭を踊っている様子

校区自治協議会の宮原会長は、「地域の皆さんにも浸透してきつつあり、イベント毎にみんなで踊っています。草ヶ江校区もこの音頭のように笑顔があふれる地域になってほしい」と話しています。



みんなで作った校区の愛唱歌



田島校区では、公民館が現在の地に移転してから30年を迎えたことに伴い、その記念事業を行うため校区自治協議会会長を委員長として30周年実行委員会を立ち上げました。そして、記念事業として、式典開催の他に、30周年記念誌「たしま」の発刊、「校区の歌」の制作を行いました。

この歌の制作では、校区の一体感や郷土愛を育むため、地域住民から歌詞を募り、田島校区を取り巻く自然や季節についての言葉などを取り入れた校区の歌「ここがふるさと」ができあがりました。「あの坂をのぼってくだってまわり道」「夏の賑わい神楽舞」等、校区ならではの歌詞となっています。そして、歌の完成と同時にコーラス隊が結成されました。このコーラス隊は、いつ入ってきてもいい、いつ参加してもいいという自由な会とすることで、小学校1年生から70歳代までの方が参加され、式典をはじめ、いろんな催しで発表しています。

この事業を通じて、地域の中にはいろんな知識を持った人がいることがわかり、地域に埋まっていたみんなの力をつなげることができました。

今後は、校区の歌「ここがふるさと」を各種地域事業など、様々な機会を通じ活用し、心のふるさととして「田島」を思い、老若男女どの世代もが一緒に口ずさめる校区の愛唱歌となることを目指しています。



●福岡市コミュニティ通信は福岡市のホームページに掲載しています。

福岡市コミュニティ通信

検索

●J:COMでは福岡の地域情報を発信しています。

ふくおかまいCOM

検索

お問い合わせ・
地域の情報などは
各区役所まで

東 区役所	地域支援課	☎092-645-1041	FAX:092-645-1042
博多区役所	地域支援課	☎092-419-1048	FAX:092-434-0053
中央区役所	地域振興・支援課	☎092-718-1062	FAX:092-714-2141
南 区役所	地域支援課	☎092-559-5072	FAX:092-562-3824
城南区役所	地域支援課	☎092-833-4063	FAX:092-822-2142
早良区役所	地域支援課	☎092-833-4416	FAX:092-851-2680
西 区役所	地域支援課	☎092-895-7036	FAX:092-882-2137

次号(7月1日号)は、「交流」をテーマにお届けいたします!

コミュニティ通信

第20号

コミュニティ通信は、地域の様々な取組みを紹介し、皆様に“コミュニティや地域活動にもっと興味を持っていただきたい”“身近に感じていただきたい”そんな思いを反映し、発行しています。



今号のテーマは“交流”です

～国際交流から世代間交流まで、様々な住民同士の交流に関する活動を紹介します～

東区
和白東
校区



姉妹都市オークランド市にあるオークランド・ノーマル・インターメディアेट・スクール(ANI校)との交流(日本文化餅つき体験)



姉妹校・後龍國民小學(台湾)との文化交流(日本文化七夕飾りづくり体験)

博多区
那珂南
校区



今号の地域の情報

東区:和白東校区 / 博多区:那珂南校区 / 南区:宮竹校区 / 城南区:堤地区 / 早良区:百道校区 / 中央区:春吉校区 / 西区:内浜校区

■発行 福岡市市民局コミュニティ推進課 〒810-8620 福岡市中央区天神1丁目8番1号 TEL:733-5161 FAX:733-5595 ■協力 福岡市自治協議会等7区会長会

早良区
百道
校区

三世代交流餅つき大会

百道校区では、平成16年度から毎年12月に三世代の交流を目的として、すべての住民を対象に「三世代餅つき大会」を開催しています。

平成25年度は、12月8日に開催し約800名の皆さんにお越しいただき、120kgの餅米をつきました。

子どもから高齢者まで一緒に餅をついたり、まるめたりしながら、昔ながらの餅つきを楽しみ、世代を超えた交流を実現しました。

また、国際交流として留学生の方々にも参加してもらい、日本の餅つきを体験してもらいました。

つきあがったお餅は、きなこ・あべかわ・大根おろしなどでおいしくいただきました。



第3回 福岡市自治協議会サミットを開催します!!

告知

福岡市自治協議会サミットは、地域における成功事例等を紹介することで情報の共有を図り、今後の地域活動に向けたスキル・アップや組織運営のアイデアを得る機会とするものです。

福岡市の自治のあるべき姿などについて、皆さんも一緒に考えてみませんか。

日時 平成26年8月26日(火)
13時30分～16時30分(予定)

場所 ももちパレス 大ホール(早良区百道2丁目3-15)

内容 感謝状贈呈、事例発表、意見交換会など

定員 800名(入場無料、事前申込不要)

主催：福岡市・福岡市自治協議会等7区会長会

お問い合わせ：市民局コミュニティ推進課

TEL：733-5161 FAX：733-5595



昨年の事例発表の様子

●福岡市コミュニティ通信は福岡市のホームページに掲載しています。

福岡市コミュニティ通信

●J:COMでは福岡の地域情報を発信しています。

ふくおかまい COM

お問い合わせ・
地域の情報などは
各区役所まで

東 区役所	地域支援課	☎092-645-1041	FAX：092-645-1042
博多区役所	地域支援課	☎092-419-1048	FAX：092-434-0053
中央区役所	地域支援課	☎092-718-1062	FAX：092-714-2141
南 区役所	地域支援課	☎092-559-5073	FAX：092-562-3824
城南区役所	地域支援課	☎092-833-4063	FAX：092-822-2142
早良区役所	地域支援課	☎092-833-4416	FAX：092-851-2680
西 区役所	地域支援課	☎092-895-7036	FAX：092-882-2137

次号(10月1日号)は、「スポーツ」をテーマにお届けいたします!!

福岡市

私たちのまちの話題を紹介します

コミュニティ通信

第19号

平成26年4月1日発行

コミュニティ通信は、地域の様々な取り組みを紹介し、皆様に“コミュニティや地域活動にもっと興味を持っていただきたい”“身近に感じていただきたい”、そんな思いを反映して発行しています。



今号は 様々な、特徴ある地域の活動を紹介します

西区
金武
校区

通学合宿

～金武の子は金武の宝～

金武校区では、家庭、学校、地域の共育(ともいく)に取り組んでいます。

開館式
(みんなで記念写真)



レクで仲間づくり



サラダづくりにチャレンジ

詳しくは次のページへ

今号の地域の情報

西区:金武校区 / 早良区:飯倉校区 / 東区:箱崎校区 / 博多区:板付北校区
南区:西長住校区 / 中央区:車ヶ江校区 / 城南区:田島校区



通学合宿 ~金武の子は金武の宝~

金武校区人尊協では、「金武の子は金武の宝」の考えのもと四つの目標(「通学合宿」「あいさつで子育て」「団体で子育て」「地域・集落で子育て」)を掲げて、家庭、学校、地域の共育(ともいく)に取り組んでいます。

その取り組みのひとつが通学合宿です。子どもたちが、親の手を離れたところで自分たちで考え、自分たちで行動することを学ぶ合宿です。

金武小学校の3~6年生25人が、9月16日(月・祝)~19日(木)の3泊4日で金武公民館に寝泊まりし、学校へ通学、食事の用意、勉強、もらい湯など、初めての体験でした。

公民館、人尊協、自治協議会を中心に実行委員会を組織して、ボランティアの学生7名を含む地域の方々、延べ100名の温かい支援を受け一定の成果をあげることができ、「絆」のある金武の町づくりにつながったのではと喜んでいます。

参加した子ども達からは、「学生ボランティアさんから将来の夢を聞いて感動した」「金武の町が一番好きになった」「もらい湯がわかった」「金武のやさしさが肌で感じることもできた」など、また、保護者からは「子ども達にいろいろな気づきがあり金武の「共育」を実感した」「不登校の子どもが参加し、その後時々ですが、登校するようになった」などの感想をいただきました。

来年の参加者が増えすぎるのでは?と今から悩んでいる地域の皆さんには笑顔がありました。



バーベキュー



レクリエーション



カレーづくり



子ども育成団体の再編 ~子ども会を全員加入に~

飯倉校区では、子どもの育成に関する組織「育みネットワーク」の中に、青少年育成会、子ども会育成連合会、わくわくランド委員会、子育てサロンの4団体がそれぞれ独立した特色ある活動を行っています。

しかし、行事・活動の重複による無駄や、各団体の役員や協力される保護者、町内の方々の負担が増加するなど、各団体の連携がとれていないことによる弊害が顕在化してきました。また、共働き世帯の増加・少子化等により、校区の子ども会参加者が減少し、子ども会の加入率が40%を割る町内も出てくるようになりました。

このような様々な地域の課題の改善を図るため、平成22年から、「育みネットワーク」に町内有志を交えて話し合いを続け、平成24年12月からは、子どもに関する新組織の発足を目指して、「育みネットワーク」4団体、自治協、町内会長、各町内子ども会役員、小学校PTA、公民館、校区子ども育成調査アドバイザーで「組織改善検討委員会」を立ち上げ検討を重ねてきました。そしてその結果として、来年度から4団体をついにまとめ、行事内容を一元化し、新組織「飯倉校区子ども部会」をスタートさせることが決まりました。

新組織は、時代に合った方法で飯倉校区の子ども達の健全な育成を願い、小・中学校、関連する諸団体・公民館と連携して各種の事業を行い、子ども達の主体的活動を支援することになります。

そして、最も大きな変更点は、平成26年度からは、各町内の「子ども会」は任意加入から全員加入に変更となり、校区内の子どもは漏れなく会員となり、町内会の活動や校区行事に安心して参加できるようになります。



里まち探検



組織改善検討委員会



高学年キャンプ



伝統文化を次の世代につなごう

箱崎伝統文化保存会(以下「保存会」)は、箱崎の地に残る伝統行事・文化を住民自らの手で次の世代に継承していくため平成14年に設立され、現在、自治協議会の構成団体として活動しています。

保存会は、平成14年に「箱崎わか倶楽部」、平成16年に「箱崎太鼓組」を組織、平成17年には子どもたちが参加する宮崎宮でのお籠り「乙子様(おとごさま)」を復活、平成22年には「箱崎校区節分祭」を創設しました。箱崎小学校では、毎年11月23日に「箱崎伝統文化公演会」を行っています。

保存会の活動により再び盛んになった行事として7月23日・24日に行っている「人形飾り」があります。これは子どもたちの無病息災等を祈願する祭りで、玄関先に人形やお地藏様の石を飾って箱庭「人形飾り」を作り、子どもたちが線香を持って地蔵堂や各家庭の人形飾りを訪ねてまわります。

保存会の活動は箱崎小学校と連携し、授業の中で人形飾りの人形製作や節分祭への参加などが行われています。また、子どもたちは保存会の各事業に楽しく参加しており、子どもたちの地域への愛着醸成や健やかな成長にも役立っています。

保存会では、今後も活動の広報や後継者づくりを進め、伝統行事・文化の継承により箱崎のまちをさらに活性化していきたいと考えています。



人形飾り



地域を流れる河川を自分たちで守っています!

平成22年度に、板付校区の町内会長さんから、板付北校区に、諸岡川の清掃を一緒に実施しないかとの呼びかけがあり、板付校区と板付北校区と一緒に、毎年2回、手分けして、河川敷の除草やゴミ回収等の清掃を行っています。

また、平成24年度からは、那珂古川でも、一緒に清掃を始めました。

このような取り組みにより、以前は自転車や建設機材などの不法投棄もありましたが、現在は、不法投棄も減少し、ゴミが少ない、きれいな川になりつつあります。今後もきれいな「川」、そして「まち」となるよう一致団結して活動を続けていきます。



平成25年度 諸岡川の清掃等の活動風景



三世代交流事業 「アーリーモーニング・ハイク」

毎年9月の日曜日、朝5時30分に子どもから高齢者まで100人を超える参加者が公民館近くの集合場所に集まってきます。6時にスタートして、「油山観音」折り返しの往復10キロの行程を3時間かけて歩きます。参加者同士が会話を交わしながら、野鳥のさえずりに耳を傾けたり、日頃見慣れた風景の中に新しい発見をしたりして楽しく歩きます。途中の夫婦石浄水場で「ラジオ体操」を、折り返し地点の「油山観音」ではレクリエーションを行います。そして、ゴールインした後、公民館で温かいおにぎりと豚汁の朝食をみんなでいただきます。毎回、気持ちのよい交流会となっています。

公民館事業として平成8年から始まったこの事業は、17年からは自治協議会が各種団体の協力を得て実施することとなり、今年で19回目となります。誰でも参加でき、地域のみんなが仲よくなれるこの事業、これからも新しい企画を取り入れながら、いつまでも続けていきたいと思っています。



みんな揃って、さあ出発!



ついに完成!草ヶ江“笑顔”音頭♪



▲笑顔音頭のCD

草ヶ江校区自治協議会は、今年度校区独自の音頭「草ヶ江“笑顔”音頭」を制作しました!

草ヶ江校区独自の音頭としては、昭和30年に当時の公民館長が歌詞を募集して制作を試みたものの、応募者が少なく一度断念していましたが、平成24年に草ヶ江校区自治協議会として再度制作を企画しました。歌詞を募集したところ、市内外から11編の応募があり、自治協議会と作曲者で選考し、今日できあがりしました。

歌詞は、草ヶ江の故郷が思い起こされる様に1番から4番にそれぞれ草香江、六本松、谷地区の特徴を取り入れ、各節末に「ワッハッハ」と笑いを取り入れ校区の絆を結ぶ音頭にしたことから、草ヶ江“笑顔”音頭となりました。毎年10月に行われる恒例の「まつり草ヶ江」に間に合うよう歌と踊りを特訓し、昨年10月にお披露目しました。



▲まつり草ヶ江で“笑顔”音頭を踊っている様子

校区自治協議会の宮原会長は、「地域の皆さんにも浸透してきつつあり、イベント毎にみんなで踊っています。草ヶ江校区もこの音頭のように笑顔があふれる地域になってほしい」と話しています。



みんなで作った校区の愛唱歌



田島校区では、公民館が現在の地に移転されてから30年を迎えたことに伴い、その記念事業を行うため校区自治協議会会長を委員長として30周年実行委員会を立ち上げました。そして、記念事業として、式典開催の他に、30周年記念誌「たしま」の発刊、「校区の歌」の制作を行いました。

この歌の制作では、校区の一体感や郷土愛を育むため、地域住民から歌詞を募り、田島校区を取り巻く自然や季節についての言葉などを取り入れた校区の歌「ここがふるさと」ができあがりしました。「あの坂をのぼってくだってまわり道」「夏の賑わい神楽舞」等、校区ならではの歌詞となっています。そして、歌の完成と同時にコーラス隊が結成されました。このコーラス隊は、いつ入ってきてもいい、いつ参加してもいいという自由な会とすることで、小学校1年生から70歳代までの方が参加され、式典をはじめ、いろんな催しで発表しています。

この事業を通じて、地域の中にはいろいろな知識を持った人がいることがわかり、地域に埋まっていたみんなの力をつなげることができました。

今後は、校区の歌「ここがふるさと」を各種地域事業など、様々な機会を通じ活用し、心のふるさととして「田島」を思い、若者男女どの世代もが一緒に口ずさめる校区の愛唱歌となることを目指しています。



●福岡市コミュニティ通信は福岡市のホームページに掲載しています。

福岡市コミュニティ通信

検索

●J:COMでは福岡の地域情報を発信しています。

ふくおかまいCOM

検索

お問い合わせ
地域の情報などは
各区役所まで

東 区役所	地域支援課	☎092-645-1041	FAX:092-645-1042
博多区役所	地域支援課	☎092-419-1048	FAX:092-434-0053
中央区役所	地域振興・支援課	☎092-718-1062	FAX:092-714-2141
南区役所	地域支援課	☎092-559-5072	FAX:092-562-3824
城南区役所	地域支援課	☎092-833-4063	FAX:092-822-2142
早良区役所	地域支援課	☎092-833-4416	FAX:092-851-2680
西 区役所	地域支援課	☎092-895-7036	FAX:092-882-2137